

# 第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要

資料編：第1分冊 「音声・音韻」編

統計数理研究所・国立国語研究所

2014年3月

## は し が き

本報告書は、国立国語研究所（以下、国語研）と統計数理研究所（以下、統数研）が共同プロジェクトとして2011年度を中心に遂行した「第4回鶴岡市における言語調査」の幾つかのうち、「ランダムサンプリング調査」の報告書第1分冊である。

「鶴岡市における言語調査」は共通語化の過程がテーマとなっており、その第1回は1950年に山形県鶴岡市で実施され、以降第2回1971年、第3回1991年と、ほぼ20年間隔で実施されてきた。第1回調査より二つの研究所の緊密な協力関係の下で企画・実施され、それ以来、両研究所の協力関係は60年以上にわたって継続していることになる。

1950年頃は、戦後の日本における統計的無作為標本抽出法に基づく社会調査・世論調査の黎明期で、第1回調査の報告書「地域社会における言語生活」を見ると、統数研からは林知己夫や西平重喜などが参加し、サンプリングから調査項目の選定まで、調査設計全体に深く関与したことがわかる。国語研からは柴田武や金田一春彦、野元菊雄といったその後の国語学研究を支える研究者たちが参与している。この綿密な準備・実施の記録は、統計学にもとづく実践調査の視点からも貴重な資料となっている。

今日振り返ってみると、戦後の米国政府の「日本語のローマ字化」案から日本語を救ったとされる「日本人の読み書き能力調査」（1948年）から、統数研によって60年以上継続されている「日本人の国民性」第1回調査（1953年）の約5年の間に、岡崎敬語調査（1953年）を含め、国語研がその後「定点経年調査」と呼ぶことになる各種の言語調査の立ち上げに統数研の研究者たちが情熱を持って協力してきたことが認められる。統計的ランダムサンプリングに基づく社会調査のスタイルの基礎が築き上げられたこの時期の各調査は、戦後社会調査史の重要な1ページを飾るものである。この協力関係の伝統は、第4回鶴岡調査を遂行する中で、2011年10月5日に正式に両研究所間の「研究・教育上の連携に関する基本協定」を締結する形に昇華させることができた。

同調査プロジェクトの中の「ランダムサンプリング調査」を統数研が主として担当したことから、本報告書では統数研の名前が先に表記されているが、どちらが主導ということではなく、両研究所の研究者がまさに手を携えて作り上げてきた調査の最新の記録である。鶴岡調査は、この他に主に国語研が担当した「パネル調査」や「発展的調査」など、更にいくつかのプロジェクトで構成されている。今後発行される予定のそれらの報告書と共に、社会言語学的調査に関わる全ての方の参考になれば幸いである。

このプロジェクトは、市民の皆様をはじめ、市役所、教育委員会、図書館、地元の報道各社等、鶴岡市の長年にわたる全面的な御支援なくしては成立しなかった。多数の方々のすべての御名前を挙げることはできないが、御支援いただいた関係各方面に改めてお礼を申し上げたい。また、この世界でも稀な社会言語学の長期継続調査プロジェクトが、今後も継続され、その成果が広い世界で活用され続けていくことを望むものである。

2014年3月

統計数理研究所  
調査科学研究センター長 吉野諒三

※本報告書の書誌的情報は以下の通りである：

編 集	：	「鶴岡市における言語調査」研究グループ
タイトル	：	第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング 調査の概要 資料編：第1分冊「音声・音韻」編
発 行	：	統計数理研究所・国立国語研究所 〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3      〒190-8561 東京都 東京都立川市緑町 10-2
発 行 日	：	2014 年 3 月 31 日

※「鶴岡市における言語調査」研究グループメンバー

第4回鶴岡市における言語調査の組織・体制の全体については第1章3節を参照。

組織の中で、特に下記の10名は、調査の企画・準備・実施・集計・成果報告・報告書作成の諸段階でそれぞれに貢献が大きかった中心的なメンバーであり、これらの10名をまとめて、「鶴岡市における言語調査」研究グループと呼んでいる。

阿部貴人<sup>\*1,\*2</sup>・横山詔一<sup>\*2</sup>・米田正人<sup>\*1,\*2</sup>（以上国立国語研究所）

中村 隆<sup>\*2</sup>・前田忠彦<sup>\*1,\*2</sup>・吉野諒三（以上統計数理研究所）

井上史雄（明海大学）

佐藤和之（弘前大学），

佐藤亮一（国立国語研究所名誉所員），

水野義道（京都工芸繊維大学），

（所属は2011年実査当時。）

<sup>\*1</sup>：本報告書の編集者

<sup>\*2</sup>：実査本部メンバー：実査準備から結果報告までの両研究所の事務局メンバー

# 目 次

はしがき

目次

事項目次

<b>1. 調査研究の概要</b>	<b>9</b>
1. 調査研究の目的	11
2. 調査の実施	11
2.1 継続調査	11
2.2 発展的調査	15
3. 調査研究の組織	15
3.1 研究グループの構成	15
3.2 専門調査会社への委託	16
4. 調査の方法と内容	16
4.1 調査の方法	16
4.2 面接調査の調査項目	16
4.3 言語生活調査票の項目	18
4.4 被調査者の属性	19
5. 報告書の編集方針と図表の見方	20
6. 報告会の開催	22
<b>2. 音声項目（継続項目）</b>	<b>23</b>
1. 単音項目	25
1.1. 単音項目の内容	25
1.2. 単音項目全体の共通語化	26
1.3. 単音の観点別の共通語化	27
1.3.1. 子音	27
1.3.1.1. 唇音性Ⅰ（合拗音化）	27
スイカ（西瓜）〔216.〕	28
カヨウビ（火曜日）〔217.〕	29
1.3.1.2. 唇音性Ⅱ（両唇音化）	30
ヒゲ（髭）〔202.〕	31
ヘビ（蛇）〔208.〕	32
ヒヤク（百）〔218.〕	33
1.3.1.3. 口蓋性（口蓋音化）	34
セナカ（背中）〔203.〕	35
アセ（汗）〔204.〕	36
ゼイムシヨ（税務署）〔219.〕	37

1.3.1.4. 有声性（有声音化）	38
カ <u>キ</u> （柿）〔214.〕	39
ネ <u>コ</u> （猫）〔207.〕	40
ハ <u>タ</u> （旗）〔210.〕	41
ハ <u>チ</u> （蜂）〔205.〕	42
ク <u>チ</u> （口）〔201.〕	43
マ <u>ツ</u> （松）〔215.〕	44
ク <u>ツ</u> （靴）〔213.〕	45
ハ <u>ト</u> （鳩）〔206.〕	46
1.3.1.5. 鼻音性（鼻音化）	47
ス <u>ズ</u> （鈴）〔211.〕	48
マ <u>ド</u> （窓）〔209.〕	49
オ <u>ビ</u> （帯）〔212.〕	50
1.3.2. 母音	51
1.3.2.1. 中舌音Ⅰ（ウ段音の中舌化）	51
キ <u>ツ</u> ネ（狐）〔230.〕	52
カ <u>ラ</u> ス（烏）〔228.〕	53
ス <u>ミ</u> （墨）〔227.〕	54
チ <u>ズ</u> （地図）〔225.〕	55
1.3.2.2. 中舌音Ⅱ（イ段音の中舌化）	56
シ <u>マ</u> （島）〔226.〕	57
ウ <u>チ</u> ワ（団扇）〔231.〕	58
チ <u>ジ</u> （知事）〔224.〕	59
カ <u>ラ</u> シ（辛子）〔229.〕	60
1.3.2.3. イとエⅠ（エの狭母音化）	61
エ <u>ン</u> トツ（煙突）〔223.〕	62
エ <u>キ</u> （駅）〔221.〕	63
1.3.2.4. イとエⅡ（イの広母音化）	64
イ <u>ト</u> （糸）〔222.〕	65
イ <u>キ</u> （息）〔220.〕	66
2. アクセント項目	67
2.1. アクセント得点	68
2.2. アクセント項目	69
セナカ（背中）〔203a.〕	69
ネコ（猫）〔207a.〕	70
ハタ（旗）〔210a.〕	71
カラス（烏）〔228a.〕	72
ウチワ（団扇）〔231a.〕	73

3. 集計表 .....	75
1. 音声（単音）関連項目 .....	77
2. アクセント項目 .....	87
4. 資料 .....	89
1 調査書類 .....	91
面接調査票 .....	91
提示リスト .....	103
ガイドライン＋承諾書 .....	113
ISM 調査員記録簿 .....	115
言語生活調査票 .....	116
ISM 挨拶状 .....	123
NRC 挨拶状 .....	125
国語研紹介パンフレット .....	127
統数研紹介パンフレット .....	129
調査要領(NRC 版) .....	131
2 「第 4 回鶴岡市における言語調査」結果の概要 .....	139

## 事 項 目 次

### 単音項目

音声得点 .....	26
<b>唇音性 I</b>	
非唇音（共通語）率 I .....	27
スイ <u>カ</u> （西瓜）〔216.〕 .....	28
<u>カ</u> ヨウビ（火曜日）〔217.〕 .....	29
<b>唇音性 II</b>	
非唇音（共通語）率 II .....	30
<u>ヒ</u> ゲ（髭）〔202.〕 .....	31
<u>ヘ</u> ビ（蛇）〔208.〕 .....	32
<u>ヒ</u> ャク（百）〔218.〕 .....	33
<b>口蓋性</b>	
非口蓋（共通語）率 .....	34
<u>セ</u> ナカ（背中）〔203.〕 .....	35
<u>ア</u> セ（汗）〔204.〕 .....	36
<u>ゼ</u> イムシヨ（税務署）〔219.〕 .....	37
<b>有声性</b>	
非有声（共通語）率 .....	38
<u>カ</u> キ（柿）〔214.〕 .....	39
<u>ネ</u> コ（猫）〔207.〕 .....	40
<u>ハ</u> タ（旗）〔210.〕 .....	41
<u>ハ</u> チ（蜂）〔205.〕 .....	42
<u>ク</u> チ（口）〔201.〕 .....	43
<u>マ</u> ツ（松）〔215.〕 .....	44
<u>ク</u> ツ（靴）〔213.〕 .....	45
<u>ハ</u> ト（鳩）〔206.〕 .....	46
<b>鼻音化</b>	
非鼻音（共通語）率 .....	47
<u>ス</u> ズ（鈴）〔211.〕 .....	48
<u>マ</u> ド（窓）〔209.〕 .....	49
<u>オ</u> ビ（帯）〔212.〕 .....	50
<b>中舌音 I</b>	
非中舌（共通語）率 I .....	51
キ <u>ツ</u> ネ（狐）〔230.〕 .....	52
カ <u>ラ</u> ス（烏）〔228.〕 .....	53
<u>ス</u> ミ（墨）〔227.〕 .....	54
チ <u>ズ</u> （地図）〔225.〕 .....	55

## 中舌音Ⅱ

非中舌（共通語）率Ⅱ .....	56
<u>シ</u> マ（島）〔226.〕 .....	57
ウ <u>チ</u> ワ（団扇）〔231.〕 .....	58
チ <u>ジ</u> （知事）〔224.〕 .....	59
カラ <u>シ</u> （辛子）〔229.〕 .....	60

## イとエⅠ

非狭母音（共通語）率 .....	61
<u>エ</u> ントツ（煙突）〔223.〕 .....	62
<u>エ</u> キ（駅）〔221.〕 .....	63

## イとエⅡ

非広母音（共通語）率 .....	64
<u>イ</u> ト（糸）〔222.〕 .....	65
<u>イ</u> キ（息）〔220.〕 .....	66

## アクセント項目

アクセント得点 .....	68
セナカ（背中）〔203a.〕 .....	69
ネコ（猫）〔207a.〕 .....	70
ハタ（旗）〔210a.〕 .....	71
カラス（烏）〔228a.〕 .....	72
ウチワ（団扇）〔231a.〕 .....	73



## 第 1 章

# 調査研究の概要

## 1. 調査研究の目的

統計数理研究所と国立国語研究所は、1950（昭和 25）年、1971（昭和 46）年、1991（平成 3）年の 3 回にわたって、文部省科学研究費補助金の交付を受け、山形県鶴岡市において地域社会における方言と共通語の関係を探ることを切り口に、言語生活の実態を把握する調査を行った。それにより、戦後 40 年間の急激な社会変化の中で方言と共通語の関係が変化していく過程について、その実態や社会的要因との関係を明らかにした。

本調査研究は、過去 3 回の成果を引き継ぎ、2011 年度に鶴岡市においてほぼ 20 年間隔となる 4 回目の調査を実施し、戦後 60 年間におよび方言と共通語の関係の変化過程についての客観的資料を得た。さらに翌 2012 年度には、方言と共通語の関係把握の前提となる伝統的方言の実態記述を目的とした「発展的調査」を実施した。これらの調査研究は、「第 4 回鶴岡市における言語調査」として統計数理研究所調査科学研究センターと国立国語研究所が共同で実施した。本報告書は 2011 年度に実施した調査（以下、継続調査という）のうち、統計数理研究所が中心となって実施したランダムサンプリング調査の結果について報告するものである。両研究所による第 4 回調査の報告書は、下記の通り、本報告書を含めて 5 冊を刊行する予定である。

- (1) 「第 4 回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」  
（資料編：第 1 分冊 「音声・音韻」編） 本報告書
- (2) 「第 4 回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」  
（資料編：第 2 分冊 「語彙・文法、言語生活」編） 2014 年度刊行予定。
- (3) 「地域社会の言語生活 鶴岡における 20 年間隔 4 回の継続調査」  
※ (1) (2) の分析編 2014 年度刊行予定。
- (4) 「第 4 回鶴岡市における言語調査 パネル調査」(仮称) 2015 年度刊行予定。
- (5) 「第 4 回鶴岡市における言語調査 発展的調査」(仮称) 2015 年度刊行予定。

## 2. 調査の実施

### 2.1. 継続調査（ランダムサンプリング調査、パネル調査）（2011 年度）

鶴岡市において、60 年間にわたる方言と共通語の関係変化を把握するために、過去 3 回と比較できるかたちでの継続調査を 2011 年度に実施した。継続調査は、鶴岡市民（＝鶴岡市という地域社会）の言語生活の変化を探索【ランダムサンプリング調査】（以下、RS 調査）と、鶴岡市で生活する個々人の言語変化を探索【パネル調査】に大別される。

#### (1) RS 調査の対象者数と協力者数

住民基本台帳から系統抽出法（等間隔抽出）で 52 人おきに 700 名を選定し、氏名、住所、性、生年月日の情報を得た。サンプリングの対象者は、平成 23 年 11 月 1 日現在において、下記の調査地域に在住する日本国籍を持つ 15 歳以上 80 歳未満の男女である。第 1 回～第 3 回調査は 15 歳以上 70 歳未満であったが、第 4 回調査は 80 歳未満に対象年齢層を拡大した。その理由は、前回調査で既に多くの項目で共通語化率が 100%に近付いており、対象年齢層を拡大しなければ今回調査では方言の音声の回答が極端に少なくなる懸念があったためである。

調査ではこの計画サンプル 700 名について、1 割（70 名）を統計数理研究所の所員お

よび全国大学の研究者・大学院生が担当し、残りの9割（630名）を専門調査会社に委託して調査にあたった。

調査対象地域に該当する町名は次の通りである。

表 1 調査地域一覧

学区	町名
第 1 学区	本町二丁目，三和町，睦町，三光町，双葉町，文園町，千石町，長者町，城南町，小真木原町
第 2 学区	本町一丁目，昭和町，大東町，神明町，苗津町，日出一丁目，日出二丁目，東原町
第 3 学区	錦町，新形町，上畑町，山王町，泉町，若葉町，家中新町，馬場町，東新斎町，城北町
第 4 学区	本町三丁目，陽光町，青柳町，美原町，稻生一丁目
第 5 学区	道形町，大宝寺町，末広町，日吉町，宝町，鳥居町，切添町，朝賜町，宝田二丁目
第 6 学区	みどり町，新海町，大西町，西新斎町，砂田町，淀川町，道田町

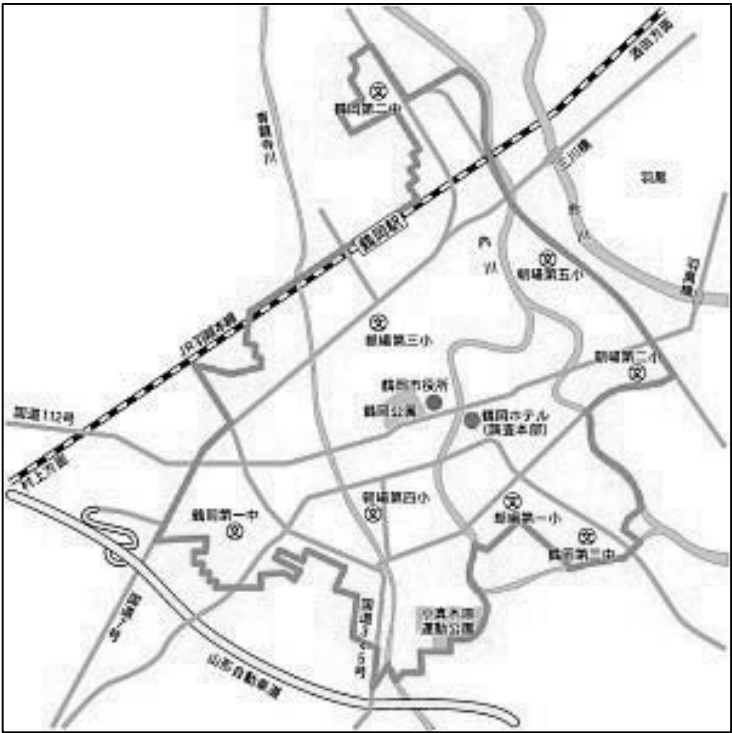


図 1 調査対象地域

なお，上記地域は第 1 回調査当時とは町名が異なっているが，その範囲は4回の調査を通してほぼ同じである。

(2) パネル調査の対象者数と協力者数

パネルサンプルの追跡に関しては鶴岡市役所の全面的な協力を得ることができた。過去3回の調査協力者に関する氏名，住所，性，生年月日等の一覧リストを作成し，予め市役

所市民課に所在確認を依頼することが許された。その結果、437 名の市内在住者が確認できた。鶴岡市における個人の言語変化を追う目的から、市外に転出した方については追跡を行わなかった。

### (3) 実査の時期と種類

統計数理研究所、国立国語研究所、全国の大学の研究者による RS 調査・パネル調査の実査は 2011 年 11 月 11 日（金）～12 月 5 日（月）の 25 日間（以下、本調査という）で行われた。また、専門調査会社の実査は同年 11 月 10 日（木）～11 月 28 日（月）の 19 日間で実施された。

上記の期間に調査できなかった対象者もできるだけ調査して回収率を高めるため、2012 年 1 月 27 日（金）～2 月 15 日（水）の 20 日間で研究者・大学院生による補充調査を行った。

### (4) 完了の状況

RS 調査は本調査 430 名、補充調査 36 名の合計 466 名から回答を得ることができた（回収率 66.6%）。パネル調査は本調査 282 名、補充調査 51 名の合計 333 名から回答を得た（回収率 76.2%）。

RS 調査のデータを整備したところ、専門調査会社の調査員が実施した調査のうち、語彙・文法に関する回答に確認が必要であると思われるケースがあった。RS 調査の調査完了者の一部に対して再度確認のための調査を依頼し、研究者が確認を行った（以下、補完調査という）。補完調査は 2013 年 1 月 23 日（水）～1 月 28 日（月）までの 6 日間と、同年 2 月 10 日（日）～2 月 24 日（日）までの 15 日間の合計 21 日間で行った。今後の分析で使用する語彙・文法のデータは、研究者が補完調査で確認したデータとする。

4 回の調査の調査完了は図 2 のようになる。RS 調査では毎回 400 名以上に調査にご協力いただいた。第 4 回調査のパネル調査では、第 1 回調査から 4 回連続でご協力くださった方が 4 名、第 2 回調査から 3 回連続でご協力くださった方が 130 名、第 3 回調査から 2 回連続でご協力くださった方が 199 名であった。第 1 回調査から 4 回連続でご協力くださった方については、図 3 のように、60 年間にわたる個人の言語変化を追うことができる。

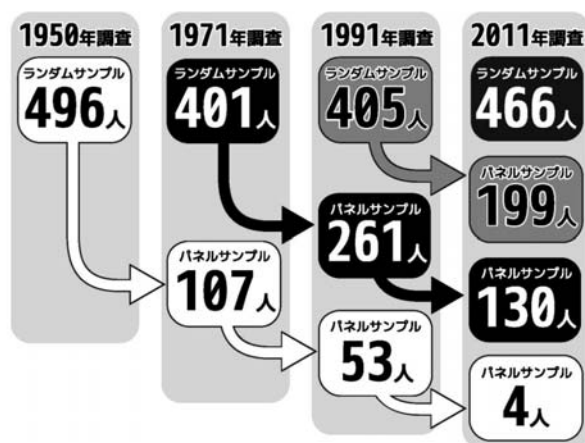


図 2 鶴岡調査の調査デザイン(調査完了)

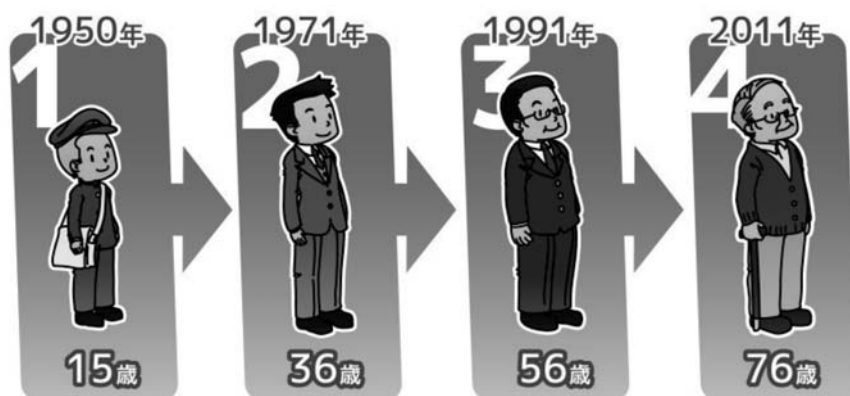


図 3 パネルサンプルのイメージ

なお、RS 調査の回収不能の理由は以下の通りである。パネル調査の回収不能については「第 4 回鶴岡市における言語調査 パネル調査」（仮称）で詳しく報告する。

表 2 調査不能の理由

年齢層	男性			女性			計
	一時不在	拒否	その他	一時不在	拒否	その他	
15－19 歳	1	2	3	4	5	3	18
20－29 歳	7	4	9	10	4	4	38
30－39 歳	9	12	2	8	10	4	45
40－49 歳	8	9	6	6	5	2	36
50－59 歳	6	14	6	5	5	1	37
60－69 歳	5	8	1	3	8	2	27
70－79 歳	1	10	8	1	7	6	33
計	37	59	35	37	44	22	234
(比率)	28%	45%	27%	36%	43%	21%	

## 言語調査にご協力ください

国立国語研究所と統計数理研究所は、昭和25年、46年、平成3年に続き、鶴岡市で4回目の言語調査を行います。

同一地域で継続的に実施していく調査を「定点経年調査」と呼んでいます。60年間にわたる定点経年調査は、世界に類を見ない、学術的に貴重な調査です。今回の第4回調査を実施すれば、世界で最も長期間にわたって続けた調査となります。

調査は、市民約1,200人を対象に、11月11日(金)から12月5日(月)までの間、両研究所の所員・調査員（一部、委託先の調査会社の調査員）が直接お会いして行います。訪問先の市民の皆さんには、事前に依頼状をお送りします。質問内容は簡単なものです。市民の皆さんのご協力をお願いします。

▶▷問合せ◀◀

国立国語研究所 鶴岡調査事務局

〒190 - 8561東京都立川市緑町10 - 2 ☎042 - 540 - 4630

または市役所本所総務課 ☎内線313へ

RS 調査やパネル調査に対して上記のような高い回収率が得られた要因としては、過去の調査と同様に、鶴岡市役所の協力を得られたことが大きい。調査協力者の選定、市の広報誌による調査協力依頼（図 4）、ことばの文化講演会の開催等、鶴岡市役所、同市図書館や同市中央公民館をはじめとする教育委員会からは、第 4 回調査およびその前後でさまざまなかたちでのご協力をいただいた。この場を借

図 4 「広報つるおか」2011 年 11 月 1 日号掲載

りて改めて感謝の意を表したい。

## 2.2. 発展的調査（2012 年度）

俚言の馴染み度とアクセント型との関係を探る調査項目を中心に、格助詞サの用法の広がり、類別語彙のアクセント、テンス・アスペクト、可能表現についての記述的調査を行った。調査は 2012 年 9 月 3 日（月）～9 日（日）までの 7 日間と、同年 9 月 18 日（火）～21 日（金）までの 4 日間の合計 11 日間で実施した。

詳細な報告は、2015 年度刊行予定の「第 4 回鶴岡市における言語調査 発展的調査」（仮称）に譲る。

## 3. 調査研究の組織

### 3.1. 研究グループの構成

この調査研究には、以下に示す通り、統計数理研究所員 7 名、国立国語研究所員 12 名の他に、全国大学の研究者 15 名など、合計 34 名が参加した（所属は調査当時のもの）。

吉野諒三、中村隆、前田忠彦、尾崎幸謙、伊藤恵子、中川原千織、長久保結子（以上、統計数理研究所）、横山詔一、井上文子、朝日祥之、高田智和、野山広、鎌水兼貴、阿部貴人、米田純子、磯部よし子、横山由紀子、瀧澤秀一、中野敦子、柳村裕（以上、国立国語研究所）

佐藤亮一、米田正人、杉戸清樹（以上、国立国語研究所名誉所員）、井上史雄（明海大学）、佐藤和之（弘前大学）、水野義道（京都工芸繊維大学）、松田謙次郎（神戸松蔭女子学院大学）、村上敬一（神戸松蔭女子学院大学）、尾崎喜光（ノートルダム清心女子大学）、西尾純二（大阪府立大学）、松丸真大（滋賀大学）、梁敏鎬（韓国、全州大学校、人文総合研究所）、加藤大鶴（東北文教大学）、大山達也（東北大学大学院生）、堀司朗（元・鶴岡市立図書館）。

各調査に調査員として参加したメンバーは下記の通りである。

#### **RS 調査**

##### 本調査（2011 年度）

前田忠彦、尾崎幸謙、佐藤亮一、米田正人、井上史雄、佐藤和之、村上敬一、阿部貴人

専門調査会社の調査員 17 名

##### 補充調査（2011 年度）

前田忠彦、米田正人、水野義道、村上敬一、梁敏鎬、大山達也、阿部貴人

##### 補完調査（2012 年度）

米田正人、水野義道、阿部貴人

#### **パネル調査**

##### 本調査（2011 年度）

前田忠彦、尾崎幸謙、横山詔一、井上文子、高田智和、野山広、鎌水兼貴、阿部貴人、佐藤亮一、米田正人、杉戸清樹、井上史雄、佐藤和之、水野義道、村上敬一、西尾純二、松丸真大

### 補充調査（2011 年度）

前田忠彦，米田正人，水野義道，村上敬一，梁敏鎬，大山達也，阿部貴人

### 発展的調査（2012 年度）

佐藤亮一，米田正人，佐藤和之，水野義道，加藤大鶴，阿部貴人

## 3.2. 専門調査会社への委託

先に述べたように，RS 調査は計画サンプル 700 名のうち，1 割（70 名）を統計数理研究所および全国の大学の研究者・大学院生が担当し，残りの 9 割（630 名）を専門調査会社に委託して調査にあたった。調査員 17 名の出身地（5 歳～13 歳までの間で最も長く住んだところ）は下記の通りである。

山形県 11 名，秋田県 4 名，東京都 1 名（専門調査会社の調査本部も担当），沖縄県 1 名  
専門調査会社の調査本部を担当する 1 名を除き，山形県内，秋田県に在住する者である。  
各種社会調査の調査員としての経験を有する。

## 4. 継続調査の調査項目

### 4.1. 調査の方法

RS 調査，パネル調査ともに，調査員による個別訪問面接聴取法をとった。一部の項目については，調査に先立つ調査依頼状の送付時に同封される調査票に回答者が記入する自記式調査（以下，言語生活調査）を併用した。言語生活調査票は面接時に回収した。

調査項目は RS 調査，パネル調査ともに共通である。

面接調査時には，音声学的な調査項目への対応のため，面接のプロセス全体を IC レコーダーで録音した。調査後，国立国語研究所の研究員が聴き取り，データを整備した。

研究者および専門調査会社の調査員に対しては，調査に先立って，調査マニュアル・講習ビデオを使って講習会を実施した。専門調査会社の調査員に配布した調査マニュアル（調査要領）については本報告書の巻末の資料を参照されたい。

### 4.2. 面接調査の調査項目

RS 調査，パネル調査の面接調査の項目は以下の通りである。〔 〕内の数字は質問番号である。ワーディングや調査で用いた提示リストについては巻末の調査票，提示リストを参照されたい。

#### 単音項目

唇音性 I（合拗音化）：カヨウビ（火曜日）〔217.〕／スイカ（西瓜）〔216.〕  
唇音性 II（両唇音化）：ハビ（蛇）〔208.〕／ヒャク（百）〔218.〕／ヒゲ（髭）〔202.〕  
口蓋性（口蓋音化）：ゼイムショ（税務署）〔219.〕／セナカ（背中）〔203.〕／  
アセ（汗）〔204.〕  
有声性（有声音化）：マツ（松）〔215.〕／カキ（柿）〔214.〕／クツ（靴）〔213.〕  
／ハト（鳩）〔206.〕／ハタ（旗）〔210.〕／ハチ（蜂）〔205.〕  
／クチ（口）〔201.〕／ネコ（猫）〔207.〕  
鼻音性（鼻音化）：オビ（帯）〔212.〕／マド（窓）〔209.〕／スズ（鈴）〔211.〕

中舌性Ⅰ（ウ段音の中舌化）：キツネ（狐）〔230.〕／カラス（鳥）〔228.〕／  
スミ（墨）〔227.〕／チズ（地図）〔225.〕

中舌性Ⅱ（イ段音の中舌化）：シマ（島）〔226.〕／ウチワ（団扇）〔231.〕／  
チジ（知事）〔224.〕／カラシ（辛子）〔229.〕

イとエⅠ（エの狭母音化）：エントツ（煙突）〔223.〕／エキ（駅）〔221.〕

イとエⅡ（イの広母音化）：イト（糸）〔222.〕／イキ（息）〔220.〕

以上の31項目が過去3回の調査で取りあげてきた単音項目であり、今回もこの31項目を引き継いだ。また、第3回調査で加えたイ（胃）〔301.〕、エ（絵）〔302.〕、カガミ（鏡）〔303.〕の3項目も調査した。

さらに、共通語運用能力と方言運用能力、カジュアルな場面での言語使用などを把握するために、場面的な設定を加えた新規項目も実施した（巻末の調査票を参照されたい）。

#### アクセント項目

上記の単音項目のうち、セナカ（背中）〔203a.〕、ネコ（猫）〔207a.〕、ハタ（旗）〔210a.〕、カラス（鳥）〔228a.〕、ウチワ（団扇）〔231a.〕の5項目が過去3回の調査で取りあげられている。今回もこの5項目を対象とした。

#### 語彙項目

過去3回の調査で実施してきた「いつも」〔241.〕、「留守番」〔242.〕、「いらっしゃい」〔243.〕、「もう」〔244.〕、「おどろいた」〔245.〕、「はずかしい」〔246.〕の6語に加え、第2回、第3回調査で実施した「あげる」〔247.〕、「ツララ」〔248.〕、「コード」〔249.〕の3語について調査した。

#### 文法項目

過去3回の調査で実施してきた下記の調査項目について調査した（分類名は第1回調査に従う）。

動詞の活用に関する項目：「起きろ」〔261.〕／「勉強しないで」〔267.〕

人称代名詞に関する項目：「わたくしたち」〔262.〕

格助詞に関する項目：「見に行く」〔263.〕

接続助詞に関する項目：「行くから」〔264.〕／「行くけれども」〔265.〕／  
「静かなら」〔268.〕

助動詞に関する項目：「強かったなあ」〔266.〕

これに加えて、第2回、第3回調査で実施した「あなたを」〔269.〕、「そうです」〔270.〕、「かいたのか」〔271.〕の3項目も調査した。

#### その他の項目

フェイスシート（属性）項目として、調査協力者の居住歴、本籍地、父親・母親・配偶者の出身地、生活範囲に関する項目、職業、学歴、役員の経験など、10項目ほどについて調査した。なお、第3回調査まで実施していた言語意識に関する調査項

目は、今回調査では言語生活調査票（自記式調査）に移動した。

#### 4.3. 言語生活調査の調査項目

言語生活調査（自記式調査）は第3回調査で初めて実施されており、第1回、第2回調査までは実施されていない。今回調査で実施した調査項目は下記の通りである（巻末の言語生活調査票も参照されたい）。なお、言語生活調査の結果については、2014年度刊行予定の「第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」（資料編：第2分冊「語彙・文法、言語生活」編）で報告する。

##### 「昨日1日」でことばを使ってしたこと

第3回調査でも実施した以下の項目。

- ☐ 家の中でのやりとり（問1）
- ☐ 家族との雑談の時間帯（問2）
- ☐ 職場や学校や喫茶店などの家以外の場所で話した相手（問3）
- ☐ 家以外の場所で話した内容（問4）
- ☐ 聞いたもの（問5）
- ☐ 聞いた内容（問6）
- ☐ 読んだもの（問7）
- ☐ 書いたもの（問8, 9）
- ☐ 書くときに使った筆記用具・道具（問10）

なお、時代の変化に合わせて、「パソコンのEメール」や「携帯電話・携帯端末」といった選択肢を追加したことがある。

##### 言語意識・言語生活に関する項目

第3回調査でも実施した以下の項目。

- ☐ 近所の人とおしゃべりするのは好きか（問11）
- ☐ 集会や会議などに出席するのは好きか（問12）
- ☐ 人前で話ができるほうか（問13）
- ☐ 他人と話をするときに自分のことばが気になるか（問14）
- ☐ 旅先で見知らぬ人に気軽に話しかけるか（問15）
- ☐ 旅先で見知らぬ人に話しかけられたら気軽に応じるか（問16）
- ☐ 近所の人とどの程度つきあいがあるか（問17）
- ☐ 「標準語で話すと話の真実味が少ない」という意見に賛成か（問18）
- ☐ 「方言まるだしでも話が通じればよい」という意見に賛成か（問19）
- ☐ 「小中学校で方言のよさを見直す教育をすべきだ」という意見に賛成か（問20）
- ☐ 日記や友人に出す手紙を書くときに方言が混ざるか（問21）
- ☐ 庄内が好きか（問23）
- ☐ この地方に伝わる文化を後世に残すべきだと思うか（問24）
- ☐ 標準語の手本は何だったか（問25）
- ☐ 使っていることばで出身地を当てられたらどのように感じるか（問26）
- ☐ ことばに関係なく出身地を知られたらどのように感じるか（問27）

- ☐ 自分の子どもや孫にはどんなことばを使ってほしいか（問 28）

なお、ブログや友人に出す E メールを書くときに方言が混ざるか否かについて、今回、新たに追加して調査した（問 22）。

#### 言語意識・言語生活に関する項目（面接調査から移動した項目）

第 3 回調査までは面接調査で実施した項目のうち、下記については言語生活調査に移して調査した。

- ☐ 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいとしたらどこに住みたいか（問 29）
- ☐ 東京に親戚はいるか（問 30）
- ☐ 東京に住んでいる親戚とどの程度つきあいがあるか（問 31）
- ☐ テレビの視聴時間（問 32）
- ☐ ラジオの聴取時間（問 33）
- ☐ テレビ・ラジオのニュースでは庄内・鶴岡のことを取りあげたニュースと東京・全国のことを取りあげたニュースのどちらが好きか（問 34）
- ☐ 新聞をどの程度読むか（問 35）
- ☐ 読む新聞は何か（問 36）
- ☐ 「鶴岡には長い間につくりあげてきた生活の仕方（暮らし方）がある。これからそれに従っていけばよい」と「もっと新しい生活の仕方を積極的にとり入れて、生活をどんどん合理的にしてゆく必要がある」のどちらに賛成か（問 37）
- ☐ 「鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。鶴岡弁はできるだけなくしてしまったほうがよい」と「鶴岡弁は鶴岡の大事な文化だから、できるだけ鶴岡弁を使い続けたほうがよい」のどちらに賛成か（問 41）
- ☐ 家族、近所の顔見知りの人、鶴岡の人で顔見知りでない人、観光客などと話をするとき、どんなことばを使うか（問 38）
- ☐ 鶴岡弁に対するイメージ（問 39）
- ☐ 東京弁に対するイメージ（問 40）

#### その他

方言の使用は同居する家族の影響も大きいと考えられる。今回調査では、同居する人について尋ねる項目（問 42）を新たに加えた。

#### 4.4. 調査協力者の属性

本報告書では性、年齢、学歴の 3 属性のみを扱う。職業、居住歴といった他の属性については、「第 4 回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」（資料編：第 2 分冊「語彙・文法、言語生活」編）で報告する。

性、年齢、学歴について、4 回の調査の調査協力者を比較したものが表 3 である。

表 3 調査協力者の性・年齢・学歴の比率

	1950 年 第 1 回	1971 年 第 2 回	1991 年 第 3 回	2011 年 第 4 回
全体	496 名	401 名	405 名	466 名
	%	%	%	%
男	42.7	44.9	44.7	42.5
女	57.3	55.1	55.3	57.5
15～19 歳	10.1	6.5	11.6	4.9
20～29 歳	17.5	15.7	12.6	6.4
30～39 歳	27.2	24.9	21.0	11.4
40～49 歳	20.2	23.4	18.3	12.0
50～59 歳	15.9	15.7	19.3	17.4
60～69 歳	9.1	13.7	17.3	27.5
70～79 歳	—	—	—	20.4
低学歴	68.3	43.6	24.2	15.2
中学歴	24.0	44.6	51.9	61.2
高学歴	7.1	11.5	23.2	23.4
無回答	0.6	0.2	0.7	0.2

学歴のカテゴリは、過去 3 回の調査と同様に、以下のように定義した。

低学歴：学歴なしから義務教育終了程度。旧制高等小学校卒業，新制中学卒業までがこのカテゴリに含まれる。

中学歴：旧制中学校卒業，新制高等学校卒業程度。

高学歴：旧制高校卒業，新制大学卒業あるいは短期大学卒業以上。

なお，在学中，中途退学については，過去調査に倣って「卒業」と見做して処理している。

## 5. 報告書の編集方針と図表の見方

この報告書では，2011 年度に実施した第 4 回調査の RS 調査のうち，発音項目（継続項目）について報告するものである。必要に応じて 1950 年の第 1 回調査，1971 年の第 2 回調査，1991 年の第 3 回調査の結果も引用する。

また，本書は資料編といった位置付けであり，調査概要のほかはデータ（グラフや表）を提示するにとどめる。解説は後の報告書に譲る。

本書を含めた、第4回調査の報告書について今一度まとめると、下記のような5つの分冊で報告する予定である。

表4 第4回調査の報告書一覧（予定）

調査種別	調査内容	報告書題目	刊行時期
RS 調査	発音項目	「第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」（資料編：第1分冊「音声・音韻」編）	本報告書
	語彙・文法	「第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要」（資料編：第2分冊「語彙・文法，言語生活」編）	2014 年度 （予定）
	言語生活調査・属性など		
	分析・解説	「地域社会の言語生活 鶴岡における20年間隔4回の継続調査」	2014 年度 （予定）
パネル調査	発音項目	「第4回鶴岡市における言語調査 パネル調査」（仮称）	2015 年度 （予定）
	語彙・文法		
	言語生活調査・属性など		
	分析・解説		
発展的調査	全項目のデータ提示・分析と解説	「第4回鶴岡市における言語調査 発展的調査」（仮称）	2015 年度 （予定）

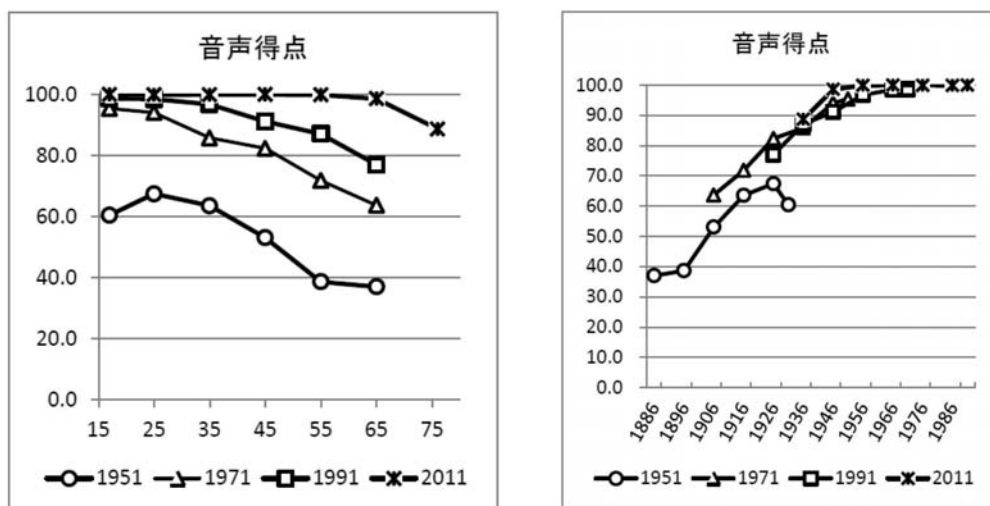
### 年齢の刻み

本報告書で提示した図表では、10歳刻み（ただし、10代について15歳～19歳）を用いている。過去3回の調査報告書では、やや特殊な年齢刻み（「報告書刻み」と呼んでいる）を用いていた。15歳～19歳，20歳～24歳，25歳～34歳，35歳～44歳，45歳～54歳，55歳～69歳という6区分である。本報告書ではこの報告書刻みを用いない。

また、第3回調査の調査報告書では、11歳刻みによる図表も掲載した。15歳～69歳を対象としていたため、全体で55歳の年齢差があり、その年齢差を等間隔に5段階に分けたものである。本報告書ではこの11歳刻みも用いない。これまでの4回にわたる調査結果を10歳刻みで整理し直した図表を提示することにする。過去の報告書を参照する際は、この違いに注意されたい。なお、この方針は§4.4.で示した基本属性でも同様である。

### グラフの見方

本報告書では各項目に同じデータに対して2種類のグラフを提示する。左図は左から10代，20代，…と並べている（年代グラフ）。右図は、生年を基にして1882年～1891年，1892年～1901年，…と並べており、グラフの右側にいくにしたがって生年が現在に近く、年齢の若いグループであることを示す（生年グラフ）。



参考図 年代グラフと生年グラフ

2種類のグラフはある年齢（年代／生年）集団が見出し欄の回答カテゴリに示されている語形を選択した者の割合を示している。

図の凡例にあるように、○印で結ばれた折れ線は第1回調査時点での年齢層別の使用率を示す。同様に、△印が第2回調査、□印が第3回調査、×印が第4回調査時点での使用率を示している。

なお、第1回調査の実施は1950年であるが、データ処理の都合上、表・グラフでは1951年と表示している。ご注意願いたい。

## 6. 報告会の開催

調査協力者およびご支援いただいた関係各方面への御礼の意味で、下記の要領による調査結果報告会(文化講演会)を行った。

日時：2013年3月10日／場所：鶴岡市中央公民館

当日配布した、第4回調査の結果概要(ダイジェスト版)を巻末の資料に採録した。

## 参考文献

国立国語研究所(1953)『地域社会の言語生活－鶴岡における実態調査－』(国立国語研究所報告5) 秀英出版

国立国語研究所(1974)『地域社会の言語生活－鶴岡における20年前との比較－』(国立国語研究所報告52) 秀英出版

国立国語研究所(1994)『鶴岡方言の記述的研究－第3次鶴岡調査 報告1』(国立国語研究所報告109-1) 秀英出版

国立国語研究所(2006)『方言使用の場面的多様性－鶴岡市における場面差調査から－』(内部資料)

国立国語研究所(2007)『地域社会の言語生活－鶴岡における20年間隔3回の継続調査－』(内部資料)

## 第2章

# 音声項目（継続項目）



## 1. 単音項目

### 1.1. 単音項目の内容

単音に関しては以下に挙げる 31 語について調査した。〔 〕内は調査票の質問番号である。

- (1) 唇音性 I (合拗音 kwa の有無を見る項目)  
西瓜 (スイカ) のカ [216] / 火曜日 (カヨウビ) のカ [217.]
- (2) 唇音性 II (ハ行における両唇音の有無を見る項目)  
髭 (ヒゲ) のヒ [202.] / 蛇 (ヘビ) のへ [208.] / 百 (ヒャク) のヒャ [218.]
- (3) 口蓋性 (「せ」「ぜ」における口蓋化の有無を見る項目)  
背中 (セナカ) のセ [203.] / 汗 (アセ) のセ [204.] / 税務署 (ゼイムショ) のゼ [219.]
- (4) 有声性 (非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無を見る項目)  
口 (クチ) のチ [201.] / 蜂 (ハチ) のチ [205.] / 鳩 (ハト) のト [206.] / 猫 (ネコ) のコ [207.] / 旗 (ハタ) のタ [210.] / 靴 (クツ) のツ [213.] / 柿 (カキ) のキ [214.] / 松 (マツ) のツ [215.]
- (5) 鼻音性 (非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたりの鼻音を見る項目)  
窓 (マド) のド [209.] / 鈴 (スズ) のズ [211.] / 帯 (オビ) のビ [212.]
- (6) 中舌音 I (ウ段音における中舌化の有無を見る項目)  
地図 (チズ) のズ [225.] / 墨 (スミ) のス [227.] / 烏 (カラス) のス [228.] / 狐 (キツネ) のツ [230.]
- (7) 中舌音 II (イ段音における中舌化の有無を見る項目)  
知事 (チジ) のジ [224.] / 島 (シマ) のシ [226.] / 辛子 (カラシ) のシ [229.] / 団扇 (ウチワ) のチ [231.]
- (8) イとエ I (語頭の母音エにおける狭母音化の有無を見る項目)  
駅 (エキ) のエ [221.] / 煙突 (エントツ) のエ [223.]
- (9) イとエ II (語頭の母音イにおける広母音化の有無を見る項目)  
息 (イキ) のイ [220.] / 糸 (イト) のイ [222.]

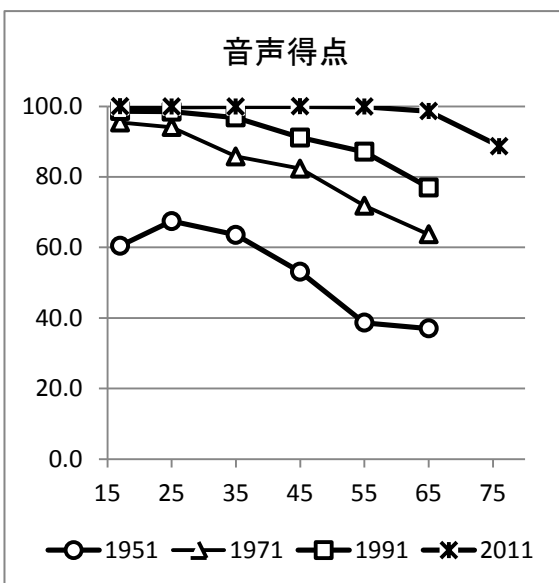
各観点、各調査項目の掲載順は第 3 回調査の報告書に従う。

## 1.2. 単音項目全体の共通語化

### 音声得点

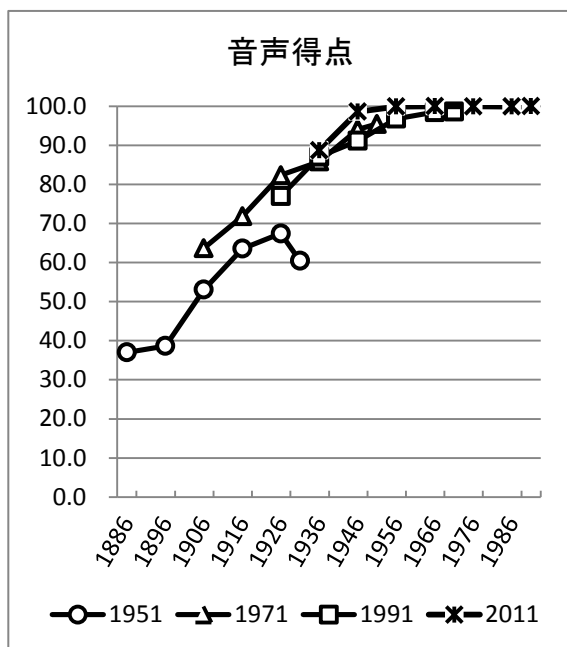
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	60.4	95.4	98.6	100.0
20-29歳	67.4	94.1	98.5	99.9
30-39歳	63.6	85.8	96.8	99.9
40-49歳	53.1	82.3	91.1	100.0
50-59歳	38.7	71.8	87.1	99.9
60-69歳	37.0	63.7	77.0	98.6
70-79歳	-	-	-	88.7
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	37.0			
1892-1901	38.7			
1902-1911	53.1	63.7		
1912-1921	63.6	71.8		
1922-1931	67.4	82.3	77.0	
1932-1941	60.4	85.8	87.1	88.7
1942-1951		94.1	91.1	98.6
1952-1961		95.4	96.8	99.9
1962-1971			98.5	100.0
1972-1981			98.6	99.9
1982-1991				99.9
1992-1996				100.0



### 1.3. 単音観点別の共通語化

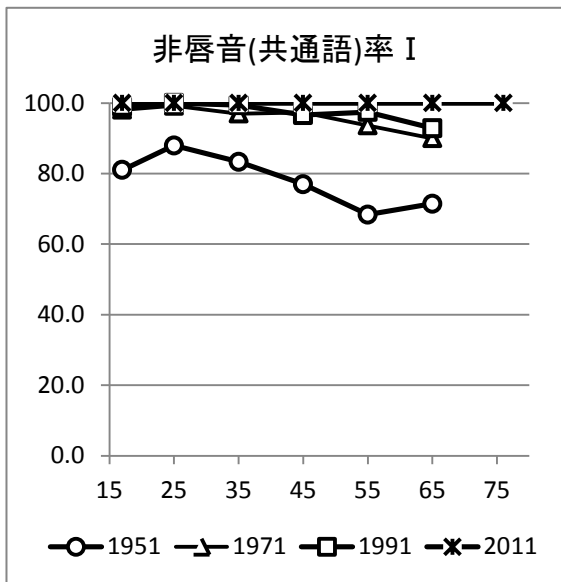
#### 1.3.1. 子音

##### 1.3.1.1. 唇音性 I (合拗音化)

### 唇音性 I

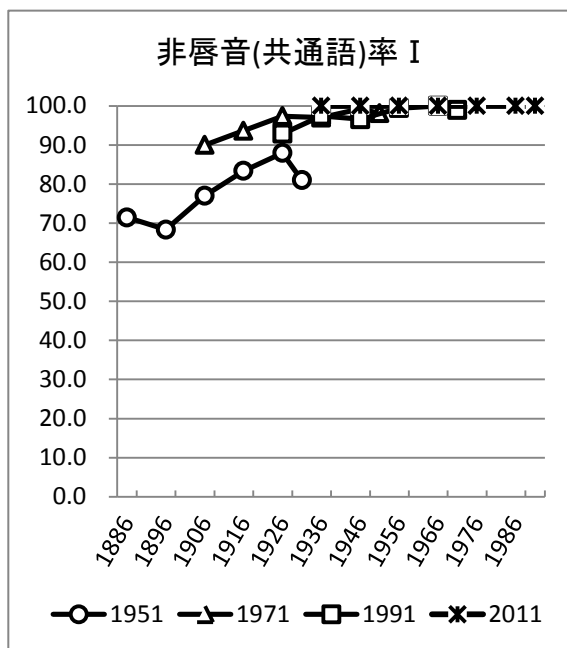
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	81.0	98.1	99.0	100.0
20-29歳	88.0	99.2	100.0	100.0
30-39歳	83.4	97.0	99.4	100.0
40-49歳	77.0	97.4	96.6	100.0
50-59歳	68.4	93.7	97.5	100.0
60-69歳	71.5	90.0	92.9	100.0
70-79歳	-	-	-	100.0
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

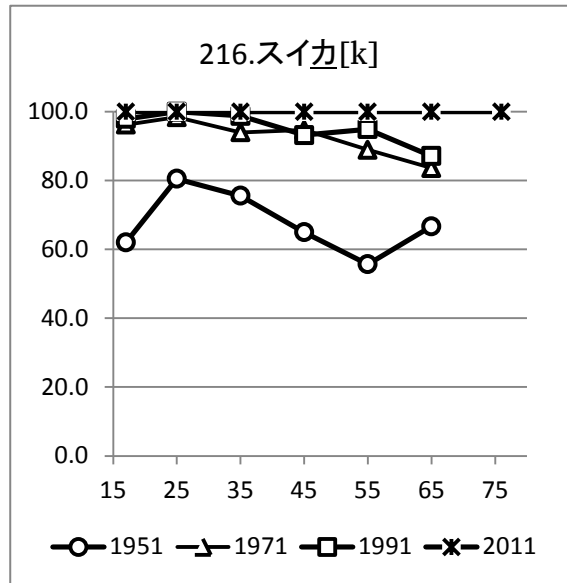
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	71.5			
1892-1901	68.4			
1902-1911	77.0	90.0		
1912-1921	83.4	93.7		
1922-1931	88.0	97.4	92.9	
1932-1941	81.0	97.0	97.5	100.0
1942-1951		99.2	96.6	100.0
1952-1961		98.1	99.4	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			99.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 216.西瓜(スイカ)

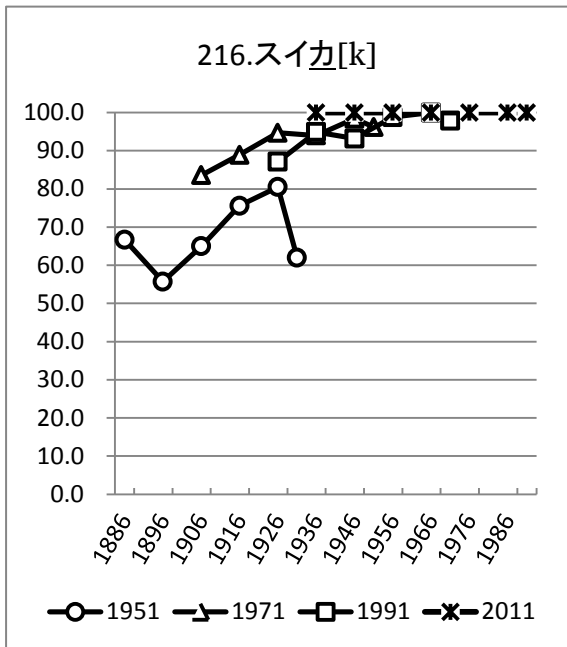
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	62.0	96.2	97.9	100.0
20-29歳	80.5	98.4	100.0	100.0
30-39歳	75.6	94.0	98.8	100.0
40-49歳	65.0	94.7	93.2	100.0
50-59歳	55.7	88.9	94.9	100.0
60-69歳	66.7	83.6	87.1	100.0
70-79歳	-	-	-	100.0
15-69歳	69	93	95	100
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

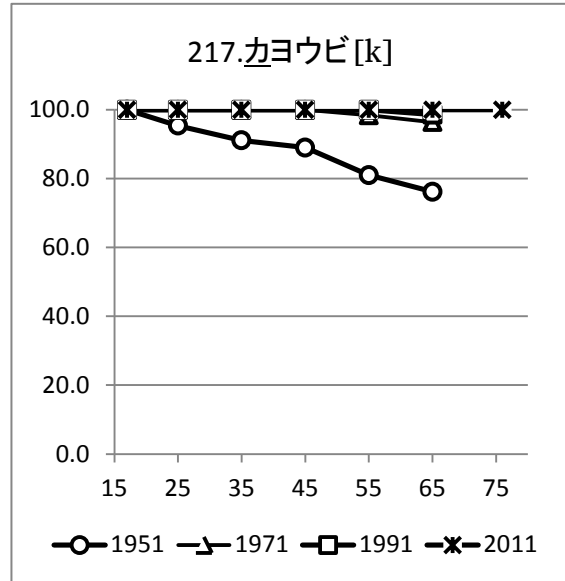
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	66.7			
1892-1901	55.7			
1902-1911	65.0	83.6		
1912-1921	75.6	88.9		
1922-1931	80.5	94.7	87.1	
1932-1941	62.0	94.0	94.9	100.0
1942-1951		98.4	93.2	100.0
1952-1961		96.2	98.8	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 217.火曜日(カヨウビ)

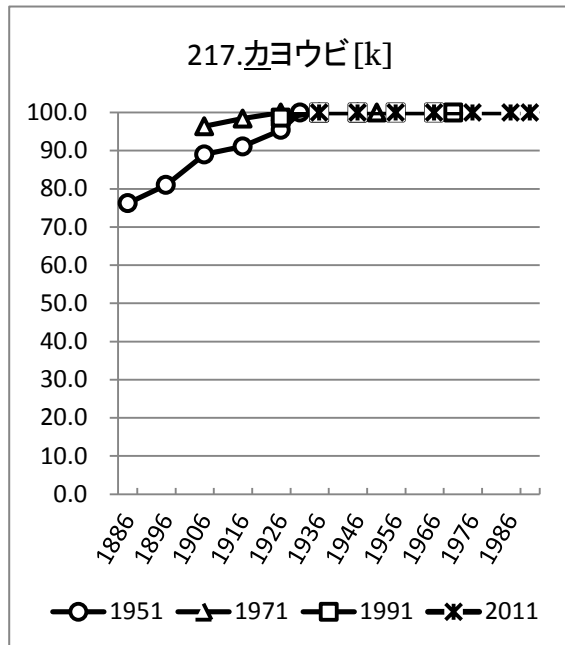
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	100.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	95.4	100.0	100.0	100.0
30-39歳	91.1	100.0	100.0	100.0
40-49歳	89.0	100.0	100.0	100.0
50-59歳	81.0	98.4	100.0	100.0
60-69歳	76.2	96.4	98.6	100.0
70-79歳	-	-	-	100.0
15-69歳	90	99	100	100
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	76.2			
1892-1901	81.0			
1902-1911	89.0	96.4		
1912-1921	91.1	98.4		
1922-1931	95.4	100.0	98.6	
1932-1941	100.0	100.0	100.0	100.0
1942-1951		100.0	100.0	100.0
1952-1961		100.0	100.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

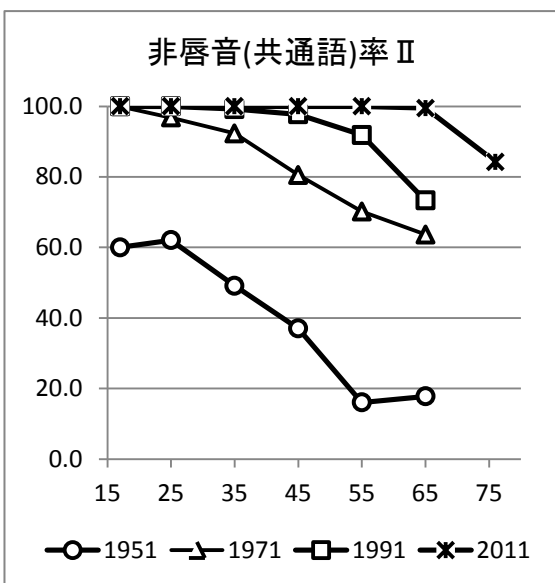


### 1.3.1.2. 唇音性Ⅱ(両唇音化)

## 唇音性Ⅱ

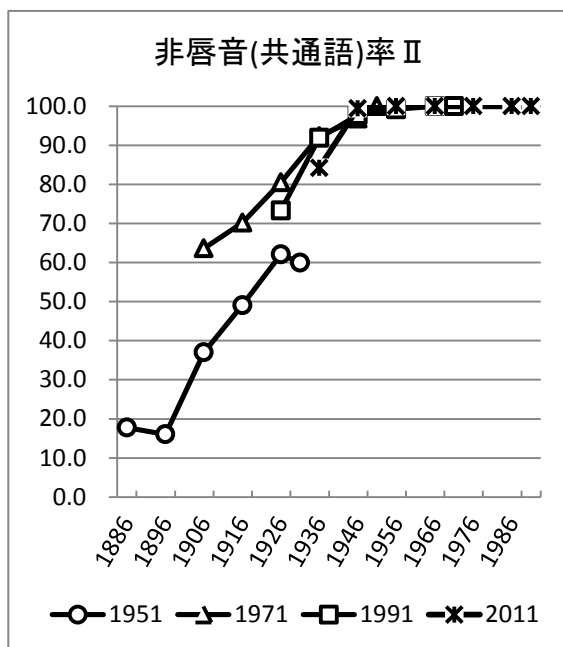
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	60.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	62.1	96.8	100.0	100.0
30-39歳	49.1	92.3	99.2	100.0
40-49歳	37.0	80.5	97.7	100.0
50-59歳	16.0	70.2	91.9	100.0
60-69歳	17.8	63.6	73.3	99.5
70-79歳	-	-	-	84.2
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

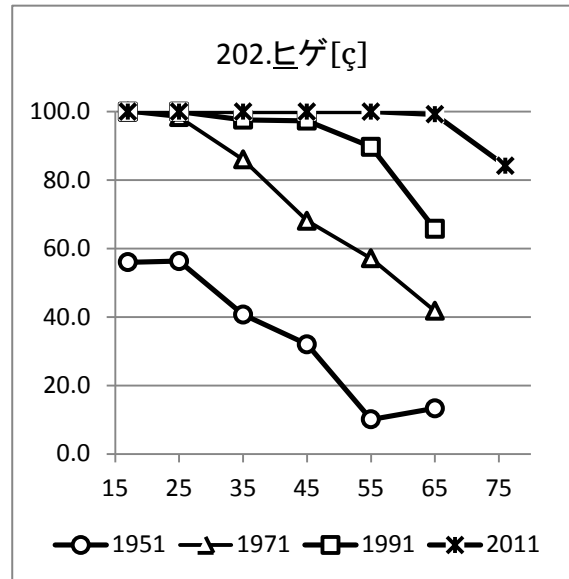
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	17.8			
1892-1901	16.0			
1902-1911	37.0	63.6		
1912-1921	49.1	70.2		
1922-1931	62.1	80.5	73.3	
1932-1941	60.0	92.3	91.9	84.2
1942-1951		96.8	97.7	99.5
1952-1961		100.0	99.2	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 202.髭(ヒゲ)

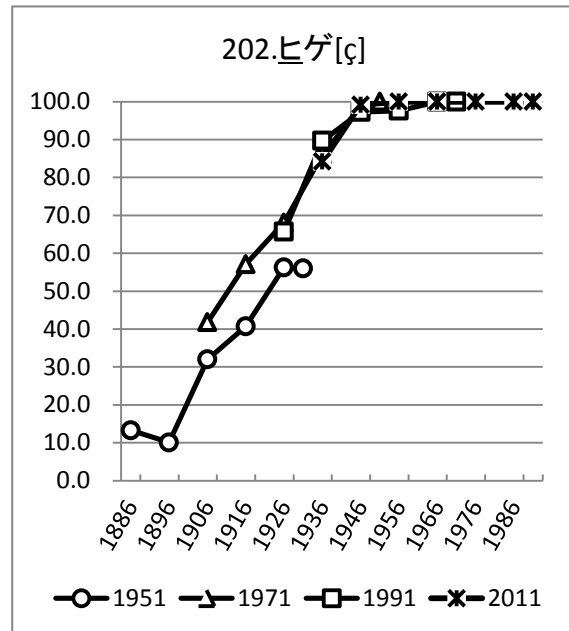
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	56.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	56.3	98.4	100.0	100.0
30-39歳	40.7	86.0	97.6	100.0
40-49歳	32.0	68.1	97.3	100.0
50-59歳	10.1	57.1	89.7	100.0
60-69歳	13.3	41.8	65.7	99.2
70-79歳	-	-	-	84.2
15-69歳	36	74	91	100
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

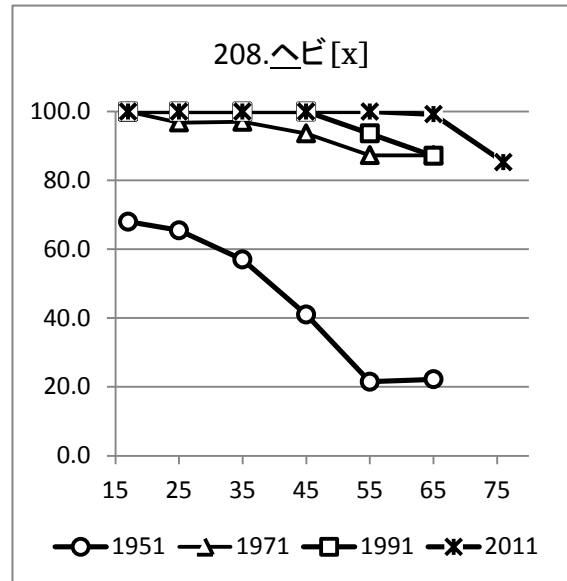
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	13.3			
1892-1901	10.1			
1902-1911	32.0	41.8		
1912-1921	40.7	57.1		
1922-1931	56.3	68.1	65.7	
1932-1941	56.0	86.0	89.7	84.2
1942-1951		98.4	97.3	99.2
1952-1961		100.0	97.6	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 208.蛇(ヘビ)

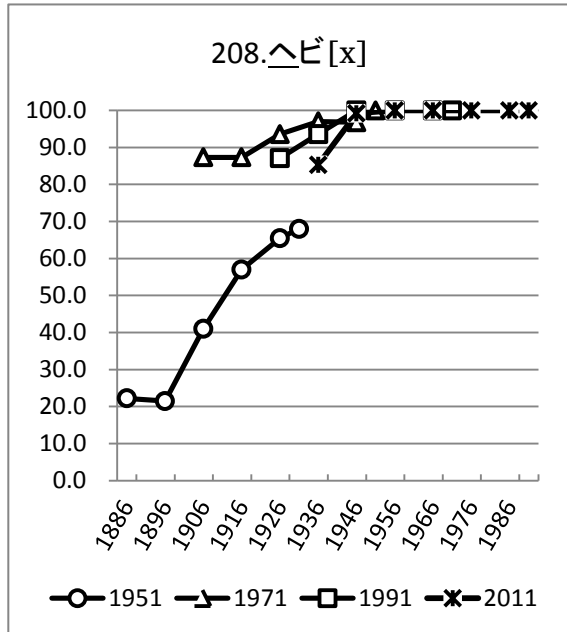
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	68.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	65.5	96.8	100.0	100.0
30-39歳	57.0	97.0	100.0	100.0
40-49歳	41.0	93.6	100.0	100.0
50-59歳	21.5	87.3	93.6	100.0
60-69歳	22.2	87.3	87.1	99.2
70-79歳	-	-	-	85.3
15-69歳	48	94	97	100
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

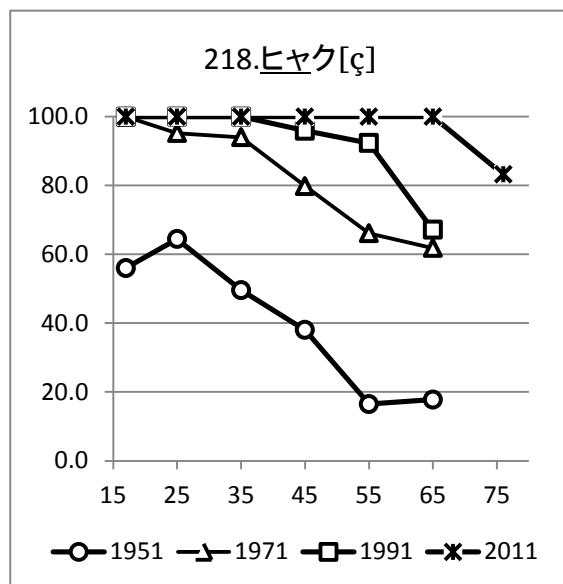
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	22.2			
1892-1901	21.5			
1902-1911	41.0	87.3		
1912-1921	57.0	87.3		
1922-1931	65.5	93.6	87.1	
1932-1941	68.0	97.0	93.6	85.3
1942-1951		96.8	100.0	99.2
1952-1961		100.0	100.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 218.百(ヒャク)

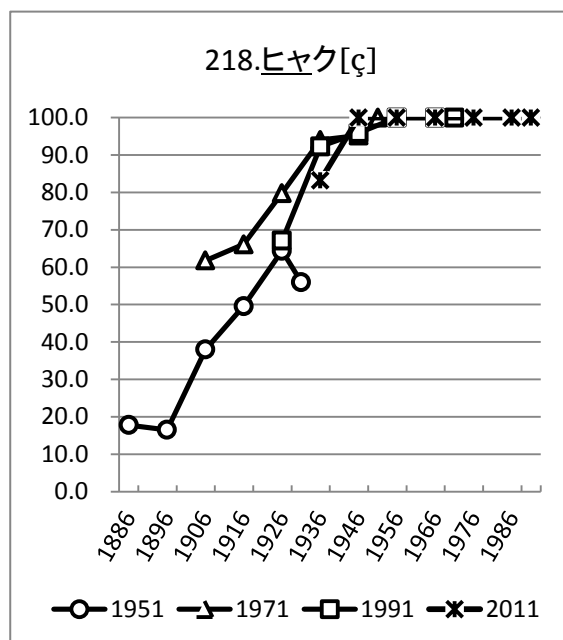
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	56.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	64.4	95.2	100.0	100.0
30-39歳	49.6	94.0	100.0	100.0
40-49歳	38.0	79.8	95.9	100.0
50-59歳	16.5	66.1	92.3	100.0
60-69歳	17.8	61.8	67.1	100.0
70-79歳	-	-	-	83.2
15-69歳	42	83	92	100
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	17.8			
1892-1901	16.5			
1902-1911	38.0	61.8		
1912-1921	49.6	66.1		
1922-1931	64.4	79.8	67.1	
1932-1941	56.0	94.0	92.3	83.2
1942-1951		95.2	95.9	100.0
1952-1961		100.0	100.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

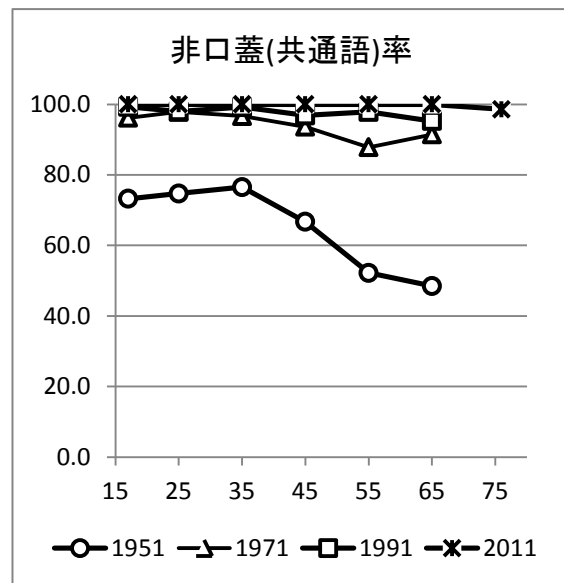


### 1.3.1.3. 口蓋性(口蓋音化)

## 口蓋性

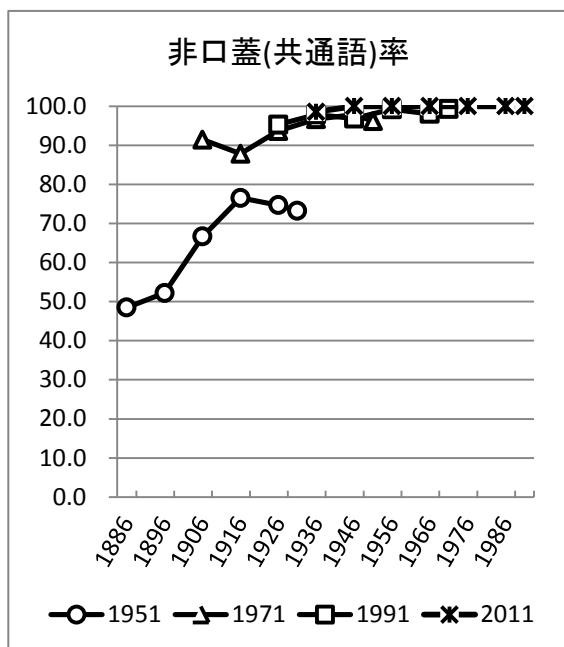
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	73.2	96.2	99.3	100.0
20-29歳	74.7	97.9	98.0	100.0
30-39歳	76.5	96.7	99.2	100.0
40-49歳	66.7	93.6	96.8	100.0
50-59歳	52.2	87.8	97.9	100.0
60-69歳	48.5	91.4	95.3	100.0
70-79歳	-	-	-	98.6
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

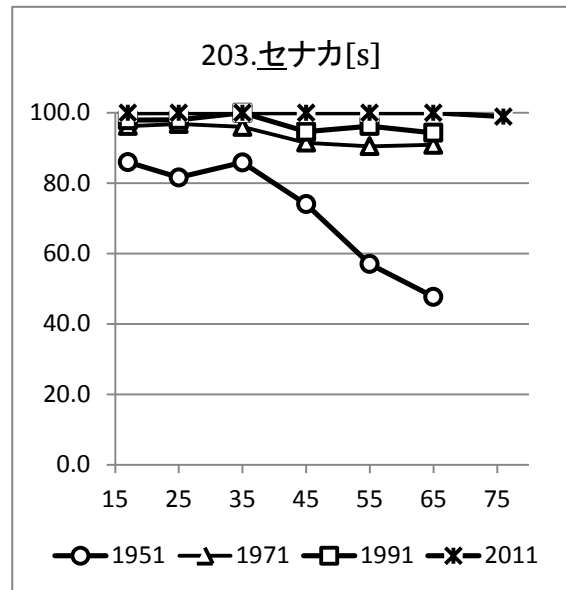
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	48.5			
1892-1901	52.2			
1902-1911	66.7	91.4		
1912-1921	76.5	87.8		
1922-1931	74.7	93.6	95.3	
1932-1941	73.2	96.7	97.9	98.6
1942-1951		97.9	96.8	100.0
1952-1961		96.2	99.2	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			99.3	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 203.背中(セナ力)

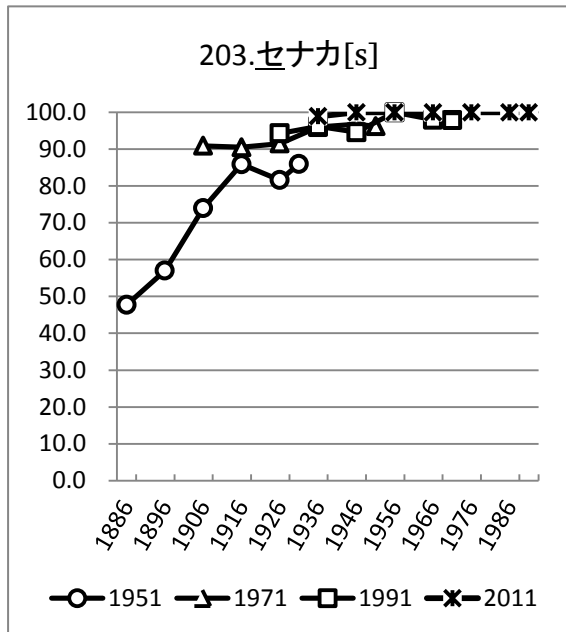
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	86.0	96.2	97.9	100.0
20-29歳	81.6	96.8	98.0	100.0
30-39歳	85.9	96.0	100.0	100.0
40-49歳	74.0	91.5	94.6	100.0
50-59歳	57.0	90.5	96.2	100.0
60-69歳	47.7	90.9	94.3	100.0
70-79歳	-	-	-	98.9
15-69歳	75	94	97	100
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

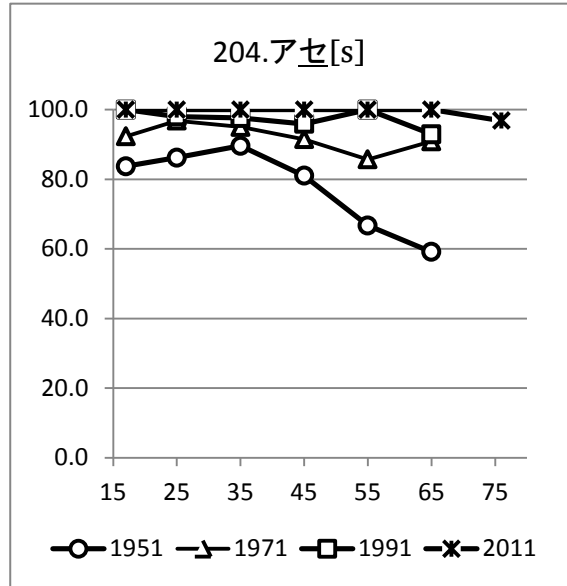
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	47.7			
1892-1901	57.0			
1902-1911	74.0	90.9		
1912-1921	85.9	90.5		
1922-1931	81.6	91.5	94.3	
1932-1941	86.0	96.0	96.2	98.9
1942-1951		96.8	94.6	100.0
1952-1961		96.2	100.0	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 204.汗(アセ)

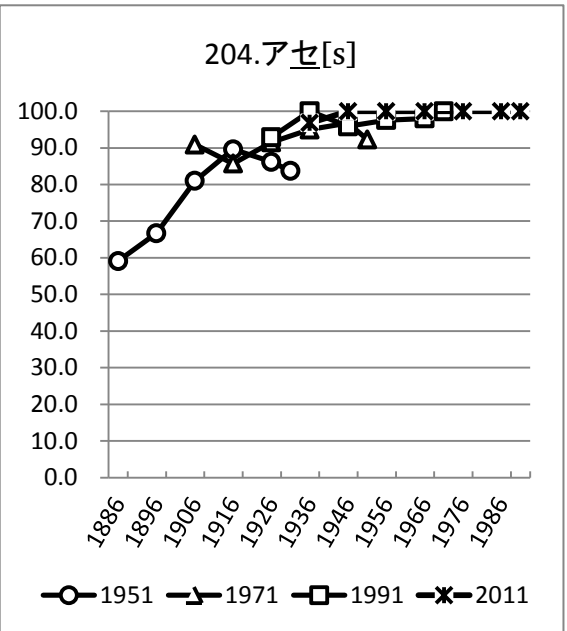
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	83.7	92.3	100.0	100.0
20-29歳	86.2	96.8	98.0	100.0
30-39歳	89.6	95.0	97.6	100.0
40-49歳	81.0	91.5	95.9	100.0
50-59歳	66.7	85.7	100.0	100.0
60-69歳	59.1	90.9	92.9	100.0
70-79歳	-	-	-	96.8
15-69歳	80	92	97	100
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

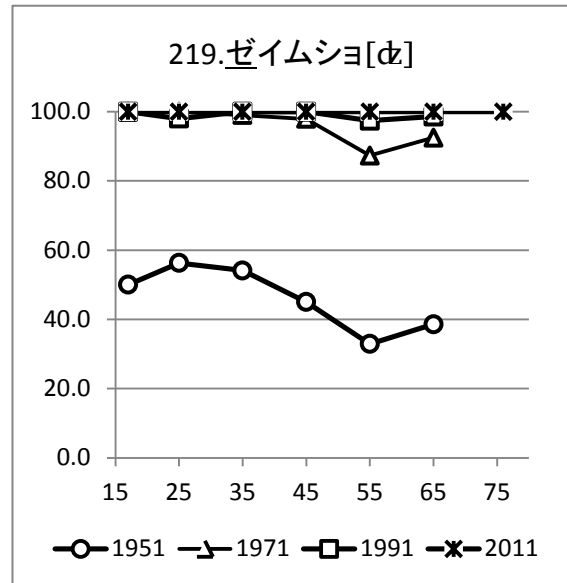
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	59.1			
1892-1901	66.7			
1902-1911	81.0	90.9		
1912-1921	89.6	85.7		
1922-1931	86.2	91.5	92.9	
1932-1941	83.7	95.0	100.0	96.8
1942-1951		96.8	95.9	100.0
1952-1961		92.3	97.6	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 219.税務署(ゼイムシヨ)

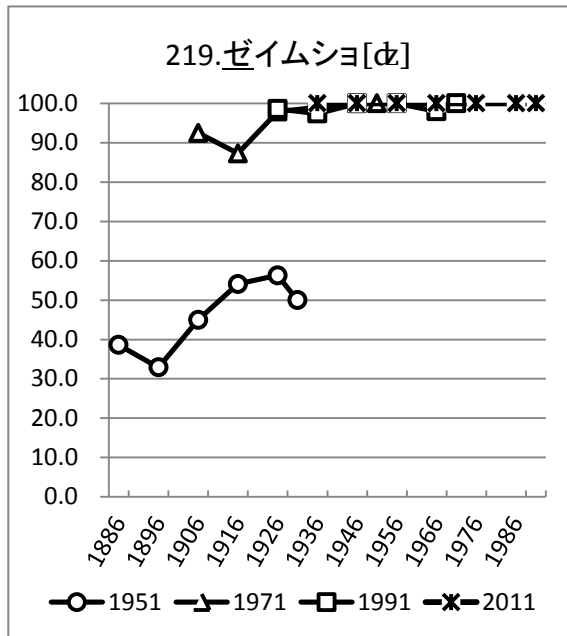
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	50.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	56.3	100.0	98.0	100.0
30-39歳	54.1	99.0	100.0	100.0
40-49歳	45.0	97.9	100.0	100.0
50-59歳	32.9	87.3	97.4	100.0
60-69歳	38.6	92.5	98.6	100.0
70-79歳	-	-	-	100.0
15-69歳	48	96	99	100
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	38.6			
1892-1901	32.9			
1902-1911	45.0	92.5		
1912-1921	54.1	87.3		
1922-1931	56.3	97.9	98.6	
1932-1941	50.0	99.0	97.4	100.0
1942-1951		100.0	100.0	100.0
1952-1961		100.0	100.0	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

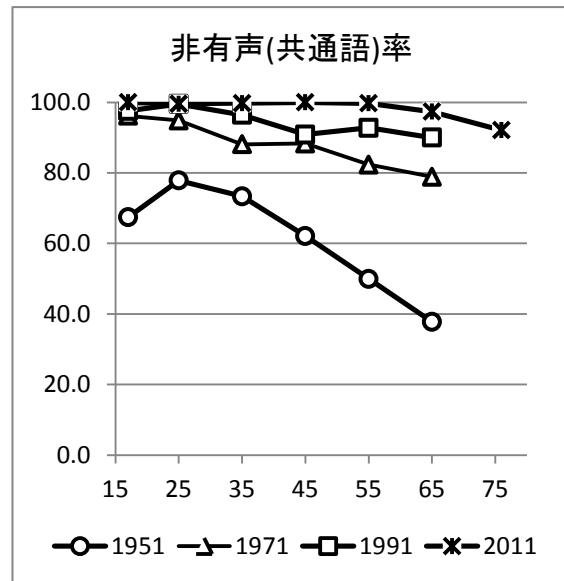


#### 1.3.1.4. 有声性(有声音化)

### 有声性

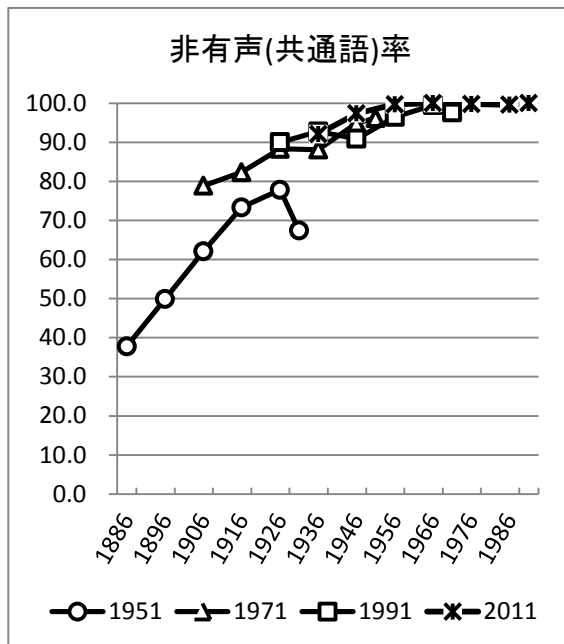
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	67.4	96.2	97.6	100.0
20-29歳	77.9	94.9	99.5	99.6
30-39歳	73.3	88.1	96.5	99.8
40-49歳	62.1	88.3	90.9	100.0
50-59歳	49.9	82.3	92.8	99.7
60-69歳	37.8	78.9	90.0	97.4
70-79歳	-	-	-	92.1
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

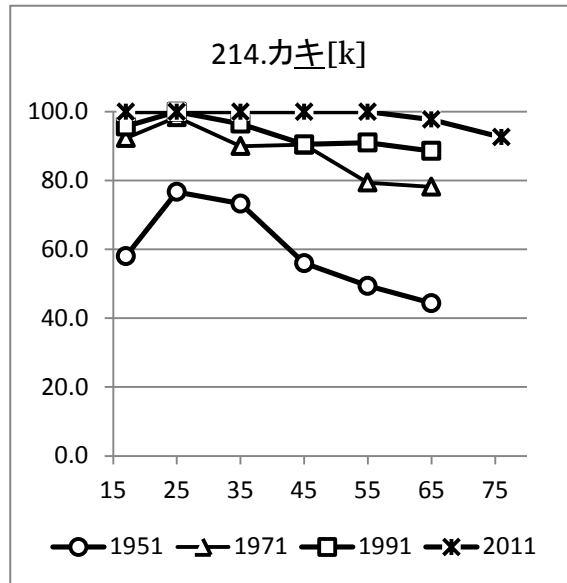
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	37.8			
1892-1901	49.9			
1902-1911	62.1	78.9		
1912-1921	73.3	82.3		
1922-1931	77.9	88.3	90.0	
1932-1941	67.4	88.1	92.8	92.1
1942-1951		94.9	90.9	97.4
1952-1961		96.2	96.5	99.7
1962-1971			99.5	100.0
1972-1981			97.6	99.8
1982-1991				99.6
1992-1996				100.0



## 214.柿(力キ)

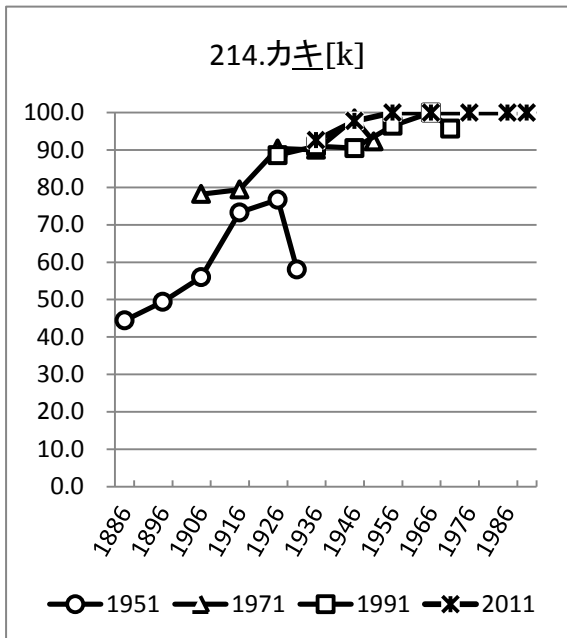
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	58.0	92.3	95.7	100.0
20-29歳	76.7	98.4	100.0	100.0
30-39歳	73.3	90.0	96.5	100.0
40-49歳	56.0	90.4	90.5	100.0
50-59歳	49.4	79.4	91.0	100.0
60-69歳	44.4	78.2	88.6	97.7
70-79歳	-	-	-	92.6
15-69歳	62	88	93	99
15-79歳	-	-	-	98



調査年別・生年コウホート別共通語化率

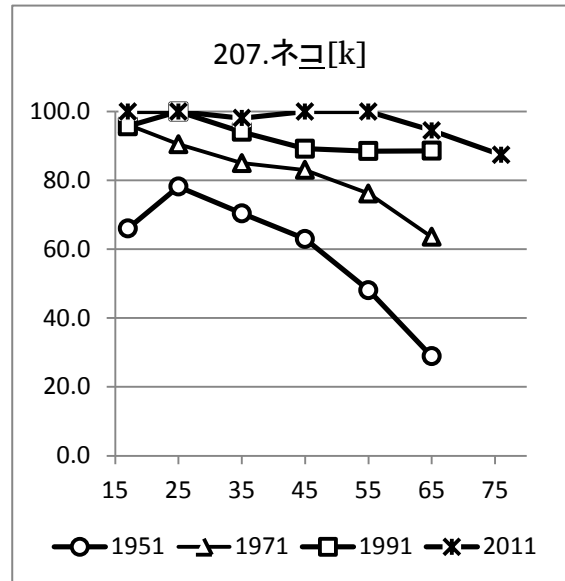
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44.4			
1892-1901	49.4			
1902-1911	56.0	78.2		
1912-1921	73.3	79.4		
1922-1931	76.7	90.4	88.6	
1932-1941	58.0	90.0	91.0	92.6
1942-1951		98.4	90.5	97.7
1952-1961		92.3	96.5	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			95.7	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 207.猫(ネコ)

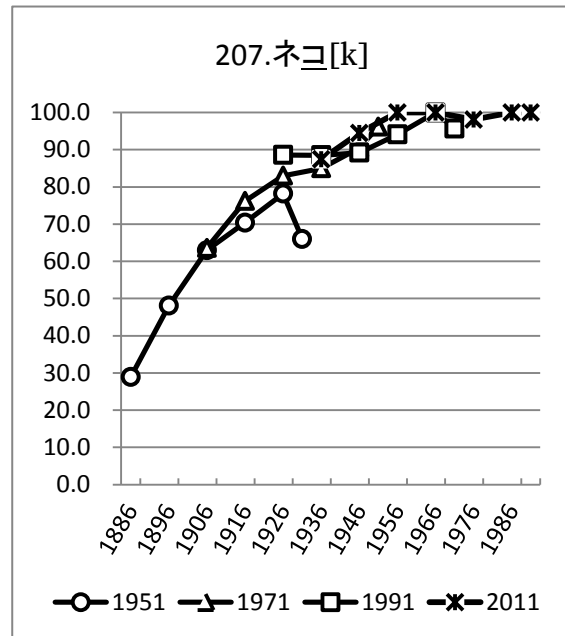
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	66.0	96.2	95.7	100.0
20-29歳	78.2	90.5	100.0	100.0
30-39歳	70.4	85.0	94.1	98.1
40-49歳	63.0	83.0	89.2	100.0
50-59歳	48.1	76.2	88.5	100.0
60-69歳	28.9	63.6	88.6	94.5
70-79歳	-	-	-	87.4
15-69歳	63	82	92	98
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

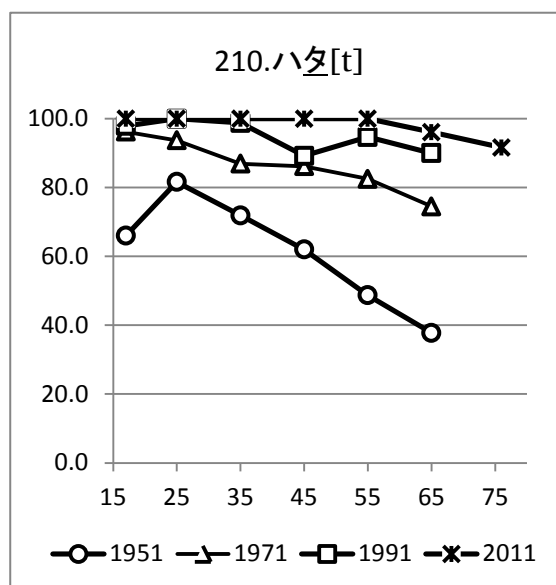
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	28.9			
1892-1901	48.1			
1902-1911	63.0	63.6		
1912-1921	70.4	76.2		
1922-1931	78.2	83.0	88.6	
1932-1941	66.0	85.0	88.5	87.4
1942-1951		90.5	89.2	94.5
1952-1961		96.2	94.1	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			95.7	98.1
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 210.旗(ハタ)

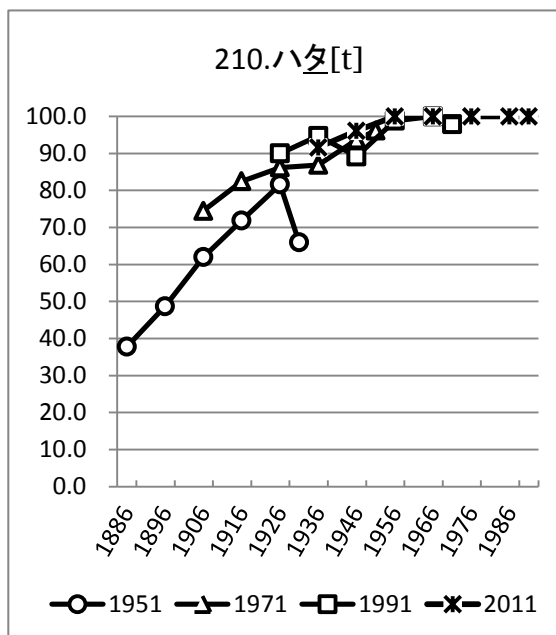
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	66.0	96.2	97.9	100.0
20-29歳	81.6	93.7	100.0	100.0
30-39歳	71.9	86.9	98.8	100.0
40-49歳	62.0	86.2	89.2	100.0
50-59歳	48.7	82.5	94.7	100.0
60-69歳	37.8	74.5	90.0	96.1
70-79歳	-	-	-	91.6
15-69歳	64	86	95	99
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

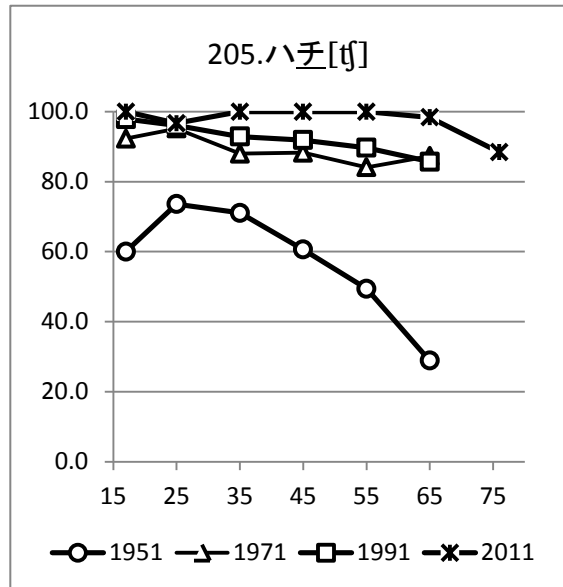
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	37.8			
1892-1901	48.7			
1902-1911	62.0	74.5		
1912-1921	71.9	82.5		
1922-1931	81.6	86.2	90.0	
1932-1941	66.0	86.9	94.7	91.6
1942-1951		93.7	89.2	96.1
1952-1961		96.2	98.8	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 205.蜂(ハチ)

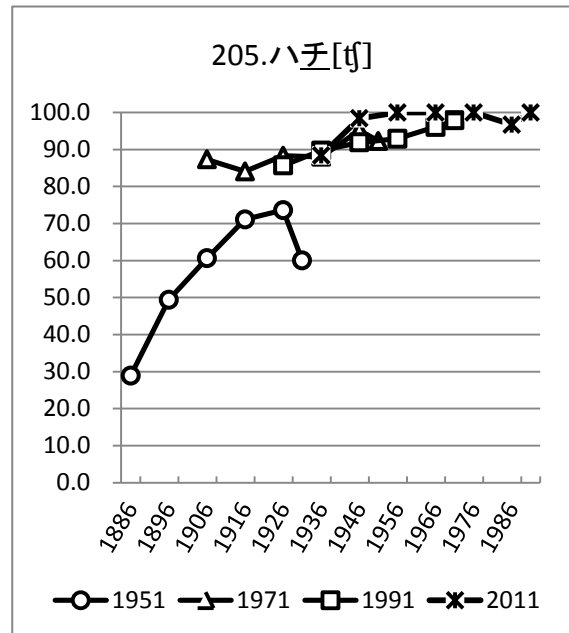
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	60.0	92.3	97.9	100.0
20-29歳	73.6	95.2	96.1	96.7
30-39歳	71.1	88.0	92.9	100.0
40-49歳	60.6	88.3	91.9	100.0
50-59歳	49.4	84.1	89.7	100.0
60-69歳	28.9	87.3	85.7	98.4
70-79歳	-	-	-	88.4
15-69歳	61	89	92	99
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

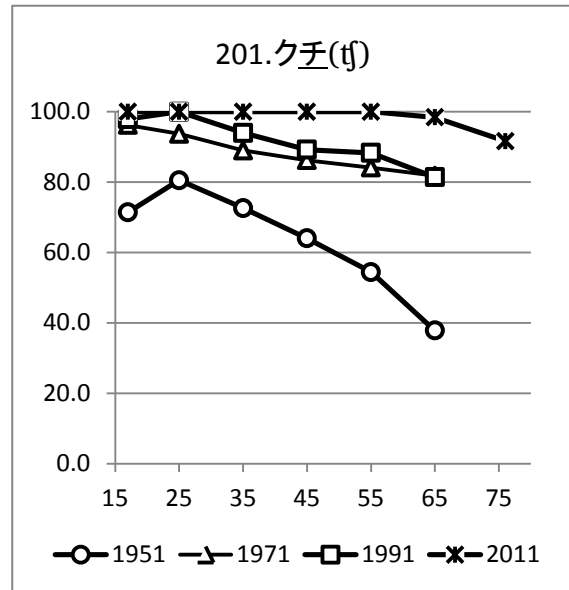
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	28.9			
1892-1901	49.4			
1902-1911	60.6	87.3		
1912-1921	71.1	84.1		
1922-1931	73.6	88.3	85.7	
1932-1941	60.0	88.0	89.7	88.4
1942-1951		95.2	91.9	98.4
1952-1961		92.3	92.9	100.0
1962-1971			96.1	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				96.7
1992-1996				100.0



## 201.口(クチ)

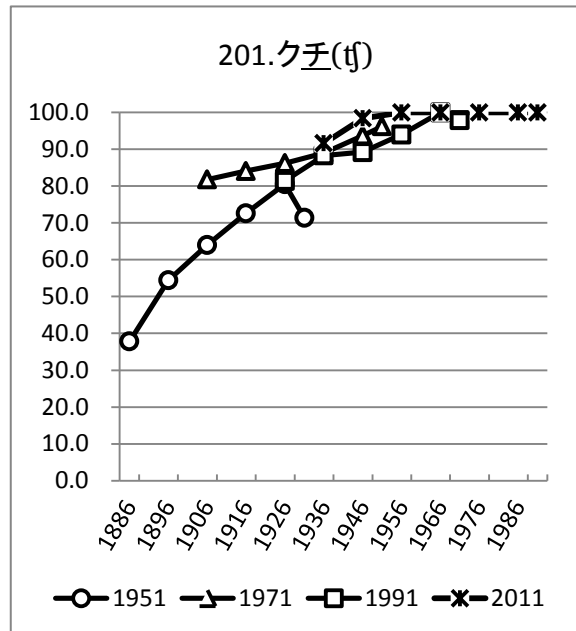
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	71.4	96.2	97.9	100.0
20-29歳	80.5	93.7	100.0	100.0
30-39歳	72.6	89.0	94.0	100.0
40-49歳	64.0	86.2	89.2	100.0
50-59歳	54.4	84.1	88.3	100.0
60-69歳	37.8	81.8	81.4	98.4
70-79歳	-	-	-	91.6
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



調査年別・生年コウホート別共通語化率

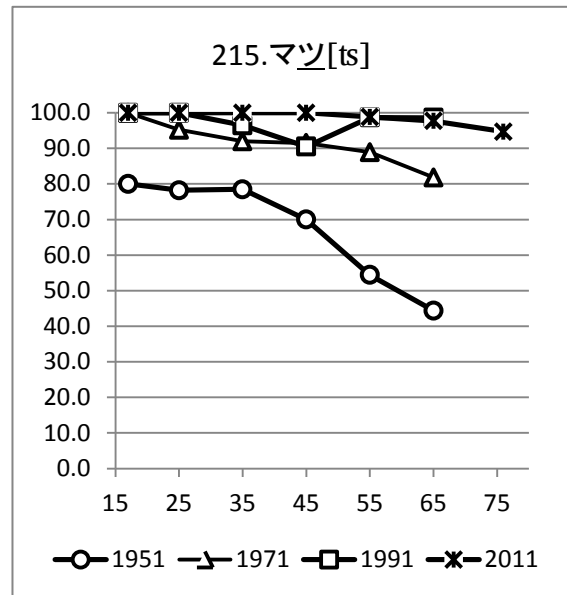
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	37.8			
1892-1901	54.4			
1902-1911	64.0	81.8		
1912-1921	72.6	84.1		
1922-1931	80.5	86.2	81.4	
1932-1941	71.4	89.0	88.3	91.6
1942-1951		93.7	89.2	98.4
1952-1961		96.2	94.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 215.松(マツ)

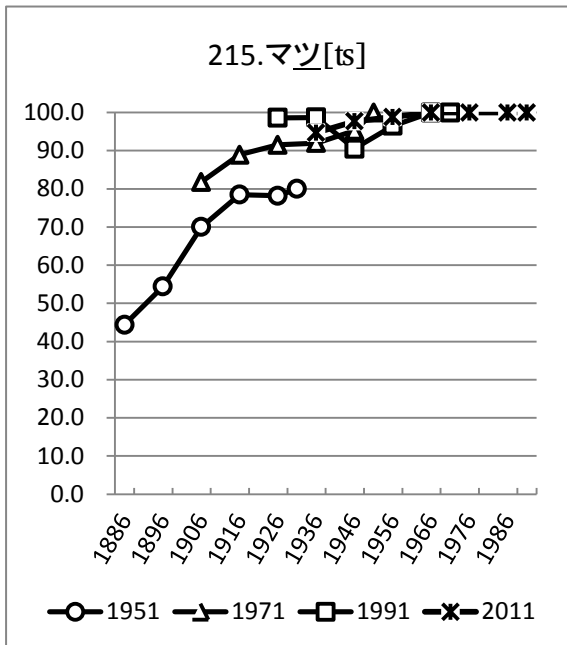
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	80.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	78.2	95.2	100.0	100.0
30-39歳	78.5	92.0	96.5	100.0
40-49歳	70.0	91.5	90.5	100.0
50-59歳	54.4	88.9	98.7	98.8
60-69歳	44.4	81.8	98.6	97.7
70-79歳	-	-	-	94.7
15-69歳	70	92	97	99
15-79歳	-	-	-	98



調査年別・生年コウホート別共通語化率

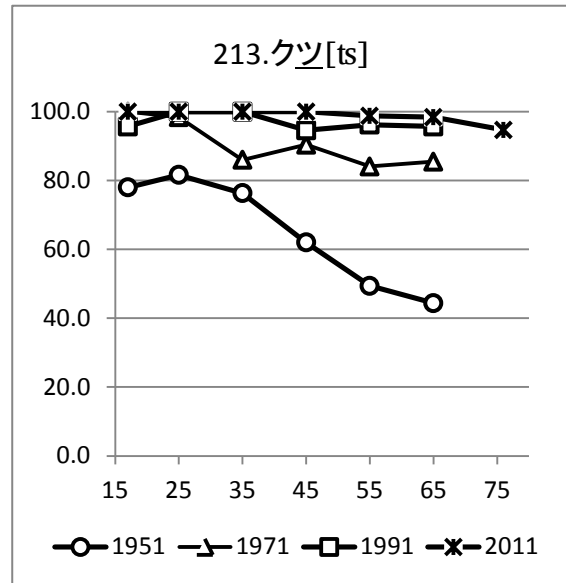
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44.4			
1892-1901	54.4			
1902-1911	70.0	81.8		
1912-1921	78.5	88.9		
1922-1931	78.2	91.5	98.6	
1932-1941	80.0	92.0	98.7	94.7
1942-1951		95.2	90.5	97.7
1952-1961		100.0	96.5	98.8
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 213.靴(クツ)

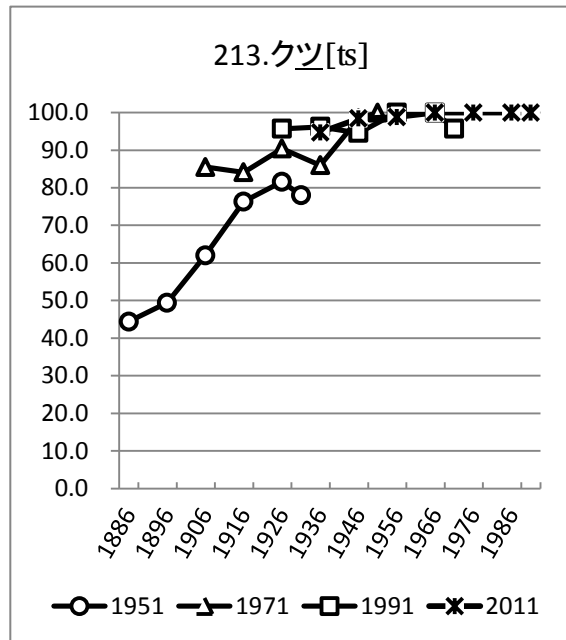
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	78.0	100.0	95.7	100.0
20-29歳	81.6	98.4	100.0	100.0
30-39歳	76.3	86.0	100.0	100.0
40-49歳	62.0	90.4	94.6	100.0
50-59歳	49.4	84.1	96.2	98.8
60-69歳	44.4	85.5	95.7	98.4
70-79歳	-	-	-	94.7
15-69歳	67	90	97	99
15-79歳	-	-	-	98



調査年別・生年コウホート別共通語化率

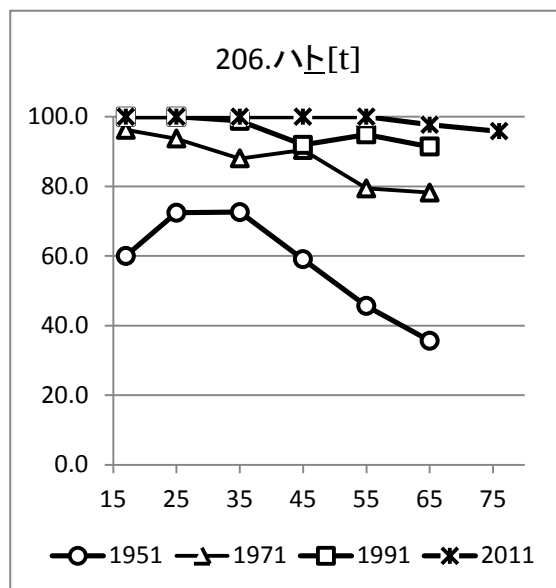
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44.4			
1892-1901	49.4			
1902-1911	62.0	85.5		
1912-1921	76.3	84.1		
1922-1931	81.6	90.4	95.7	
1932-1941	78.0	86.0	96.2	94.7
1942-1951		98.4	94.6	98.4
1952-1961		100.0	100.0	98.8
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			95.7	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 206.鳩(ハト)

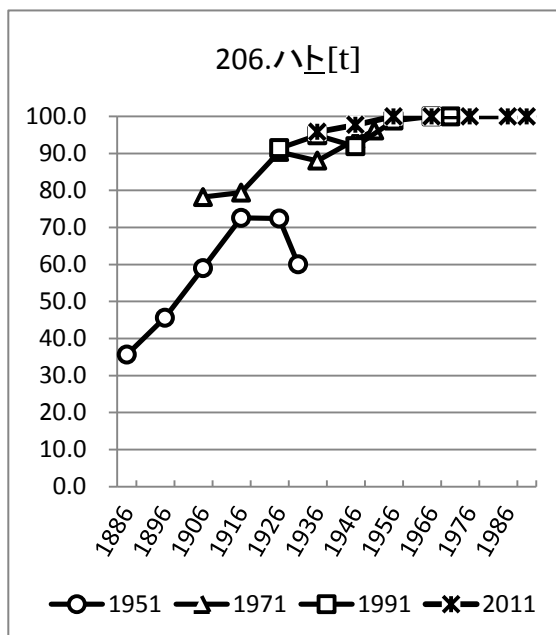
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	60.0	96.2	100.0	100.0
20-29歳	72.4	93.7	100.0	100.0
30-39歳	72.6	88.0	98.8	100.0
40-49歳	59.0	90.4	91.9	100.0
50-59歳	45.6	79.4	94.9	100.0
60-69歳	35.6	78.2	91.4	97.7
70-79歳	-	-	-	95.8
15-69歳	61	87	96	99
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35.6			
1892-1901	45.6			
1902-1911	59.0	78.2		
1912-1921	72.6	79.4		
1922-1931	72.4	90.4	91.4	
1932-1941	60.0	88.0	94.9	95.8
1942-1951		93.7	91.9	97.7
1952-1961		96.2	98.8	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

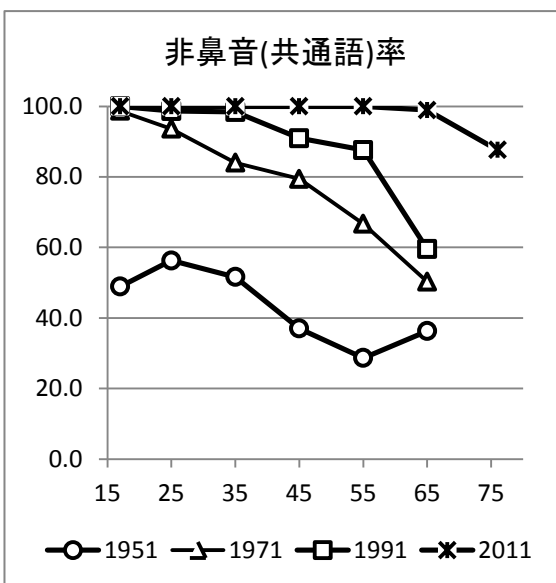


### 1.3.1.5. 鼻音性(鼻音化)

## 鼻音性

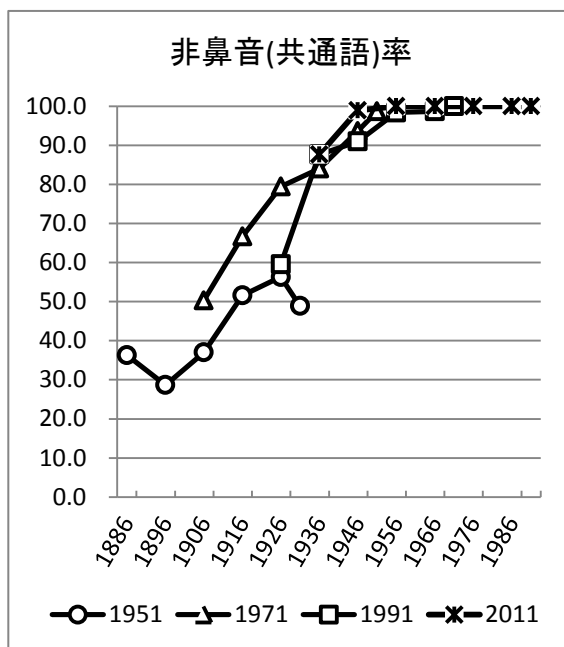
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	48.9	98.7	100.0	100.0
20-29歳	56.3	93.6	98.7	100.0
30-39歳	51.6	84.0	98.4	100.0
40-49歳	37.0	79.4	91.0	100.0
50-59歳	28.7	66.7	87.6	100.0
60-69歳	36.3	50.3	59.5	98.9
70-79歳	-	-	-	87.6
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

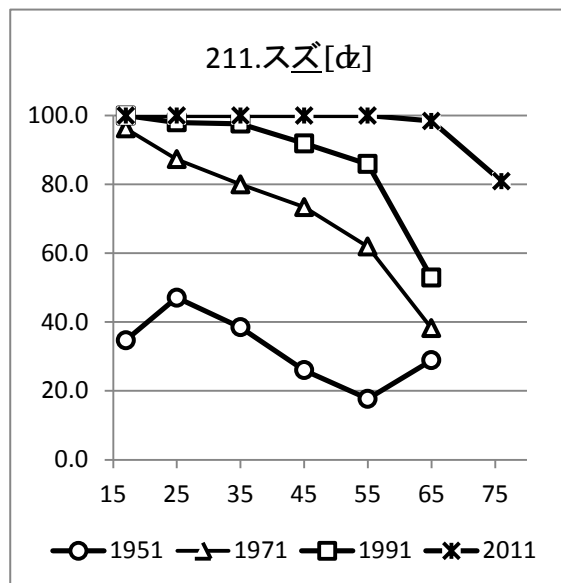
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	36.3			
1892-1901	28.7			
1902-1911	37.0	50.3		
1912-1921	51.6	66.7		
1922-1931	56.3	79.4	59.5	
1932-1941	48.9	84.0	87.6	87.6
1942-1951		93.6	91.0	98.9
1952-1961		98.7	98.4	100.0
1962-1971			98.7	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 211.鈴(スズ)

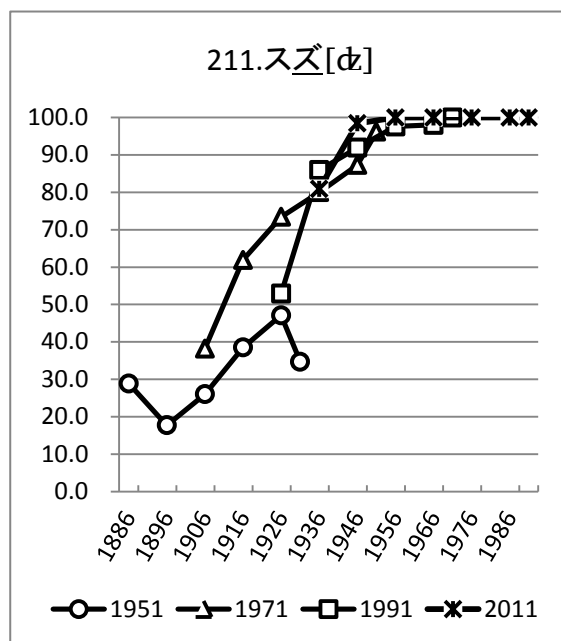
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	34.7	96.2	100.0	100.0
20-29歳	47.1	87.3	98.0	100.0
30-39歳	38.5	80.0	97.6	100.0
40-49歳	26.0	73.4	91.9	100.0
50-59歳	17.7	61.9	85.9	100.0
60-69歳	28.9	38.2	52.9	98.4
70-79歳	-	-	-	80.9
15-69歳	33	72	87	100
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

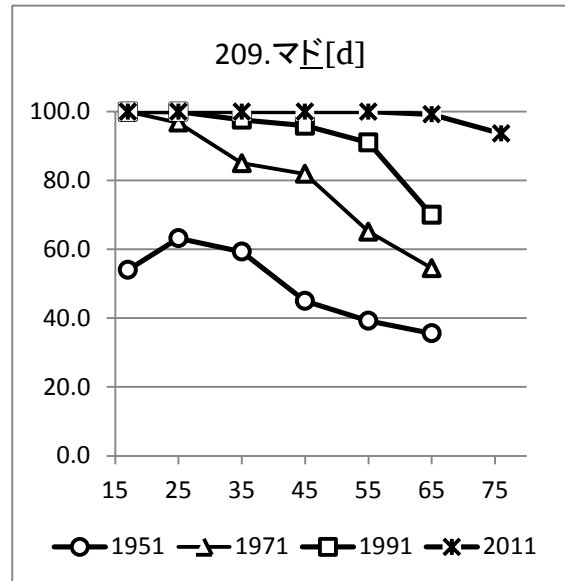
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	28.9			
1892-1901	17.7			
1902-1911	26.0	38.2		
1912-1921	38.5	61.9		
1922-1931	47.1	73.4	52.9	
1932-1941	34.7	80.0	85.9	80.9
1942-1951		87.3	91.9	98.4
1952-1961		96.2	97.6	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 209.窓(マド)

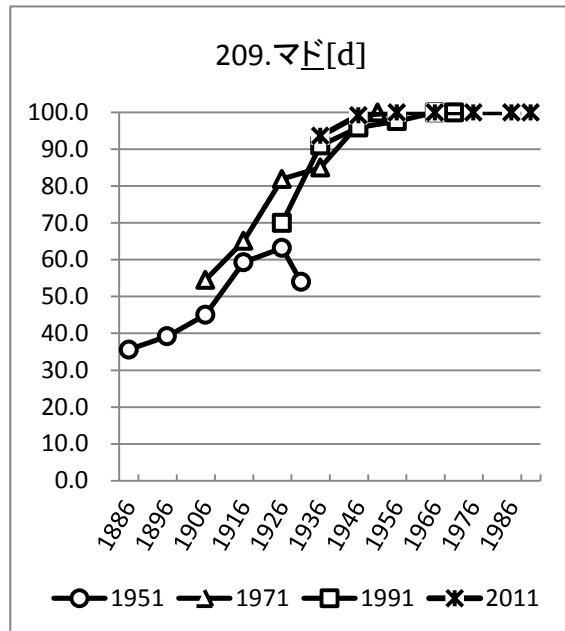
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	54.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	63.2	96.8	100.0	100.0
30-39歳	59.3	85.0	97.6	100.0
40-49歳	45.0	81.9	95.9	100.0
50-59歳	39.2	65.1	91.0	100.0
60-69歳	35.6	54.5	70.0	99.2
70-79歳	-	-	-	93.6
15-69歳	51	80	92	100
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

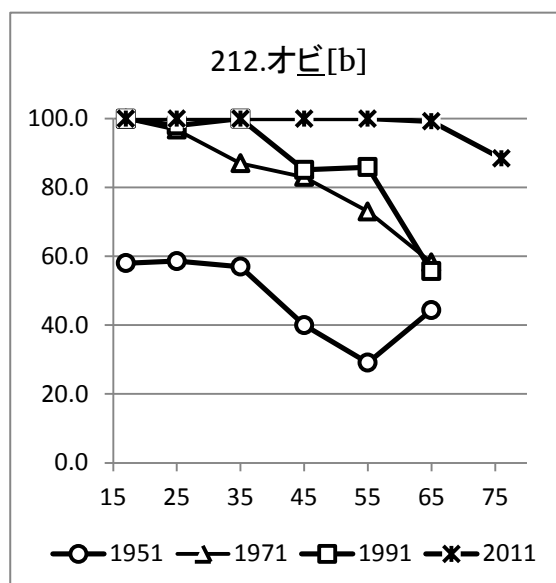
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35.6			
1892-1901	39.2			
1902-1911	45.0	54.5		
1912-1921	59.3	65.1		
1922-1931	63.2	81.9	70.0	
1932-1941	54.0	85.0	91.0	93.6
1942-1951		96.8	95.9	99.2
1952-1961		100.0	97.6	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 212.帯(オビ)

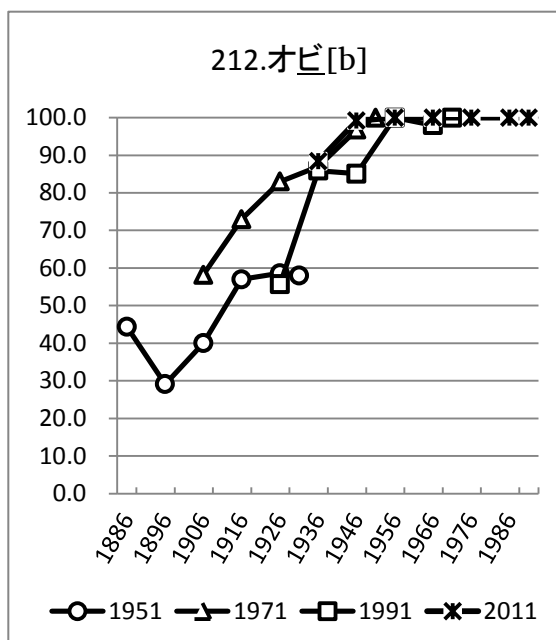
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	58.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	58.6	96.8	98.0	100.0
30-39歳	57.0	87.0	100.0	100.0
40-49歳	40.0	83.0	85.1	100.0
50-59歳	29.1	73.0	85.9	100.0
60-69歳	44.4	58.2	55.7	99.2
70-79歳	-	-	-	88.4
15-69歳	48	82	87	100
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44.4			
1892-1901	29.1			
1902-1911	40.0	58.2		
1912-1921	57.0	73.0		
1922-1931	58.6	83.0	55.7	
1932-1941	58.0	87.0	85.9	88.4
1942-1951		96.8	85.1	99.2
1952-1961		100.0	100.0	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



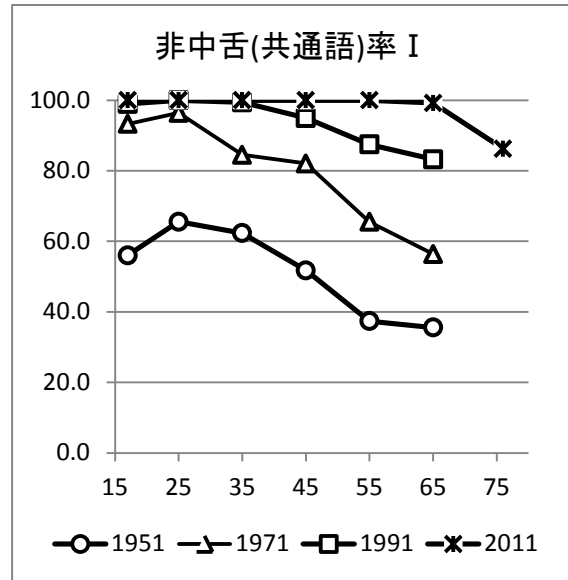
### 1.3.2. 母音

#### 1.3.2.1. 中舌音 I (ウ段音の中舌化)

## 中舌音 I

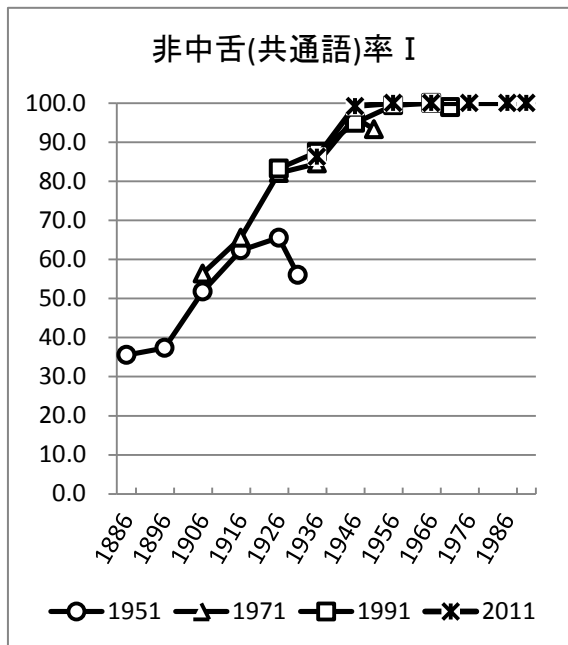
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	56.0	93.3	99.0	100.0
20-29歳	65.6	96.4	100.0	100.0
30-39歳	62.3	84.5	99.4	100.0
40-49歳	51.8	82.1	94.9	100.0
50-59歳	37.4	65.5	87.5	100.0
60-69歳	35.6	56.4	83.2	99.2
70-79歳	-	-	-	86.2
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

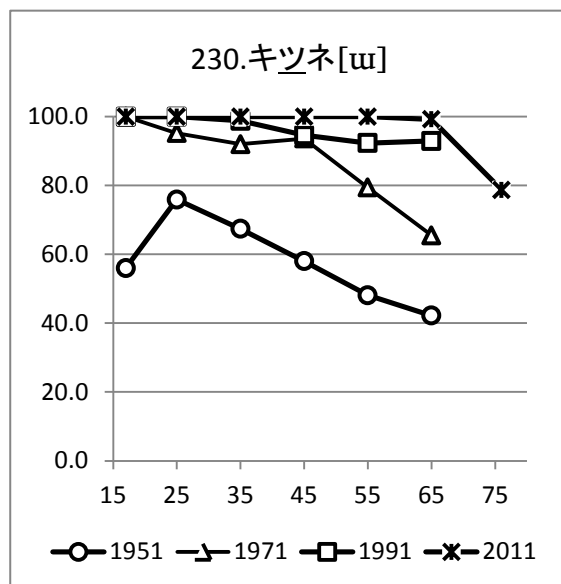
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35.6			
1892-1901	37.4			
1902-1911	51.8	56.4		
1912-1921	62.3	65.5		
1922-1931	65.6	82.1	83.2	
1932-1941	56.0	84.5	87.5	86.2
1942-1951		96.4	94.9	99.2
1952-1961		93.3	99.4	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			99.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100



## 230.狐(キツネ)

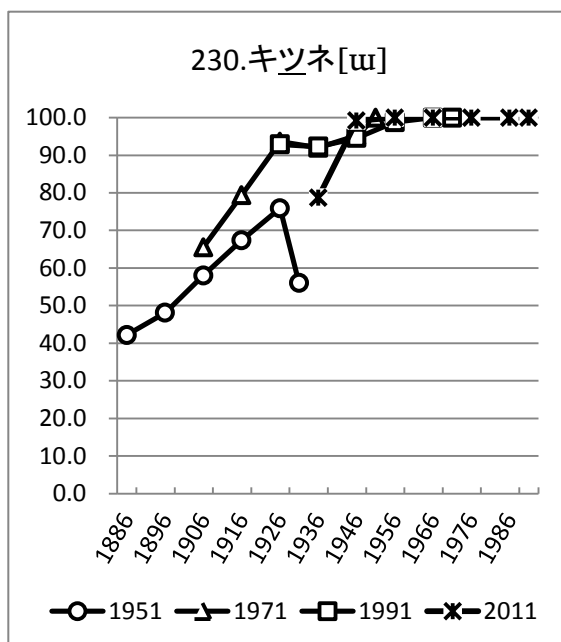
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	56.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	75.9	95.2	100.0	100.0
30-39歳	67.4	92.0	98.8	100.0
40-49歳	58.0	93.6	94.6	100.0
50-59歳	48.1	79.4	92.3	100.0
60-69歳	42.2	65.5	92.9	99.2
70-79歳	-	-	-	78.7
15-69歳	61	88	96	100
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

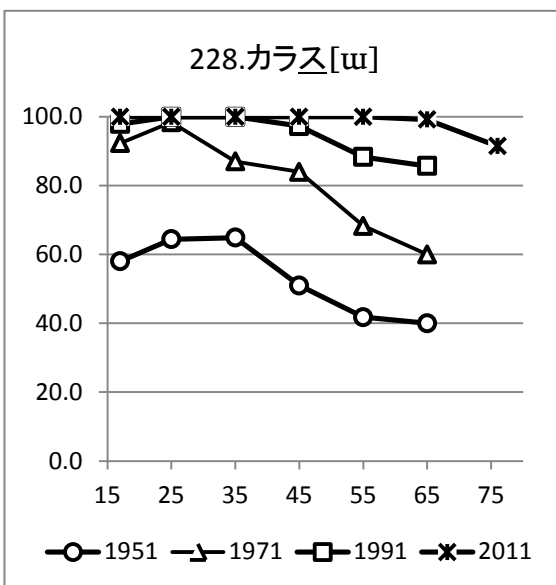
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	42.2			
1892-1901	48.1			
1902-1911	58.0	65.5		
1912-1921	67.4	79.4		
1922-1931	75.9	93.6	92.9	
1932-1941	56.0	92.0	92.3	78.7
1942-1951		95.2	94.6	99.2
1952-1961		100.0	98.8	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 228.鳥(カラス)

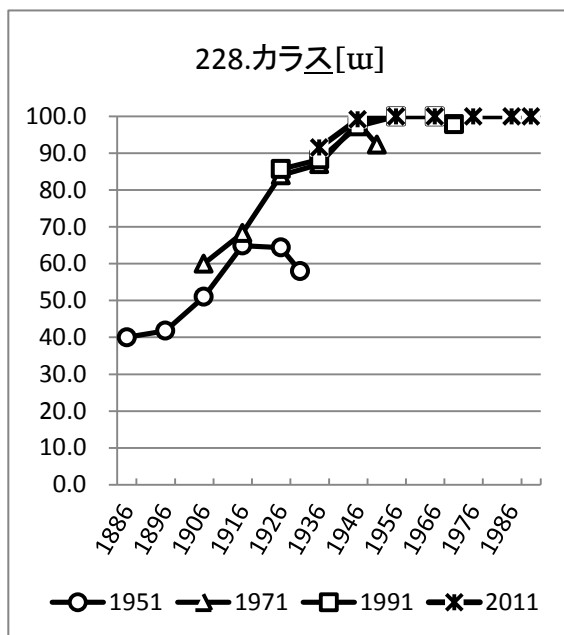
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	58.0	92.3	97.9	100.0
20-29歳	64.4	98.4	100.0	100.0
30-39歳	64.9	87.0	100.0	100.0
40-49歳	51.0	84.0	97.3	100.0
50-59歳	41.8	68.3	88.3	100.0
60-69歳	40.0	60.0	85.7	99.2
70-79歳	-	-	-	91.5
15-69歳	55	82	95	100
15-79歳	-	-	-	98



調査年別・生年コウホート別共通語化率

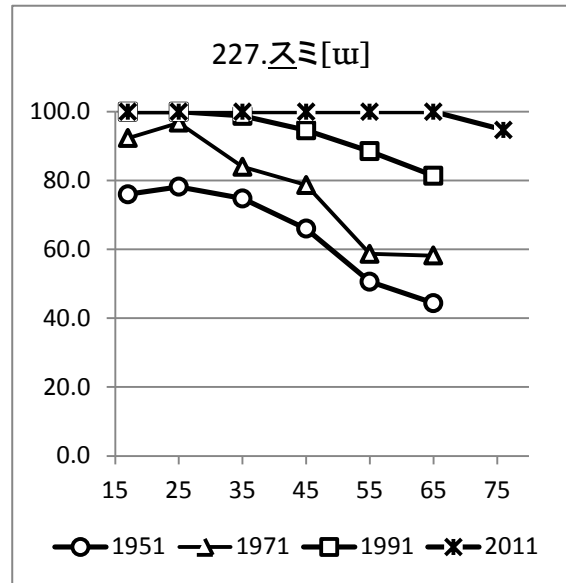
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	40.0			
1892-1901	41.8			
1902-1911	51.0	60.0		
1912-1921	64.9	68.3		
1922-1931	64.4	84.0	85.7	
1932-1941	58.0	87.0	88.3	91.5
1942-1951		98.4	97.3	99.2
1952-1961		92.3	100.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 227.墨(スミ)

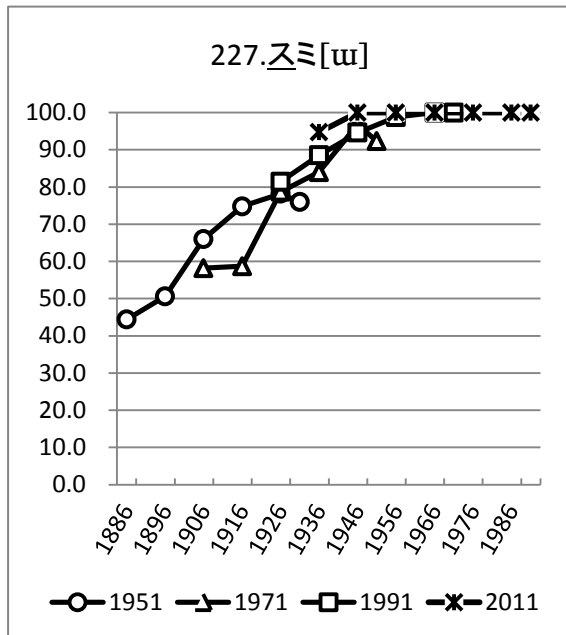
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	76.0	92.3	100.0	100.0
20-29歳	78.2	96.8	100.0	100.0
30-39歳	74.8	84.0	98.8	100.0
40-49歳	66.0	78.7	94.6	100.0
50-59歳	50.6	58.7	88.5	100.0
60-69歳	44.4	58.2	81.4	100.0
70-79歳	-	-	-	94.7
15-69歳	67	78	93	100
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

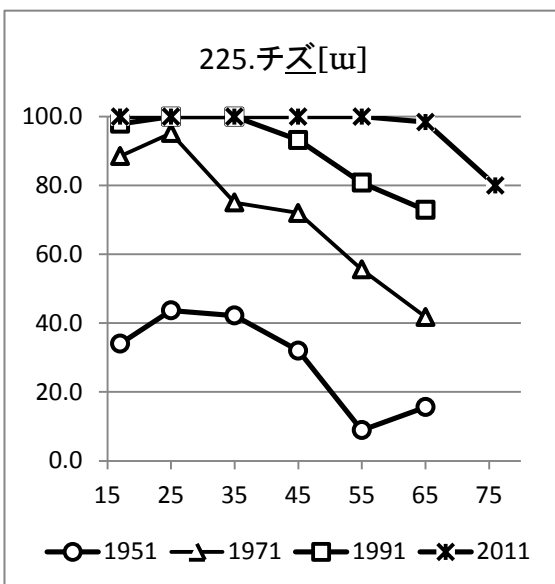
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44.4			
1892-1901	50.6			
1902-1911	66.0	58.2		
1912-1921	74.8	58.7		
1922-1931	78.2	78.7	81.4	
1932-1941	76.0	84.0	88.5	94.7
1942-1951		96.8	94.6	100.0
1952-1961		92.3	98.8	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 225.地図(チズ)

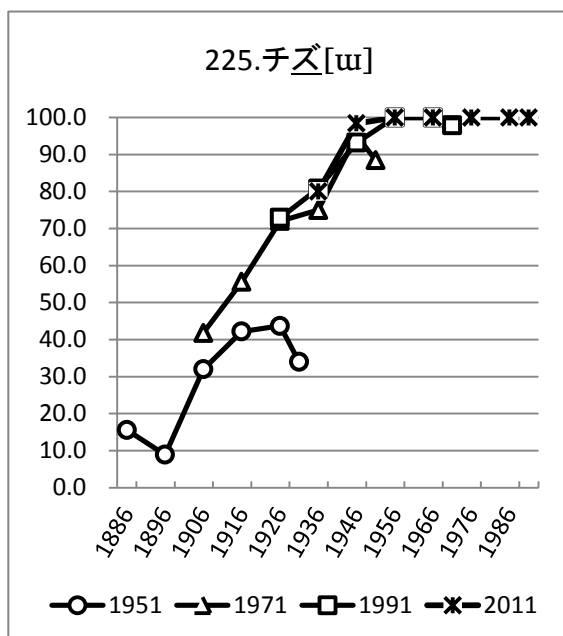
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	34.0	88.5	97.9	100.0
20-29歳	43.7	95.2	100.0	100.0
30-39歳	42.2	75.0	100.0	100.0
40-49歳	32.0	72.0	93.2	100.0
50-59歳	8.9	55.6	80.8	100.0
60-69歳	15.6	41.8	72.9	98.4
70-79歳	-	-	-	80.0
15-69歳	32	71	90	100
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	15.6			
1892-1901	8.9			
1902-1911	32.0	41.8		
1912-1921	42.2	55.6		
1922-1931	43.7	72.0	72.9	
1932-1941	34.0	75.0	80.8	80.0
1942-1951		95.2	93.2	98.4
1952-1961		88.5	100.0	100.0
1962-1971			100.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

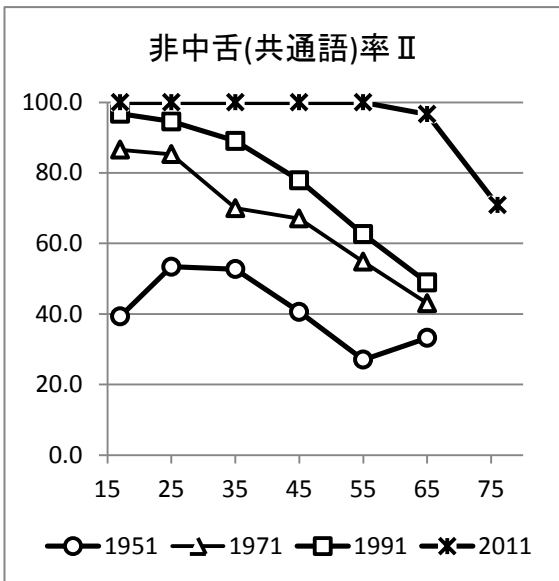


### 1.3.2.2. 中舌音Ⅱ（イ段音の中舌化）

## 中舌音Ⅱ

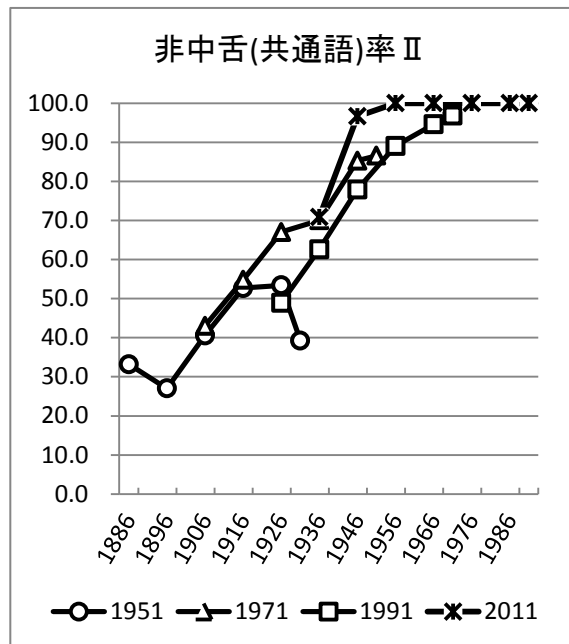
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	39.3	86.6	96.8	100.0
20-29歳	53.4	85.3	94.6	100.0
30-39歳	52.7	70.0	89.1	100.0
40-49歳	40.6	67.0	77.9	100.0
50-59歳	27.0	54.8	62.6	100.0
60-69歳	33.2	43.0	48.9	96.6
70-79歳	-	-	-	70.9
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

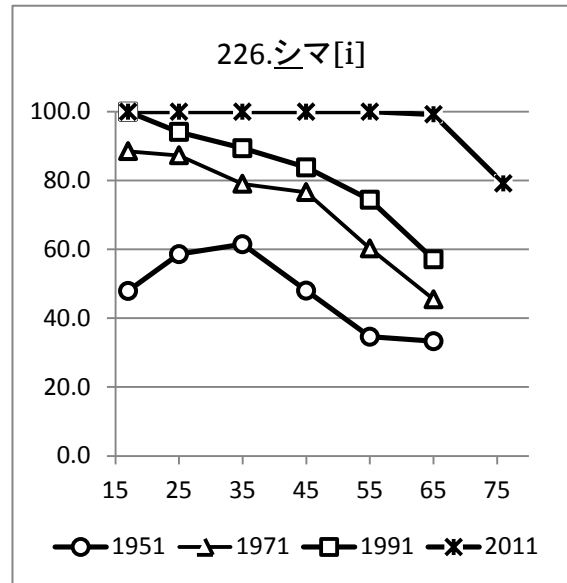
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	33.2			
1892-1901	27.0			
1902-1911	40.6	43.0		
1912-1921	52.7	54.8		
1922-1931	53.4	67.0	48.9	
1932-1941	39.3	70.0	62.6	70.9
1942-1951		85.3	77.9	96.6
1952-1961		86.6	89.1	100.0
1962-1971			94.6	100.0
1972-1981			96.8	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 226.島(シマ)

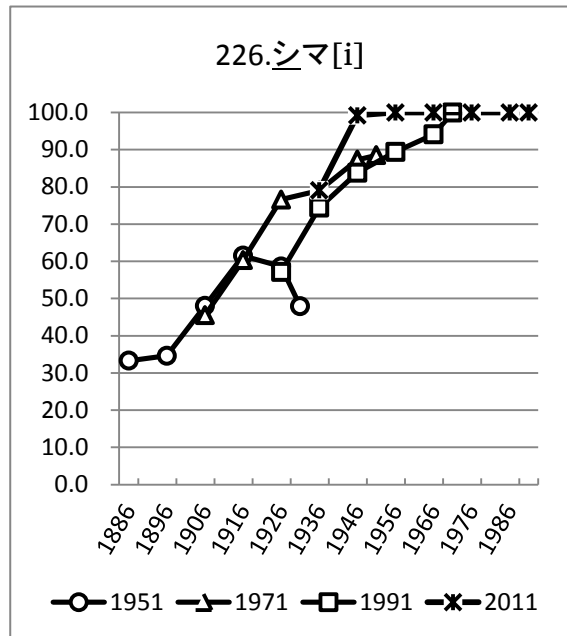
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	47.9	88.5	100.0	100.0
20-29歳	58.6	87.3	94.1	100.0
30-39歳	61.5	79.0	89.4	100.0
40-49歳	48.0	76.6	83.8	100.0
50-59歳	34.6	60.3	74.4	100.0
60-69歳	33.3	45.5	57.1	99.2
70-79歳	-	-	-	79.1
15-69歳	50	73	82	100
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

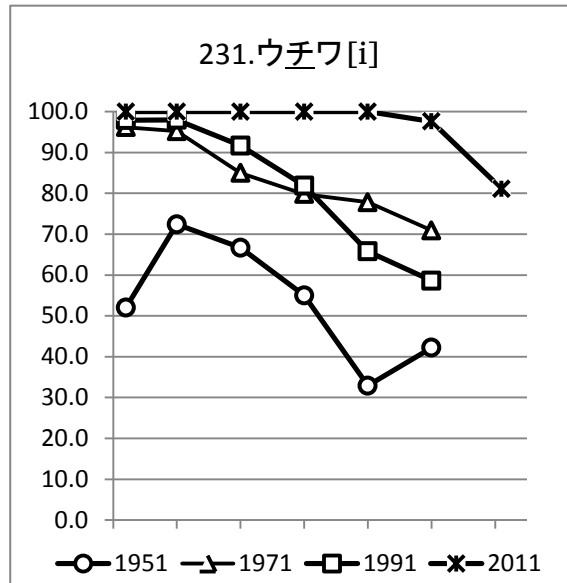
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	33.3			
1892-1901	34.6			
1902-1911	48.0	45.5		
1912-1921	61.5	60.3		
1922-1931	58.6	76.6	57.1	
1932-1941	47.9	79.0	74.4	79.1
1942-1951		87.3	83.8	99.2
1952-1961		88.5	89.4	100.0
1962-1971			94.1	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 231.団扇(ウチワ)

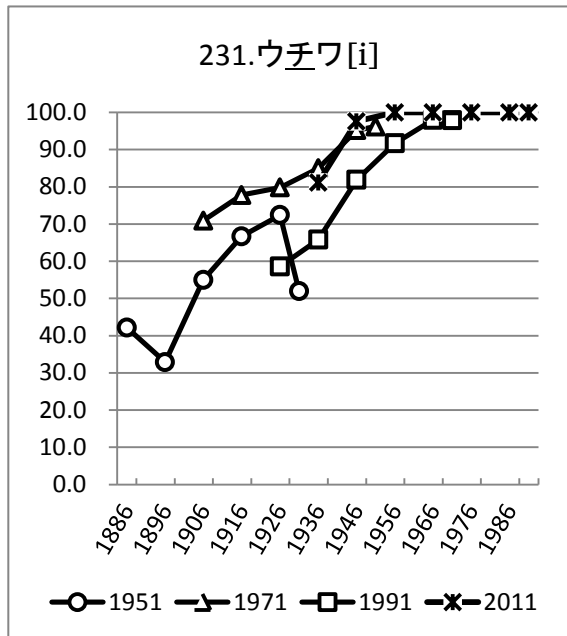
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	52.0	96.2	97.9	100.0
20-29歳	72.4	95.2	98.0	100.0
30-39歳	66.7	85.0	91.7	100.0
40-49歳	55.0	79.8	81.9	100.0
50-59歳	32.9	77.8	65.8	100.0
60-69歳	42.2	70.9	58.6	97.6
70-79歳	-	-	-	81.1
15-69歳	56	83	81	99
15-79歳	-	-	-	96



調査年別・生年コウホート別共通語化率

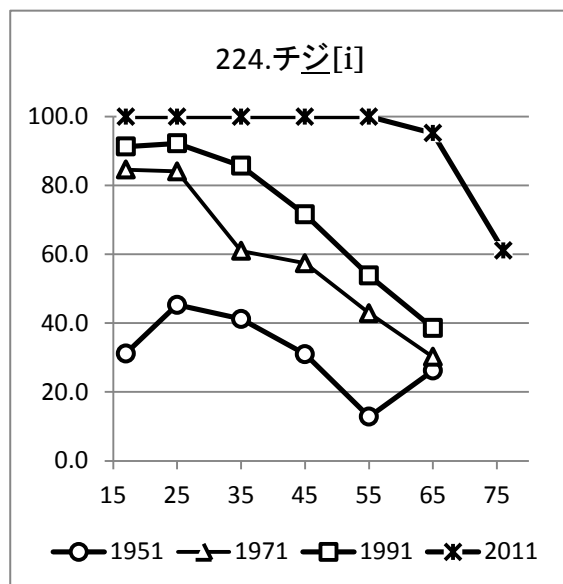
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	42.2			
1892-1901	32.9			
1902-1911	55.0	70.9		
1912-1921	66.7	77.8		
1922-1931	72.4	79.8	58.6	
1932-1941	52.0	85.0	65.8	81.1
1942-1951		95.2	81.9	97.6
1952-1961		96.2	91.7	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 224.知事(チジ)

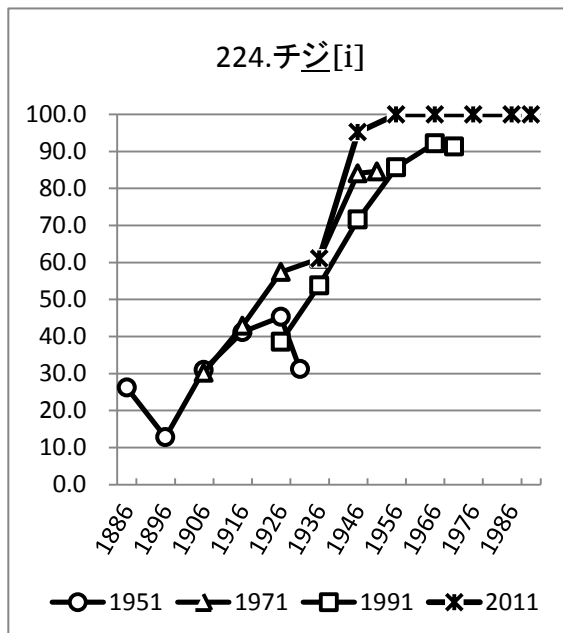
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	31.2	84.6	91.3	100.0
20-29歳	45.3	84.1	92.2	100.0
30-39歳	41.2	61.0	85.7	100.0
40-49歳	31.0	57.4	71.6	100.0
50-59歳	12.8	42.9	53.8	100.0
60-69歳	26.2	30.2	38.6	95.2
70-79歳	-	-	-	61.1
15-69歳	33	58	70	98
15-79歳	-	-	-	91



調査年別・生年コウホート別共通語化率

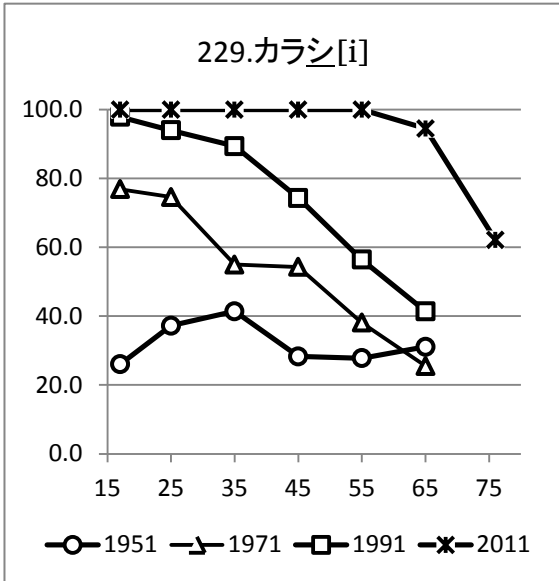
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	26.2			
1892-1901	12.8			
1902-1911	31.0	30.2		
1912-1921	41.2	42.9		
1922-1931	45.3	57.4	38.6	
1932-1941	31.2	61.0	53.8	61.1
1942-1951		84.1	71.6	95.2
1952-1961		84.6	85.7	100.0
1962-1971			92.2	100.0
1972-1981			91.3	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 229.辛子(カラシ)

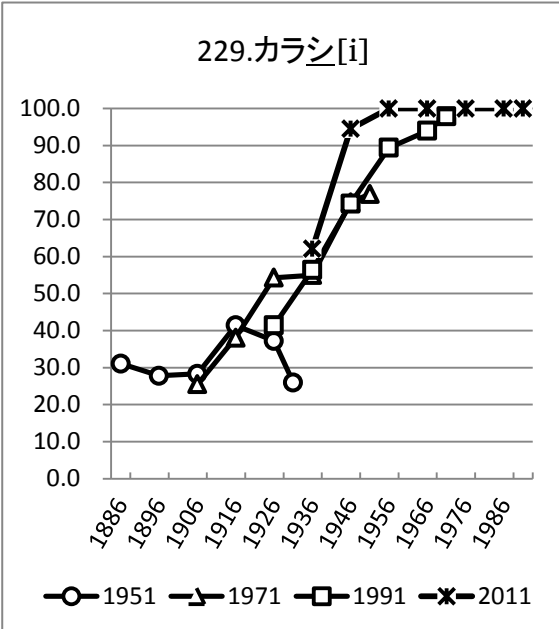
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	26.0	76.9	97.9	100.0
20-29歳	37.2	74.6	94.0	100.0
30-39歳	41.4	55.0	89.4	100.0
40-49歳	28.3	54.3	74.3	100.0
50-59歳	27.8	38.1	56.4	100.0
60-69歳	31.1	25.5	41.4	94.5
70-79歳	-	-	-	62.1
15-69歳	33	53	74	98
15-79歳	-	-	-	91



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	31.1			
1892-1901	27.8			
1902-1911	28.3	25.5		
1912-1921	41.4	38.1		
1922-1931	37.2	54.3	41.4	
1932-1941	26.0	55.0	56.4	62.1
1942-1951		74.6	74.3	94.5
1952-1961		76.9	89.4	100.0
1962-1971			94.0	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

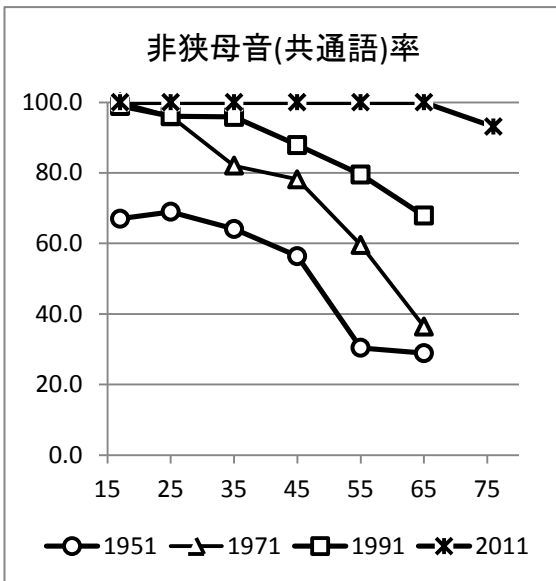


### 1.3.2.3. イとエ I (エの狭母音化)

## イとエ I

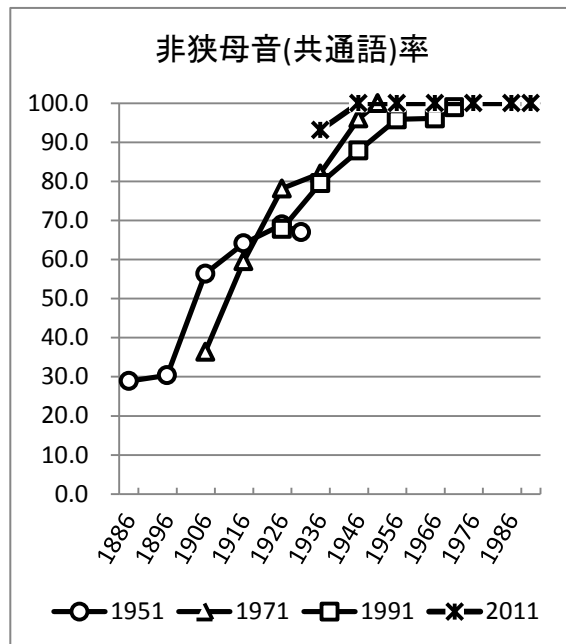
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	67.0	100.0	99.0	100.0
20-29歳	69.0	96.1	96.1	100.0
30-39歳	64.1	82.0	95.9	100.0
40-49歳	56.4	78.2	87.9	100.0
50-59歳	30.4	59.6	79.5	100.0
60-69歳	28.9	36.4	67.9	100.0
70-79歳	-	-	-	93.1
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

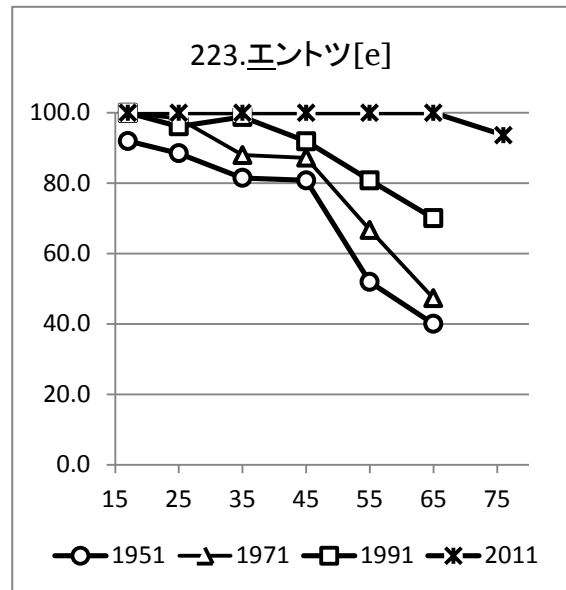
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	28.9			
1892-1901	30.4			
1902-1911	56.4	36.4		
1912-1921	64.1	59.6		
1922-1931	69.0	78.2	67.9	
1932-1941	67.0	82.0	79.5	93.1
1942-1951		96.1	87.9	100.0
1952-1961		100.0	95.9	100.0
1962-1971			96.1	100.0
1972-1981			99.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 223.煙突(エントツ)

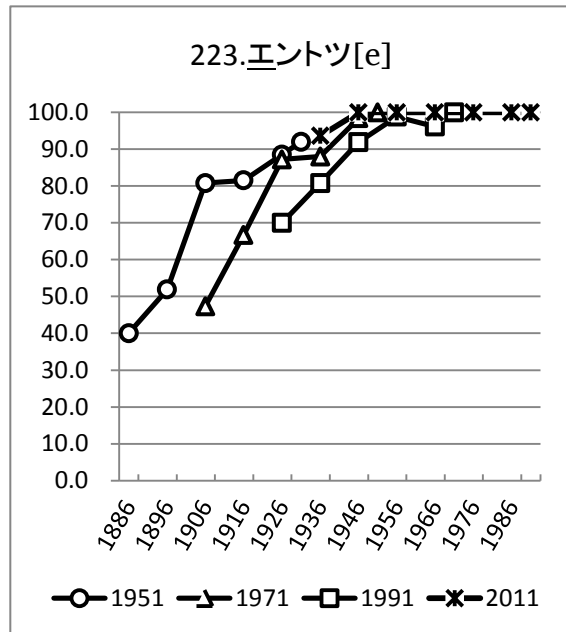
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	92.0	100.0	100.0	100.0
20-29歳	88.5	98.4	96.1	100.0
30-39歳	81.5	88.0	98.8	100.0
40-49歳	80.8	87.2	91.9	100.0
50-59歳	51.9	66.7	80.8	100.0
60-69歳	40.0	47.3	70.0	100.0
70-79歳	-	-	-	93.6
15-69歳	75	81	89	100
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

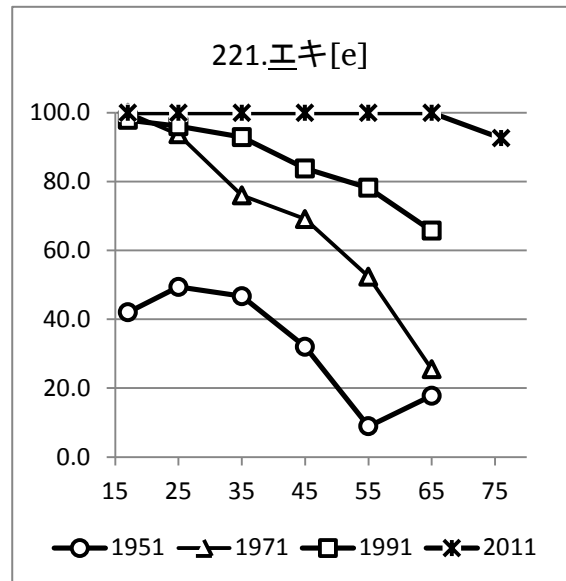
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	40.0			
1892-1901	51.9			
1902-1911	80.8	47.3		
1912-1921	81.5	66.7		
1922-1931	88.5	87.2	70.0	
1932-1941	92.0	88.0	80.8	93.6
1942-1951		98.4	91.9	100.0
1952-1961		100.0	98.8	100.0
1962-1971			96.1	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 221.駅(エキ)

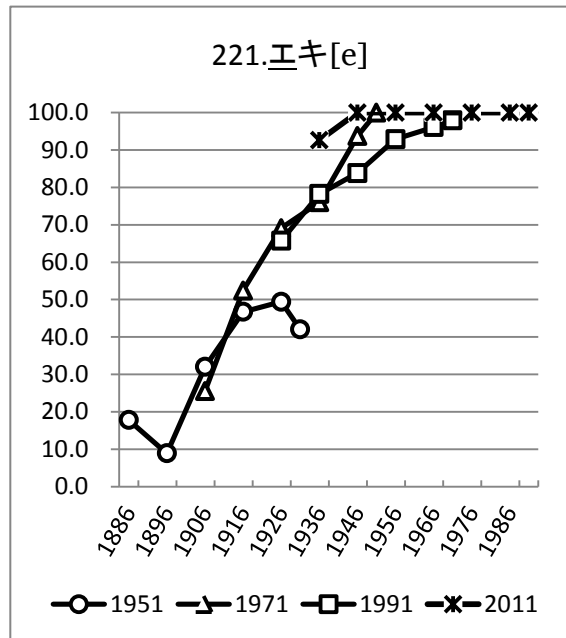
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	42.0	100.0	97.9	100.0
20-29歳	49.4	93.7	96.1	100.0
30-39歳	46.7	76.0	92.9	100.0
40-49歳	32.0	69.1	83.8	100.0
50-59歳	8.9	52.4	78.2	100.0
60-69歳	17.8	25.5	65.7	100.0
70-79歳	-	-	-	92.6
15-69歳	35	68	85	100
15-79歳	-	-	-	99



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	17.8			
1892-1901	8.9			
1902-1911	32.0	25.5		
1912-1921	46.7	52.4		
1922-1931	49.4	69.1	65.7	
1932-1941	42.0	76.0	78.2	92.6
1942-1951		93.7	83.8	100.0
1952-1961		100.0	92.9	100.0
1962-1971			96.1	100.0
1972-1981			97.9	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0

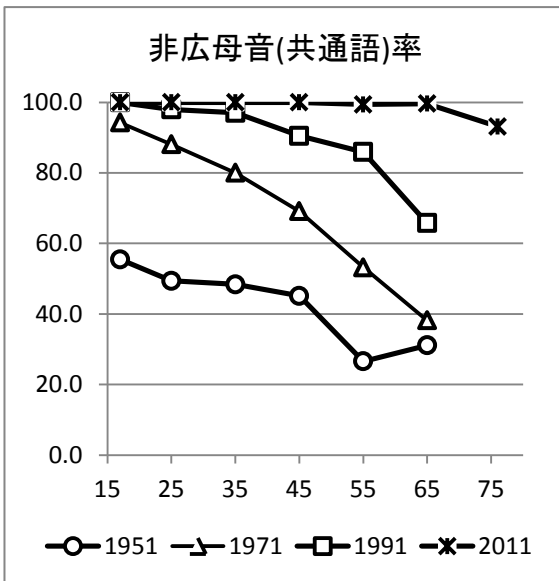


### 1.3.2.4. イとエⅡ（イの広母音化）

## イとエⅡ

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	55.5	94.3	100.0	100.0
20-29歳	49.4	88.1	98.0	100.0
30-39歳	48.4	80.0	97.1	100.0
40-49歳	45.2	69.2	90.5	100.0
50-59歳	26.6	53.2	85.9	99.4
60-69歳	31.1	38.2	65.8	99.6
70-79歳	-	-	-	93.2
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100.0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

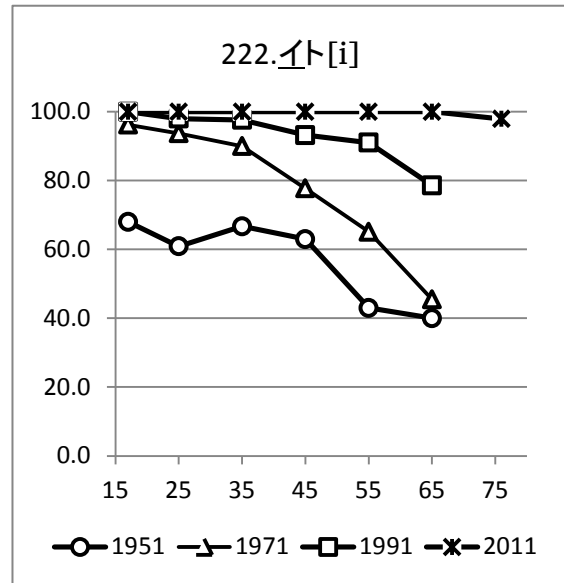
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	31.1			
1892-1901	26.6			
1902-1911	45.2	38.2		
1912-1921	48.4	53.2		
1922-1931	49.4	69.2	65.8	
1932-1941	55.5	80.0	85.9	93.2
1942-1951		88.1	90.5	99.6
1952-1961		94.3	97.1	99.4
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 222.系(イト)

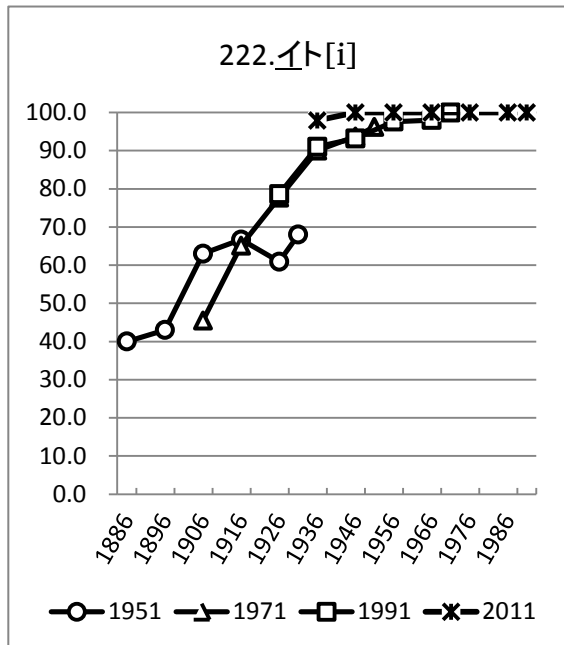
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	68.0	96.2	100.0	100.0
20-29歳	60.9	93.7	98.0	100.0
30-39歳	66.7	90.0	97.6	100.0
40-49歳	63.0	77.7	93.2	100.0
50-59歳	43.0	65.1	91.0	100.0
60-69歳	40.0	45.5	78.6	100.0
70-79歳	-	-	-	97.9
15-69歳	59	78	93	100
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

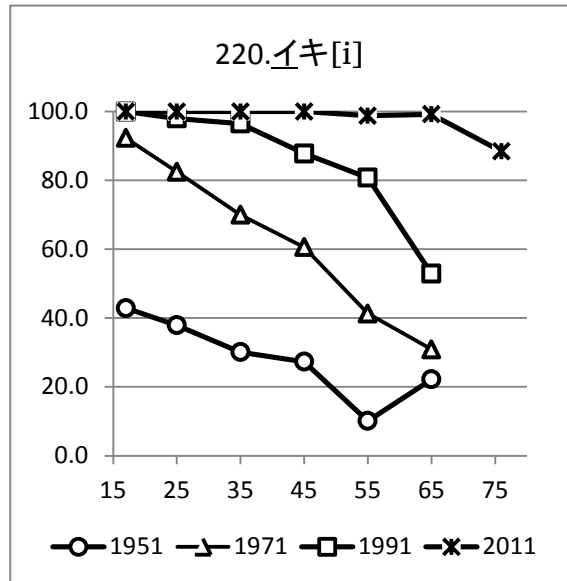
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	40.0			
1892-1901	43.0			
1902-1911	63.0	45.5		
1912-1921	66.7	65.1		
1922-1931	60.9	77.7	78.6	
1932-1941	68.0	90.0	91.0	97.9
1942-1951		93.7	93.2	100.0
1952-1961		96.2	97.6	100.0
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 220.息(イキ)

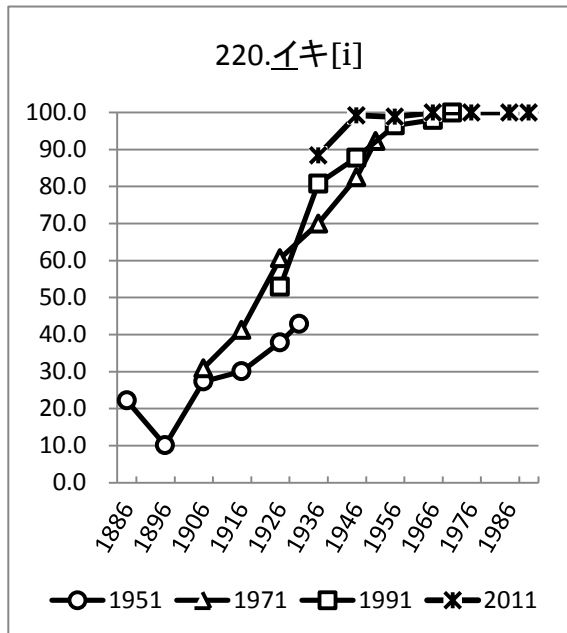
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	42.9	92.3	100.0	100.0
20-29歳	37.9	82.5	98.0	100.0
30-39歳	30.1	70.0	96.5	100.0
40-49歳	27.3	60.6	87.8	100.0
50-59歳	10.1	41.3	80.8	98.8
60-69歳	22.2	30.9	52.9	99.2
70-79歳	-	-	-	88.4
15-69歳	28	61	85	100
15-79歳	-	-	-	97



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	22.2			
1892-1901	10.1			
1902-1911	27.3	30.9		
1912-1921	30.1	41.3		
1922-1931	37.9	60.6	52.9	
1932-1941	42.9	70.0	80.8	88.4
1942-1951		82.5	87.8	99.2
1952-1961		92.3	96.5	98.8
1962-1971			98.0	100.0
1972-1981			100.0	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 2. アクセント項目

アクセント項目は、「背中」(203)、「猫」(207)、「旗」(210)、「鳥」(228)、「団扇」(231)の5項目である。

「団扇」を除く、それぞれの語の伝統的な方言アクセントの型と共通語アクセントの型は以下の通りである。

	調査語彙	方言	共通語
203	セナカ	○●○	○●●
207	ネコ	○●	●○
210	ハタ	○○または●○	○●
228	カラス	○●○	●○○

「団扇」は伝統的な方言アクセントの型は○○●である。共通語アクセントは伝統的には○●○であるが、近年、急速に○●●が増えつつある。今回の第4回調査の結果から、鶴岡でも「共通語」としてこの○○●が急速に取り入れられていることが分かる。

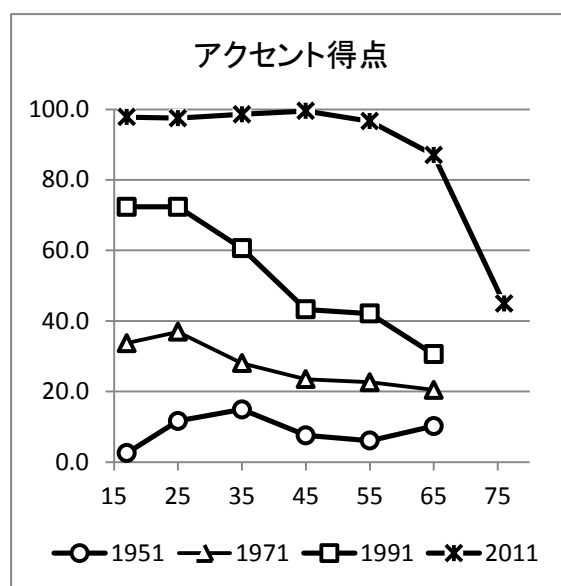
過去3回の調査では、伝統的な共通語アクセントの○●○のみを「共通語」として扱ってきた。今回も同じように○●○のみを「共通語」と扱ってしまうと、鶴岡市では「団扇」は共通語化していないか方言化しているという、実態を反映しない結果となってしまう。本報告書では、過去3回の調査報告書に倣って○●○で反応した比率で表・グラフを提示するが、その結果の解釈には十分に注意されたい。

## 2.1. アクセント得点

### アクセント得点

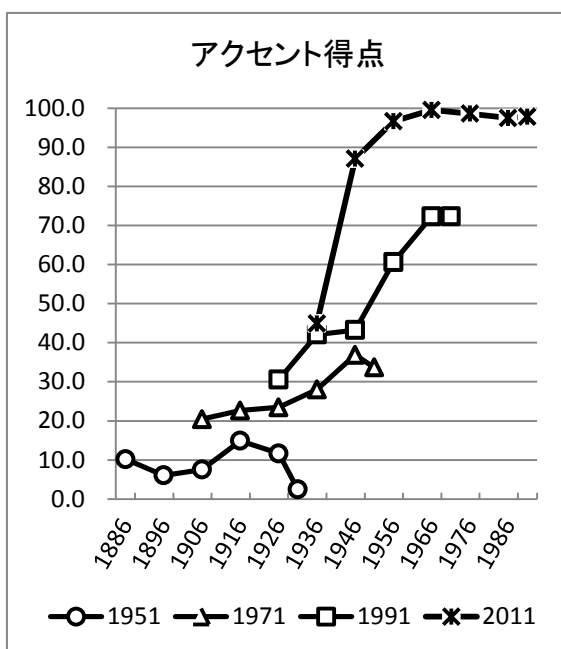
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	2.5	33.7	72.4	97.8
20-29歳	11.7	36.9	72.4	97.5
30-39歳	14.9	28.0	60.6	98.6
40-49歳	7.6	23.5	43.3	99.6
50-59歳	6.1	22.6	42.1	96.6
60-69歳	10.2	20.5	30.6	87.1
70-79歳	-	-	-	44.9
15-69歳	78.0	99.0	99.0	100.0
15-79歳	-	-	-	100



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	10.2			
1892-1901	6.1			
1902-1911	7.6	20.5		
1912-1921	14.9	22.6		
1922-1931	11.7	23.5	30.6	
1932-1941	2.5	28.0	42.1	44.9
1942-1951		36.9	43.3	87.1
1952-1961		33.7	60.6	96.6
1962-1971			72.4	99.6
1972-1981			72.4	98.6
1982-1991				97.5
1992-1996				97.8

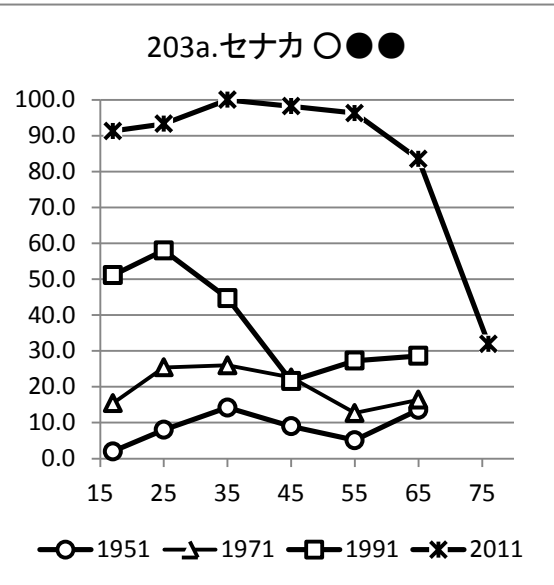


## 2.2. アクセント項目

### 203.背 中アクセント

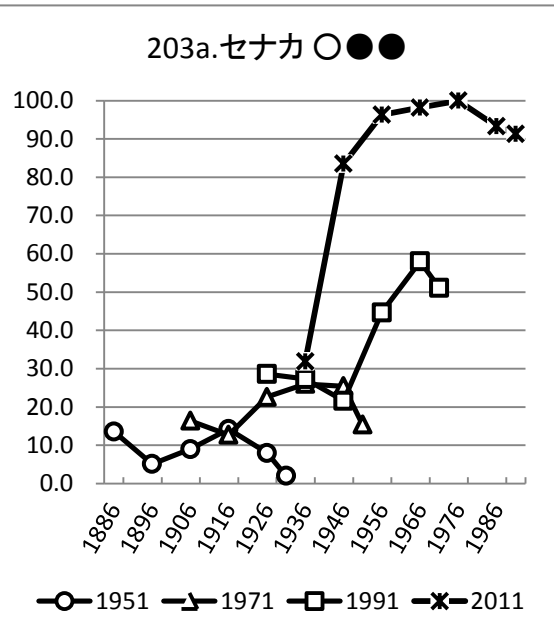
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	2.0	15.4	51.1	91.3
20-29歳	8.0	25.4	58.0	93.3
30-39歳	14.2	26.0	44.7	100.0
40-49歳	9.0	22.6	21.6	98.2
50-59歳	5.1	12.7	27.3	96.3
60-69歳	13.6	16.4	28.6	83.5
70-79歳	-	-	-	31.9
15-69歳	9	21	37	92
15-79歳	-	-	-	80



調査年別・生年コウホート別共通語化率

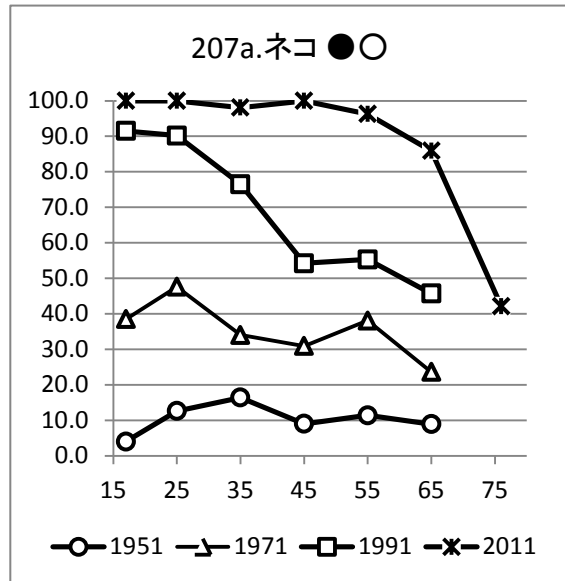
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	13.6			
1892-1901	5.1			
1902-1911	9.0	16.4		
1912-1921	14.2	12.7		
1922-1931	8.0	22.6	28.6	
1932-1941	2.0	26.0	27.3	31.9
1942-1951		25.4	21.6	83.5
1952-1961		15.4	44.7	96.3
1962-1971			58.0	98.2
1972-1981			51.1	100.0
1982-1991				93.3
1992-1996				91.3



## 207.猫アクセント

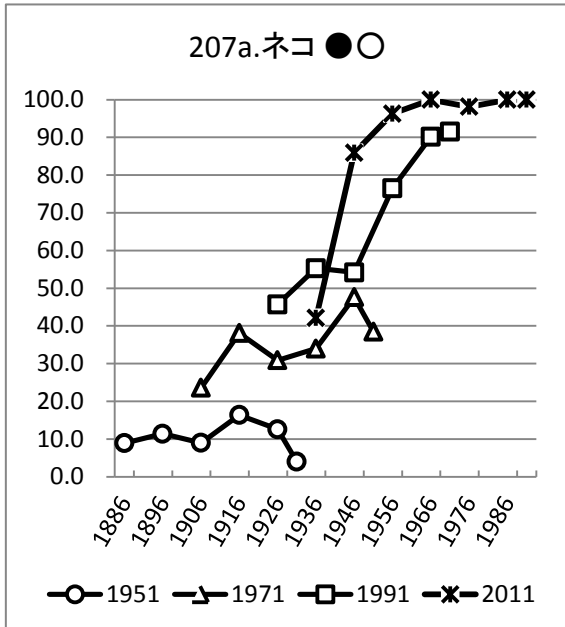
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	4.0	38.5	91.5	100.0
20-29歳	12.6	47.6	90.2	100.0
30-39歳	16.4	34.0	76.5	98.1
40-49歳	9.0	30.9	54.2	100.0
50-59歳	11.4	38.1	55.3	96.3
60-69歳	8.9	23.6	45.7	85.9
70-79歳	-	-	-	42.1
15-69歳	12	35	67	94
15-79歳	-	-	-	84



調査年別・生年コウホート別共通語化率

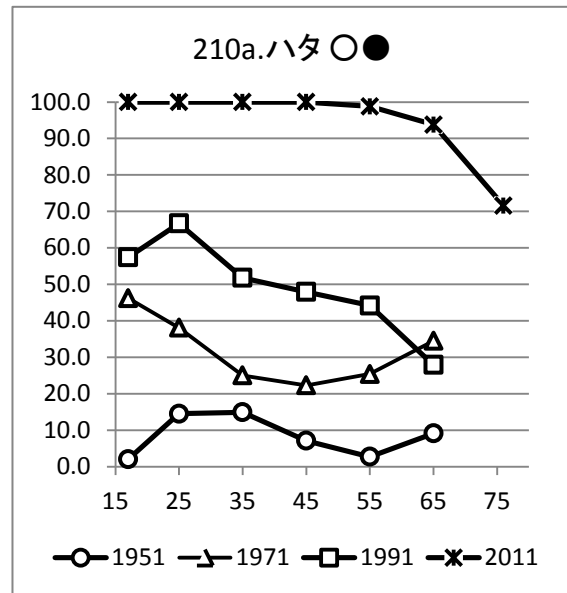
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	8.9			
1892-1901	11.4			
1902-1911	9.0	23.6		
1912-1921	16.4	38.1		
1922-1931	12.6	30.9	45.7	
1932-1941	4.0	34.0	55.3	42.1
1942-1951		47.6	54.2	85.9
1952-1961		38.5	76.5	96.3
1962-1971			90.2	100.0
1972-1981			91.5	98.1
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 210.旗アクセント

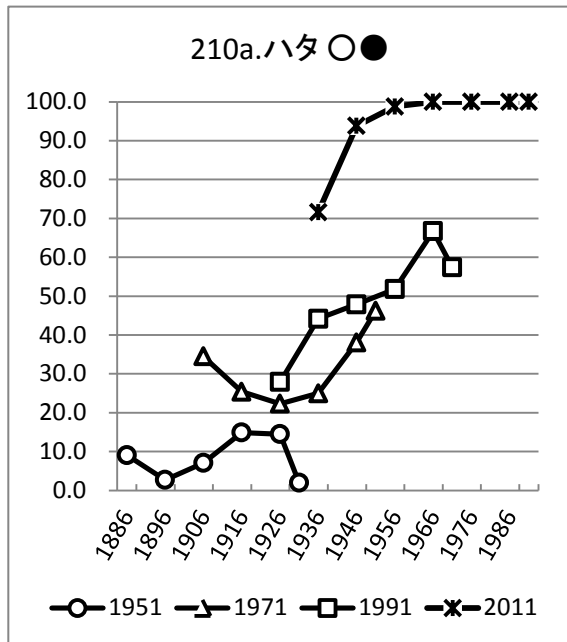
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	2.0	46.2	57.4	100.0
20-29歳	14.5	38.1	66.7	100.0
30-39歳	14.9	25.0	51.8	100.0
40-49歳	7.1	22.3	47.9	100.0
50-59歳	2.7	25.4	44.2	98.8
60-69歳	9.1	34.5	27.9	93.8
70-79歳	-	-	-	71.6
15-69歳	10	29	48	98
15-79歳	-	-	-	92



調査年別・生年コウホート別共通語化率

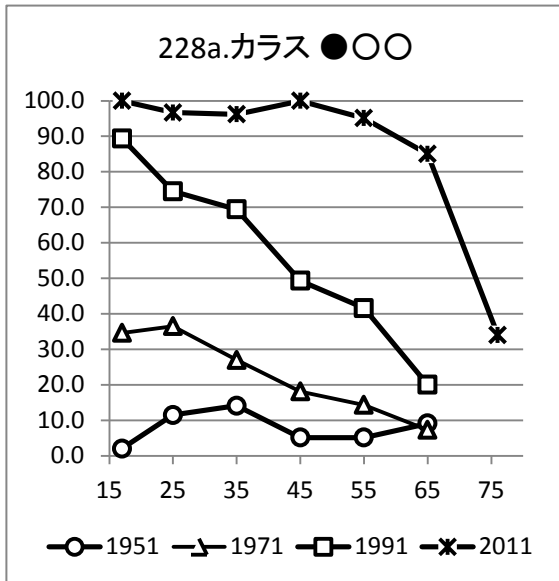
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	9.1			
1892-1901	2.7			
1902-1911	7.1	34.5		
1912-1921	14.9	25.4		
1922-1931	14.5	22.3	27.9	
1932-1941	2.0	25.0	44.2	71.6
1942-1951		38.1	47.9	93.8
1952-1961		46.2	51.8	98.8
1962-1971			66.7	100.0
1972-1981			57.4	100.0
1982-1991				100.0
1992-1996				100.0



## 228.烏アクセント

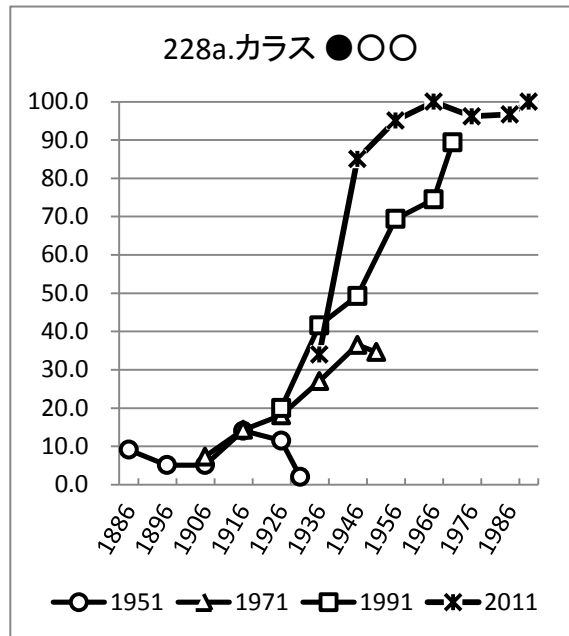
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	2.0	34.6	89.4	100.0
20-29歳	11.5	36.5	74.5	96.7
30-39歳	14.1	27.0	69.4	96.2
40-49歳	5.1	18.1	49.3	100.0
50-59歳	5.1	14.3	41.6	95.1
60-69歳	9.1	7.3	20.0	85.0
70-79歳	-	-	-	34.0
15-69歳	9	22	55	93
15-79歳	-	-	-	81



調査年別・生年コウホート別共通語化率

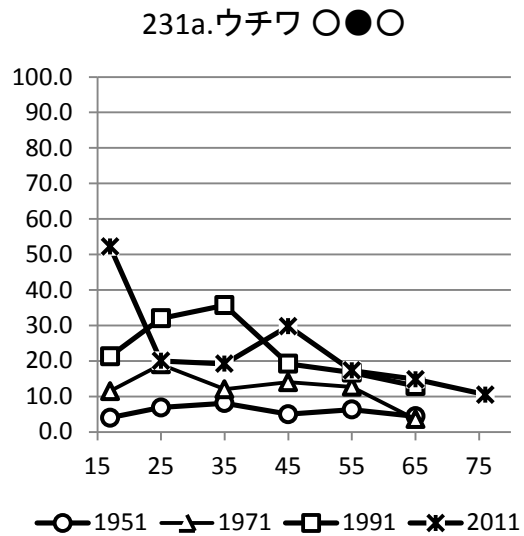
生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	9.1			
1892-1901	5.1			
1902-1911	5.1	7.3		
1912-1921	14.1	14.3		
1922-1931	11.5	18.1	20.0	
1932-1941	2.0	27.0	41.6	34.0
1942-1951		36.5	49.3	85.0
1952-1961		34.6	69.4	95.1
1962-1971			74.5	100.0
1972-1981			89.4	96.2
1982-1991				96.7
1992-1996				100.0



## 231.団扇アクセント

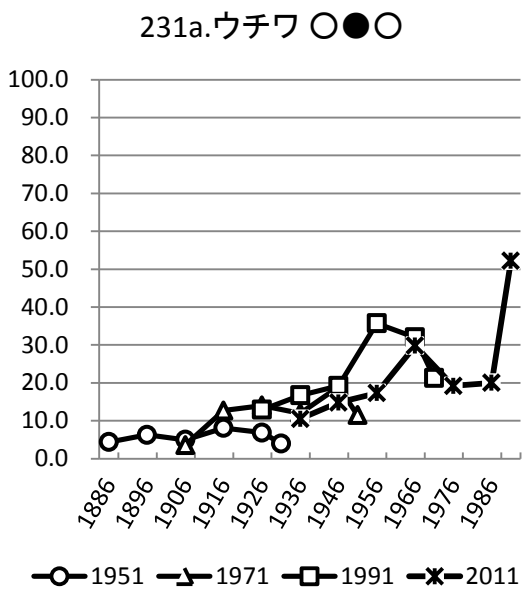
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	4.0	11.5	21.3	52.2
20-29歳	6.9	19.0	32.0	20.0
30-39歳	8.1	12.0	35.7	19.2
40-49歳	5.0	14.0	19.2	29.8
50-59歳	6.3	12.7	16.7	17.3
60-69歳	4.4	3.6	12.9	14.8
70-79歳	-	-	-	10.5
15-69歳	6	13	23	0
15-79歳	-	-	-	0



調査年別・生年コウホート別共通語化率

生年コウホート	1951	1971	1991	2011
1882-1891	4.4			
1892-1901	6.3			
1902-1911	5.0	3.6		
1912-1921	8.1	12.7		
1922-1931	6.9	14.0	12.9	
1932-1941	4.0	12.0	16.7	10.5
1942-1951		19.0	19.2	14.8
1952-1961		11.5	35.7	17.3
1962-1971			32.0	29.8
1972-1981			21.3	19.2
1982-1991				20.0
1992-1996				52.2



※ただし、4回目の結果については次頁を参照のこと。

## ウチワのアクセントについて

既に述べたように、「団扇」の伝統的な共通語アクセントは○●○であるが、近年、急速に○●●が増えつつある。「団扇」のアクセントの表・グラフは過去3回に倣って伝統的な○●○率を提示している。15～19歳を除いて、ほとんど共通語化していないか、方言化しているように見える。

過去3回の調査では、伝統的な共通語アクセントの○●○のみを「共通語」として扱ってきた。今回も同じように○●○のみが「共通語」とであると解釈すると、鶴岡市では「団扇」は共通語化していないか、方言化しているという、実態を反映しない結果となってしまう。

第4回調査の「団扇」のアクセントで回答されたアクセント型とその割合は下記のようにあった。急速に増加している○●●をどのように扱うかについては、本報告書の分析編にあたる「地域社会の言語生活 鶴岡における20年間隔4回の継続調査」(2014年度刊行予定)で詳しく論じる。

第4回調査における「団扇」のアクセント

	○●○	○○●	○○○	○●●	●○○	無回答	計
15-19 歳	12 (52.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (47.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	23
20-29 歳	6 (20.0)	2 (6.7)	0 (0.0)	22 (73.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	30
30-39 歳	10 (19.2)	3 (5.8)	0 (0.0)	39 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52
40-49 歳	17 (29.8)	2 (3.5)	0 (0.0)	37 (64.9)	0 (0.0)	1 (1.8)	57
50-59 歳	14 (17.3)	11 (13.6)	1 (0.0)	55 (67.9)	1 (1.2)	0 (0.0)	81
60-69 歳	19 (14.8)	20 (15.6)	1 (1.2)	82 (64.1)	2 (1.6)	4 (3.1)	128
70-79 歳	10 (10.5)	29 (30.5)	0 (0.0)	55 (57.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	95
計	88 (18.9)	67 (14.4)	2 (0.4)	301 (64.6)	3 (0.6)	5 (1.1)	466

( )内は% 項目の並びは第3回調査の報告書の順。

# 集計表



表Ⅲ-1 口(クチ) [201.]

	計	y		z	
		人数	%	人数	%
全体	466	456	97.9	10	2.1
男	198	191	96.5	7	3.5
女	268	265	98.9	3	1.1
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	2	1.6
70～79歳	95	87	91.6	8	8.4
低学歴	71	65	91.5	6	8.5
中学歴	285	281	98.6	4	1.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0

表Ⅲ-2 髭(ヒゲ) [202.]

	計	ç		φ	
		人数	%	人数	%
全体	466	450	96.6	16	3.4
男	198	188	94.9	10	5.1
女	268	262	97.8	6	2.2
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	1	0.8
70～79歳	95	80	84.2	15	15.8
低学歴	71	62	87.3	9	12.7
中学歴	285	280	98.2	5	1.8
高学歴	109	107	98.2	2	1.8

表Ⅲ-3 背中(セナカ) [203.]

	計	s		ç	
		人数	%	人数	%
全体	466	465	99.8	1	0.2
男	198	197	99.5	1	0.5
女	268	268	100.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	128	100.0	0	0.0
70～79歳	95	94	98.9	1	1.1
低学歴	71	70	98.6	1	1.4
中学歴	285	285	100.0	0	0.0
高学歴	109	109	100.0	0	0.0

表Ⅲ-4 汗(アセ) [204.]

	計	s		ś	
		人数	%	人数	%
全体	466	463	99.4	3	0.6
男	198	196	99.0	2	1.0
女	268	267	99.6	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	128	100.0	0	0.0
70～79歳	95	92	96.8	3	3.2
低学歴	71	69	97.2	2	2.8
中学歴	285	284	99.6	1	0.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0

表Ⅲ-5 蜂(ハチ) [205.]

	計	ŋ		z	
		人数	%	人数	%
全体	466	452	97.0	14	3.0
男	198	191	96.5	7	3.5
女	268	261	97.4	7	2.6
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	29	96.7	1	3.3
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	2	1.6
70～79歳	95	84	88.4	11	11.6
低学歴	71	64	90.1	7	9.9
中学歴	285	281	98.6	4	1.4
高学歴	109	106	97.2	3	2.8

表Ⅲ-6 鳩(ハト) [206.]

	計	t		d		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	458	98.3	7	1.5	1	0.2
男	198	193	97.5	5	2.5	0	0.0
女	268	265	98.9	2	0.7	1	0.4
15～19歳	23	22	95.7	0	0.0	1	4.3
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	125	97.7	3	2.3	0	0.0
70～79歳	95	91	95.8	4	4.2	0	0.0
低学歴	71	67	94.4	3	4.2	1	1.4
中学歴	285	281	98.6	4	1.4	0	0.0
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-7 猫(ネコ) [207.]

	計	k		g	
		人数	%	人数	%
全体	466	446	95.7	20	4.3
男	198	187	94.4	11	5.6
女	268	259	96.6	9	3.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	51	98.1	1	1.9
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	121	94.5	7	5.5
70～79歳	95	83	87.4	12	12.6
低学歴	71	65	91.5	6	8.5
中学歴	285	278	97.5	7	2.5
高学歴	109	102	93.6	7	6.4

表Ⅲ-8 蛇(ヘビ) [208.]

	計	x		φ	
		人数	%	人数	%
全体	466	451	96.8	15	3.2
男	198	189	95.5	9	4.5
女	268	262	97.8	6	2.2
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	1	0.8
70～79歳	95	81	85.3	14	14.7
低学歴	71	64	90.1	7	9.9
中学歴	285	277	97.2	8	2.8
高学歴	109	109	100.0	0	0.0

表Ⅲ-9 窓(マド) [209.]

	計	d		~d		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	457	98.1	7	1.5	2	0.4
男	198	194	98.0	3	1.5	1	0.5
女	268	263	98.1	4	1.5	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	80	98.8	0	0.0	1	1.2
60～69歳	128	127	99.2	1	0.8	0	0.0
70～79歳	95	88	92.6	6	6.3	1	1.1
低学歴	71	68	95.8	2	2.8	1	1.4
中学歴	285	280	98.2	4	1.4	1	0.4
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-10 旗(ハタ) [210.]

	計	t		d	
		人数	%	人数	%
全体	466	453	97.2	13	2.8
男	198	192	97.0	6	3.0
女	268	261	97.4	7	2.6
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	123	96.1	5	3.9
70～79歳	95	87	91.6	8	8.4
低学歴	71	68	95.8	3	4.2
中学歴	285	278	97.5	7	2.5
高学歴	109	106	97.2	3	2.8

表Ⅲ-11 鈴(スズ) [211.]

	計	dz		z		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	445	95.5	20	4.3	1	0.2
男	198	188	94.9	10	5.1	0	0.0
女	268	257	95.9	10	3.7	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	2	1.6	0	0.0
70～79歳	95	76	80.0	18	18.9	1	1.1
低学歴	71	59	83.1	11	15.5	1	1.4
中学歴	285	277	97.2	8	2.8	0	0.0
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-12 帯(オビ) [212.]

	計	b		b	
		人数	%	人数	%
全体	466	454	97.4	12	2.6
男	198	190	96.0	8	4.0
女	268	264	98.5	4	1.5
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	1	0.8
70～79歳	95	84	88.4	11	11.6
低学歴	71	64	90.1	7	9.9
中学歴	285	281	98.6	4	1.4
高学歴	109	108	99.1	1	0.9

表Ⅲ-13 靴(クツ) [213.]

	計	ts		z		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	457	98.1	8	1.7	1	0.2
男	198	191	96.5	6	3.0	1	0.5
女	268	266	99.3	2	0.7	0	0.0
15～19歳	23	22	95.7	0	0.0	1	4.3
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	80	98.8	1	1.2	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	2	1.6	0	0.0
70～79歳	95	90	94.7	5	5.3	0	0.0
低学歴	71	67	94.4	4	5.6	0	0.0
中学歴	285	280	98.2	4	1.4	1	0.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-14 柿(カキ) [214.]

	計	k		g	
		人数	%	人数	%
全体	466	456	97.9	10	2.1
男	198	190	96.0	8	4.0
女	268	266	99.3	2	0.7
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	125	97.7	3	2.3
70～79歳	95	88	92.6	7	7.4
低学歴	71	65	91.5	6	8.5
中学歴	285	281	98.6	4	1.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0

表Ⅲ-15 松(マツ) [215.]

	計	ts		z		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	456	97.9	9	1.9	1	0.2
男	198	194	98.0	3	1.5	1	0.5
女	268	262	97.8	6	2.2	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	80	98.8	1	1.2	0	0.0
60～69歳	128	125	97.7	3	2.3	0	0.0
70～79歳	95	89	93.7	5	5.3	1	1.1
低学歴	71	67	94.4	4	5.6	0	0.0
中学歴	285	280	98.2	5	1.8	0	0.0
高学歴	109	108	99.1	0	0.0	1	0.9

表Ⅲ-16 西瓜(スイカ) [216.]

	計	k		g <sup>w</sup> , k <sup>w</sup>		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	465	99.8	0	0.0	1	0.2
男	198	197	99.5	0	0.0	1	0.5
女	268	268	100.0	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	128	100.0	0	0.0	0	0.0
70～79歳	95	94	98.9	0	0.0	1	1.1
低学歴	71	70	98.6	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	285	100.0	0	0.0	0	0.0
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-17 火曜日(カヨウビ) [217.]

	計	k		k <sup>w</sup>		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	465	99.8	0	0.0	1	0.2
男	198	197	99.5	0	0.0	1	0.5
女	268	268	100.0	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	128	100.0	0	0.0	0	0.0
70～79歳	95	94	98.9	0	0.0	1	1.1
低学歴	71	71	100.0	0	0.0	0	0.0
中学歴	285	284	99.6	0	0.0	1	0.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-18 百(ヒャク) [218.]

	計	ç		ç	
		人数	%	人数	%
全体	466	450	96.6	16	3.4
男	198	187	94.4	11	5.6
女	268	263	98.1	5	1.9
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0
60～69歳	128	128	100.0	0	0.0
70～79歳	95	79	83.2	16	16.8
低学歴	71	63	88.7	8	11.3
中学歴	285	279	97.9	6	2.1
高学歴	109	107	98.2	2	1.8

表Ⅲ-19 税務署(ゼイムシヨ) [219.]

	計	㇔		㇚		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	463	99.4	0	0.0	3	0.6
男	198	197	99.5	0	0.0	1	0.5
女	268	266	99.3	0	0.0	2	0.7
15～19歳	23	22	95.7	0	0.0	1	4.3
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	94	98.9	0	0.0	1	1.1
低学歴	71	70	98.6	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	283	99.3	0	0.0	2	0.7
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-20 息(イキ) [220.]

	計	i		è		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	452	97.0	13	2.8	0	0.0	1	0.2
男	198	189	95.5	8	4.0	0	0.0	1	0.5
女	268	263	98.1	5	1.9	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	80	98.8	1	1.2	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	1	0.8	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	84	88.4	11	11.6	0	0.0	0	0.0
低学歴	71	64	90.1	6	8.5	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	278	97.5	7	2.5	0	0.0	0	0.0
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-21 駅(エキ) [221.]

	計	e		è		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	458	98.3	7	1.5	0	0.0	1	0.2
男	198	192	97.0	5	2.5	0	0.0	1	0.5
女	268	266	99.3	2	0.7	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	0	0.0	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	88	92.6	7	7.4	0	0.0	0	0.0
低学歴	71	67	94.4	3	4.2	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	282	98.9	3	1.1	0	0.0	0	0.0
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-22 糸(イト) [222.]

	計	i		è		ì		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	463	99.4	2	0.4	0	0.0	1	0.2
男	198	195	98.5	2	1.0	0	0.0	1	0.5
女	268	268	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	0	0.0	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	93	97.9	2	2.1	0	0.0	0	0.0
低学歴	71	68	95.8	2	2.8	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	285	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-23 煙突(エントツ) [223.]

	計	e		è		ì		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	458	98.3	6	1.3	0	0.0	2	0.4
男	198	192	97.0	4	2.0	0	0.0	2	1.0
女	268	266	99.3	2	0.7	0	0.0	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	127	99.2	0	0.0	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	88	92.6	6	6.3	0	0.0	1	1.1
低学歴	71	65	91.5	5	7.0	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	284	99.6	1	0.4	0	0.0	0	0.0
高学歴	109	108	99.1	0	0.0	0	0.0	1	0.9

表Ⅲ-24 知事(チジ) [224.]

	計	i		ì		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	420	90.1	43	9.2	3	0.6
男	198	173	87.4	24	12.1	1	0.5
女	268	247	92.2	19	7.1	2	0.7
15～19歳	23	22	95.7	0	0.0	1	4.3
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	120	93.8	6	4.7	2	1.6
70～79歳	95	58	61.1	37	38.9	0	0.0
低学歴	71	52	73.2	17	23.9	2	2.8
中学歴	285	261	91.6	23	8.1	1	0.4
高学歴	109	106	97.2	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-25 地図(チズ) [225.]

	計	u		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	443	95.1	21	4.5	2	0.4
男	198	181	91.4	15	7.6	2	1.0
女	268	262	97.8	6	2.2	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	51	98.1	0	0.0	1	1.9
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	125	97.7	2	1.6	1	0.8
70～79歳	95	76	80.0	19	20.0	0	0.0
低学歴	71	61	85.9	9	12.7	1	1.4
中学歴	285	275	96.5	10	3.5	0	0.0
高学歴	109	106	97.2	2	1.8	1	0.9

表Ⅲ-26 島(シマ) [226.]

	計	i		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	441	94.6	20	4.3	5	1.1
男	198	182	91.9	13	6.6	3	1.5
女	268	259	96.6	7	2.6	2	0.7
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	1	0.8	1	0.8
70～79歳	95	72	75.8	19	20.0	4	4.2
低学歴	71	62	87.3	7	9.9	2	2.8
中学歴	285	271	95.1	11	3.9	3	1.1
高学歴	109	107	98.2	2	1.8	0	0.0

表Ⅲ-27 墨(スミ) [227.]

	計	u		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	457	98.1	5	1.1	4	0.9
男	198	191	96.5	4	2.0	3	1.5
女	268	266	99.3	1	0.4	1	0.4
15～19歳	23	22	95.7	0	0.0	1	4.3
20～29歳	30	29	96.7	0	0.0	1	3.3
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	0	0.0	2	1.6
70～79歳	95	90	94.7	5	5.3	0	0.0
低学歴	71	67	94.4	3	4.2	1	1.4
中学歴	285	281	98.6	1	0.4	3	1.1
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-28 烏(カラス) [228.]

	計	u		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	455	97.6	9	1.9	2	0.4
男	198	193	97.5	4	2.0	1	0.5
女	268	262	97.8	5	1.9	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	1	0.8	1	0.8
70～79歳	95	86	90.5	8	8.4	1	1.1
低学歴	71	66	93.0	4	5.6	1	1.4
中学歴	285	279	97.9	5	1.8	1	0.4
高学歴	109	109	100.0	0	0.0	0	0.0

表Ⅲ-29 辛子(カラシ) [229.]

	計	i		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	421	90.3	43	9.2	2	0.4
男	198	172	86.9	24	12.1	2	1.0
女	268	249	92.9	19	7.1	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	51	98.1	0	0.0	1	1.9
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	120	93.8	7	5.5	1	0.8
70～79歳	95	59	62.1	36	37.9	0	0.0
低学歴	71	54	76.1	16	22.5	1	1.4
中学歴	285	260	91.2	24	8.4	1	0.4
高学歴	109	106	97.2	3	2.8	0	0.0

表Ⅲ-30 狐(キツネ) [230.]

	計	u		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	443	95.1	21	4.5	2	0.4
男	198	182	91.9	15	7.6	1	0.5
女	268	261	97.4	6	2.2	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	126	98.4	1	0.8	1	0.8
70～79歳	95	74	77.9	20	21.1	1	1.1
低学歴	71	60	84.5	10	14.1	1	1.4
中学歴	285	274	96.1	10	3.5	1	0.4
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-31 団扇(ウチワ) [231.]

	計	i		i		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	444	95.3	21	4.5	1	0.2
男	198	183	92.4	14	7.1	1	0.5
女	268	261	97.4	7	2.6	0	0.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	81	100.0	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	124	96.9	3	2.3	1	0.8
70～79歳	95	77	81.1	18	18.9	0	0.0
低学歴	71	61	85.9	9	12.7	1	1.4
中学歴	285	274	96.1	11	3.9	0	0.0
高学歴	109	108	99.1	1	0.9	0	0.0

表Ⅲ-32 背中(セナカ) [203a.]

	計	○●●		○●○		○○○		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	371	79.6	86	18.5	7	1.5	2	0.4
男	198	159	80.3	38	19.2	1	0.5	0	0.0
女	268	212	79.1	48	17.9	6	2.2	2	0.7
15～19歳	23	21	91.3	2	8.7	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	28	93.3	1	3.3	1	3.3	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	56	98.2	1	1.8	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	78	96.3	3	3.7	0	0.0	0	0.0
60～69歳	128	106	82.8	21	16.4	0	0.0	1	0.8
70～79歳	95	30	31.6	58	61.1	6	6.3	1	1.1
低学歴	71	44	62.0	24	33.8	2	2.8	1	1.4
中学歴	285	233	81.8	48	16.8	3	1.1	1	0.4
高学歴	109	93	85.3	14	12.8	2	1.8	0	0.0

表Ⅲ-33 猫(ネコ) [207a.]

	計	●○		○●	
		人数	%	人数	%
全体	466	389	83.5	77	16.5
男	198	164	82.8	34	17.2
女	268	225	84.0	43	16.0
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	51	98.1	1	1.9
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	78	96.3	3	3.7
60～69歳	128	110	85.9	18	14.1
70～79歳	95	40	42.1	55	57.9
低学歴	71	47	66.2	24	33.8
中学歴	285	248	87.0	37	13.0
高学歴	109	93	85.3	16	14.7

表Ⅲ-34 旗(ハタ) [210a.]

	計	○●		○○(●○)	
		人数	%	人数	%
全体	466	430	92.3	36	7.7
男	198	187	94.4	11	5.6
女	268	243	90.7	25	9.3
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0
20～29歳	30	30	100.0	0	0.0
30～39歳	52	52	100.0	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0
50～59歳	81	80	98.8	1	1.2
60～69歳	128	120	93.8	8	6.3
70～79歳	95	68	71.6	27	28.4
低学歴	71	59	83.1	12	16.9
中学歴	285	265	93.0	20	7.0
高学歴	109	105	96.3	4	3.7

表Ⅲ-35 烏(カラス) [228a.]

	計	●○○		○●○		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	376	80.7	88	18.9	2	0.4
男	198	165	83.3	32	16.2	1	0.5
女	268	211	78.7	56	20.9	1	0.4
15～19歳	23	23	100.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	29	96.7	1	3.3	0	0.0
30～39歳	52	50	96.2	2	3.8	0	0.0
40～49歳	57	57	100.0	0	0.0	0	0.0
50～59歳	81	77	95.1	4	4.9	0	0.0
60～69歳	128	108	84.4	19	14.8	1	0.8
70～79歳	95	32	33.7	62	65.3	1	1.1
低学歴	71	41	57.7	29	40.8	1	1.4
中学歴	285	234	82.1	50	17.5	1	0.4
高学歴	109	100	91.7	9	8.3	0	0.0

表Ⅲ-36 団扇(ウチワ) [231a.]

	計	○●○		○○●		○○○		○●●		●○○		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	466	88	18.9	67	14.4	2	0.4	301	64.6	3	0.6	5	1.1
男	198	35	17.7	29	14.6	1	0.5	129	65.2	2	1.0	2	1.0
女	268	53	19.8	38	14.2	1	0.4	172	64.2	1	0.4	3	1.1
15～19歳	23	12	52.2	0	0.0	0	0.0	11	47.8	0	0.0	0	0.0
20～29歳	30	6	20.0	2	6.7	0	0.0	22	73.3	0	0.0	0	0.0
30～39歳	52	10	19.2	3	5.8	0	0.0	39	75.0	0	0.0	0	0.0
40～49歳	57	17	29.8	2	3.5	0	0.0	37	64.9	0	0.0	1	1.8
50～59歳	81	14	17.3	11	13.6	1	1.2	55	67.9	1	1.2	0	0.0
60～69歳	128	19	14.8	20	15.6	1	0.8	82	64.1	2	1.6	4	3.1
70～79歳	95	10	10.5	29	30.5	0	0.0	55	57.9	0	0.0	0	0.0
低学歴	71	16	22.5	13	18.3	0	0.0	41	57.7	0	0.0	1	1.4
中学歴	285	46	16.1	43	15.1	2	0.7	191	67.0	0	0.0	3	1.1
高学歴	109	25	22.9	11	10.1	0	0.0	69	63.3	3	2.8	1	0.9

資料



地点番号

対象番号

		—		
--	--	---	--	--

## 「第4回 鶴岡市における言語調査」

平成23年11月

【調査主体】国立国語研究所・統計数理研究所

【調査実施】株式会社日本リサーチセンター

調査員名					
------	--	--	--	--	--

検票者名	
------	--

001.	ふりがな 氏 名		男・女	No.
------	-------------	--	-----	-----

002.	現住所	鶴岡市
------	-----	-----

003.	生年月日	大正 昭和 平成	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	年	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	月	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	日	→	大正 昭和 平成	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	年	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	月	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	日
------	------	----------------	--	---	--	---	--	---	---	----------------	--	---	--	---	--	---

004.	調査月日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> </div> </div>
------	------	---

005.	開始時刻	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> </div> </div>
------	------	---

☐ 電池チェック☐ 録音確認

101. \_\_\_\_年の\_\_\_\_月生まれですね。

(調査員注:質問開始という印象を与えないよう、できるだけ自然に話しかけて、反応を確認し「うなずき」の「あり／なし」のどちらかに○をすること。)

1.1. うなずき (1.あり / 2.なし)

2.1. ハイ

2.2. ハー

2.3. エー

3.1. ソー

3.2. シ

3.3. アー

4.1. ソーダ

4.2. シダ

5.1. ソーデゴザイマス

5.2. ソーデガンス

5.3. シデガンス

6.1. ソーデス

6.2. シデス

7 つぎたし [

]

9 その他 [

]

a. ノー

b. チャ

c. ノッシャ

d. [

]

それでは、今からことばのことについてお尋ねします。まず、カードを見て、何が書かれているかお答えください。

(調査員注:201.~231.は単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。

ヒントは、カードを提示しても対象者から回答が得られなかったときに初めて読み上げること。)

- ☐ 201. 【カード】 口(クチ) 1. ʃ 2. z 9. [ ]

ヒント 201:ものを食べるところですが、なんとおっしゃいますか？

- ☐ 202. 【カード】 髭(ヒゲ) 1. ç 2. ø 9. [ ]

ヒント 202:(ヒゲを指さしながら)はえているのは？

- ☐ 203. 【カード】 背中(セナカ) 1. s 2. š , ç 9. [ ]

1. / 2. \ 9. [ ]

ヒント 203:(セナカ全体を指さしながら)ここ全体を何とおっしゃいますか？

- ☐ 204. 夏、働くと背中からだらだら流れるものを何とおっしゃいますか。

- 汗(アセ) 1. s 2. š , ç 9. [ ]

- ☐ 205. 【カード】 蜂(ハチ) 1. ʃ 2. z 9. [ ]

ヒント 205:ちくりと刺されるとはれあがる…

- ☐ 206. 【カード】 鳩(ハト) 1. t 2. d 9. [ ]

ヒント 206:ポップポップとなくのは？

- ☐ 207. 【カード】 猫(ネコ) 1. k 2. g 9. [ ]

1. \ 2. / 9. [ ]

ヒント 207:ニャアンとなくのは？

- ☐ 208. 【カード】 蛇(ヘビ) 1. x 2. ø 9. [ ]

ヒント 208:ニョロニョロ這うのは？

- ☐ 209. 【カード】 窓(マド) 1. d 2. ð 9. [ ]

ヒント 209:ガラスのはまっているのは？開けたり閉めたりするところです。

- ☐ 210. 【カード】 旗(ハタ) 1. t 2. d 9. [ ]

1. / 2. \_ (\) 9. [ ]

ヒント 210:なにをあげるといいますか？この人が手で上げているのは？

- ☐ 211. 【カード】 鈴(スズ) 1. ð 2. ž 9. [ ]

ヒント 211:チリンチリンとならすのは？(猫の首につけるのは？)

- ☐ 212. 【カード】 帯(オビ) 1. b 2. ð 9. [ ]

ヒント 212:なにをしめるといいますか？

- ☐ 213. 【カード】 靴(クツ) 1. ts 2. z 9. [ ]

ヒント 213:履くのは、下駄じゃなくて…

- ☐ 214. 【カード】 柿(カキ) 1. k 2. g 9. [ ]

ヒント 214:秋赤く実るのは？(渋いものもあります)

- ☐ 215. 【カード】 松(マツ) 1. ts 2. z 9. [ ]

ヒント 215:これは、梅、竹、ではなくて…

- ☐ 216. 【カード】 西瓜(スイカ) 1. k 2. g<sup>w</sup> , k<sup>w</sup> 9. [ ]

ヒント 216:中が赤い…

- ☐ 217. 曜日の名前についておたずねしますが、  
日曜日のつぎは月曜日、では月曜日のつぎは何とおっしゃいますか。

- 火曜日(カヨウビ) 1. k 2. k<sup>w</sup> 9. [ ]

- ☐ 218. 【カード】 97, 98, 99 の次は何ですか。

- 百(ヒャク) 1. ç 2. ø 9. [ ]

- ☐ 219. 税金をとりたてる役所を何とおっしゃいますか。

税務署(ゼイムシヨ) 1. ㄌ 2. ㄗ 9. [ ]

- ☐ 220. 口からハーツとはくもの、これを何とおっしゃいますか。

息(イキ) 1. i 2. è 3. i 9. [ ]

ヒント 220: (口の前に手をかざして)

- ☐ 221. 【カード】 駅(エキ) 1. e 2. è 3. i 9. [ ]

ヒント 221: 昔は停車場といいましたが、今の言い方では? (電車のとまるところ)

- ☐ 222. 【カード】 糸(イト) 1. i 2. è 3. i 9. [ ]

ヒント 222: ぬいものに使うのは? (針に通すのは?)

- ☐ 223. 【カード】 煙突(エントツ) 1. e 2. è 3. i 9. [ ]

ヒント 223: 煙が出るのは…

- ☐ 224. 市でいちばん上の人を「市長」と言いますが、県でいちばん上の人を何とおっしゃいますか。

知事(チジ) 1. i 2. i 9. [ ]

- ☐ 225. 【カード】 地図(チズ) 1. ㄣ 2. i 9. [ ]

ヒント 225: (全体を指しながら)これは日本の…

- ☐ 226. 【カード】 島(シマ) 1. i 2. i 9. [ ]

ヒント 226: 海に浮かんでいる小さな陸地です

- ☐ 227. 【カード】 墨(スミ) 1. ㄣ 2. i 9. [ ]

ヒント 227: 習字のすずりと…

- ☐ 228. 【カード】 烏(カラス) 1. ㄣ 2. i 9. [ ]

1. \ 2. / 9. [ ]

ヒント 228: カーカーなくのは…

- ☐ 229. こちらの名産の小さななすを漬ける辛い黄色い粉を何とおっしゃいますか。

辛子(カラシ) 1. i 2. i 9. [ ]

ヒント 229: おでんなどに付ける…

- ☐ 230. 【カード】 狐(キツネ) 1. ㄣ 2. i 9. [ ]

ヒント 230: コンコンなくのは…

- ☐ 231. 【カード】 団扇(ウチワ) 1. i 2. i 9. [ ]

1. \ 2. / 9. [ ]

ヒント 231: あおぐのは…

これから、少し内容の違うご質問をします。

(調査員注:241.~271.は単語だけの回答でなくてもかまわないが、下線部の単語が全く含まれていない場合には、「●の部分を含めて、もう一度おっしゃってください」と、促すこと。

質問文を2回読みあげても回答が得られない場合は、選択肢を1つずつ読みあげて、それぞれ使うか使わないかを聞いていく。使うと答えたものすべてに○印をつけた上で、□にチェックすること。)

- ☐ 241. 「あの人はいつも遅れてくる」という時、「いつも」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. イツモ      2. ショツチュー      3. トース、トーシン      9.[                      ]
- 
- ☐ 242. 「わたくしが留守番をしています」という時、「留守番」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. ルスバン      2. ルスイ      3. ヨスリ      9.[                      ]
- 
- ☐ 243. 「どうぞこちらへいらっしゃい」といねいにいう時、「いらっしゃい」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. イラっしゃイ      2. ゴザへ      3. ハイテクネヘン      9.[                      ]
- 
- ☐ 244. 「くたびれた、もう歩けない」という時の「もう」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. モー      2. アド      9.[                      ]
- 
- ☐ 245. うしろから急にワツと大きい声をかけられた時の感じですが、「アッ、どうした」とおっしゃいますか。  
1. オドロイタ      2. ビックリシタ      3. オボゲタ      4. ハトモタ      9.[                      ]
- 
- ☐ 246. みんなの見ている前で失敗して、顔が赤くなるような感じをつつどんなだとおっしゃいますか。  
1. ハズカシイ      2. ショ(一)ス(一)      9.[                      ]
- 
- ☐ 247. 相手からお金をとって物を渡すのは「売る」と言いますが、お金をとらないで物を「与える」という時には、  
つつどうするとおっしゃいますか。  
1. クレル      2. クエル      3. ケル      9.[                      ]
- 
- ☐ 248. 【カード】 冬、軒先などにさがるコオリの棒です。これを何とおっしゃいますか。  
1. ツララ      2. シガ、スガ      3. タロキ      9.[                      ]
- 
- ☐ 249. 「このお菓子はコーデうめえちゃ」などのように、「コーデ」という言葉をお使いになりますか。(使わないと答えた人には「聞けばわかりますか」と尋ねる。)  
1. 使う      2. 使わないが聞けばわかる      3. 知らない
- 
- ☐ 261. こども(弟・妹)にむかって「朝寝坊をしないで早く起きろ」という時、つつ何とおっしゃいますか。  
(調査員注:「子ども」は、自分の子どもに限らず、自分より年齢の低い子ども(小さな子)に向かって言っているシーンを想定して回答してもらう。)  
1. オキロ      2. オキレ      9.[                      ]
- 
- ☐ 262. あなたが親しい友達にむかっていう時の言葉についていくつかお尋ねします。  
「わたくしたちもいっしょに行こう」という時、「わたくしたち」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
(「われわれ」という回答が出た場合) 他の言い方はありませんか?  
1. ~タチ      2. ~ドモ      3. ~ガタ      9.[                      ]
- 
- ☐ 263. では、「おもしろい映画だつてね。いっしょに見に行かないか」という時、「見に行かないか」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. ミニ      2. ミサ      3. ミエ      9.[                      ]
- 
- ☐ 264. では、「おれも行くから、ちょっと待ってくれ」という時、「行くから」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. ~カラ      2. ~サケ      3. ~スケ      4. ~ハケ      9.[                      ]
- 
- ☐ 265. 同じように、親しい友達にむかっていう時の言葉についてもうすこしお尋ねしますが、「おれも行くけれども早くは行けない」という時「行くけれども」ということをつつ何とおっしゃいますか。  
1. ~ケレドモ      2. ~ドモ      9.[                      ]
-

- 266. では、「あの人はずいぶんもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、「強かったなあ」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ツヨカッタ      2. ツイエケ・ツエケ      3. ツヨイケ      9. [                      ]

- 267. では、「どうも、この子(弟・妹)は勉強しないで困る」という時、「勉強しないで」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ～シナイデ・シねデ      2. ～シナクテ      3. ～サねデ      4. ～サねクテ
9. [                      ]

- 268. では、「もっと海が静かならいいんだがなあ」という時、「静かなら」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ～ナラ(バ)      2. ～ダバ      3. ～ダラ(バ)      9. [                      ]

- 269. もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「(〇〇先生が)あなたをほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。
1. アナタオ・アンタオ      2. オめーオ      3. オメトコ      4. オめコト
5. オメバ      6. アナタ・アンタ      7. オめー      9. [                      ]

- 270. 小学校時代の先生から「あなたは何年何月生まれですね」ときかれて、「そうです」と答える時、ふつう何とおっしゃいますか。
- (調査員注:質問をした後、反応を確認し「うなずき」の「あり／なし」のどちらかに○をすること。)

1.1. うなずき (1. あり / 2. なし)

- |  |             |            |
|--|-------------|------------|
| 2.1. ハイ  | 2.2. ハー     | 2.3. エー    |
| 3.1. ソー  | 3.2. ン      | 3.3. アー    |
| 4.1. ソーダ   | 4.2. ンダ     |            |
| 5.1. ソーデゴザイマス  | 5.2. ソーデガンス | 5.3. ンデガンス |
| 6.1. ソーデス  | 6.2. ンデス    |            |
| 7 つぎたし [                      ]                                |             |            |
| 9 その他 [                      ]                                 |             |            |
| a. ノー      b. チャ      c. ノッシャ      d. [                      ] |             |            |

- 271. 尊敬している先生にむかっていう時の言葉についてお尋ねします。
- 「この絵はあなたがかいたのか」と尋ねる時、ふつう何とおっしゃいますか。
- |                             |   |   |             |     |
|-----------------------------|---|---|-------------|-----|
| 1. オカキニ(ン)ナッタ               | ● | ● | ノ(ン)デゴザイマスカ | (1) |
| 2. カカレタ                     | ● | ● | ノ(ン)デスカ     | (2) |
| 3. オカキナリマシタ                 | ● | ● | ノ(ン)デガンスカ   | (3) |
| 4. カカハリマシタ                  | ● | ● | ノ(ン)ダカ      | (4) |
| 5. カカシタ                     | ● | ● | ノカ          | (5) |
| 6. カイタ                      | ● |   |             |     |
| 9. [                      ] |   |   |             |     |



(標準語は話せないと言われた場合)できるだけ、ということで結構ですので、読んでみていただけますか。

- 次は、鶴岡弁で発音してください。

(調査員注:318.~324.は、鶴岡弁で単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。)

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 口からハーツとはくもの、これを何とおっしゃいますか。

- 息 (イキ)    1. i    2. è    3. i    9. [                    ]

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- (調査員注:できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)



最後に、ことば以外のことについて伺います。

□ 401. お生まれはどちらですか。ずっとここにお住まいですか。

1. はい      2. いいえ → それでは、これまでに1年以上お住まいになったところを教えてください。

(調査員注:「2.いいえ」の場合には以下の二重線枠内に記入)

年齢 (歳)	居 住 地		理由 (就職・結婚等)
	鶴 岡 市 内	鶴 岡 市 内 以 外	
0～	(町・大字など)	都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～			

□ 402. あなたの本籍はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	( 都道 府県 )	市・町・村	3. N.A.(回答なし) 4. D.K.(わからない)
--------	----------	--------------	-------	---------------------------------

□ 403.-1 父親の出身地はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	( 都道 府県 )	市・町・村	3. N.A.(回答なし) 4. D.K.(わからない)
--------	----------	--------------	-------	---------------------------------

□ -2 母親の出身地はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	( 都道 府県 )	市・町・村	3. N.A.(回答なし) 4. D.K.(わからない)
--------	----------	--------------	-------	---------------------------------

□ -3 配偶者(夫・妻)の出身地はどちらですか。

(調査員注:配偶者がいない場合は「1 配偶者なし」に○印をつけること。)

1. 配偶者なし	2. 鶴岡市	3. 鶴岡市以外	( 都道 府県 )	市・町・村	4. N.A.(回答なし) 5. D.K.(わからない)
----------	--------	----------	--------------	-------	---------------------------------

- 404. この半年間に庄内以外へおいでになったことがありますか。

場 所	回 数	用 事

- 405.-1 【カード】あなたのご職業・定職は何ですか。この中から、あてはまるものを1つお答えください。  
いくつかの職業をお持ちの方は、主なものを1つだけお答えください。

1. 農林水産業 2. 自営の商工業 3. 専門、自由業(教員, 医者など) 4. 管理職(課長以上) 5. 事務系の勤め人 6. 作業系の勤め人 7. 学生	8. 主婦(専業主婦) 9. 無職・休職中 10. 定年退職 11. その他 (具体的に )
---	--

- 405.-2 <405.-1で「8.主婦(専業主婦)」「9.無職・休職中」「10.定年退職」と答えた人に>  
【カード】一番最後になされたお仕事を教えてください。

1. 農林水産業 2. 自営の商工業 3. 専門、自由業(教員, 医者など) 4. 管理職(課長以上) 5. 事務系の勤め人 6. 作業系の勤め人	7. 仕事の経験はない 8. その他 (具体的に )
--	----------------------------------

<全員に>

- 406.-1 【カード】小学校を卒業した後、どんな学校にいらっしゃいましたか。この中から最後に行かれた学校を1つだけお答えください。

1. 高等小学校	2. (新制)中学校	3. 旧制中学校	4. (新制)高等学校
5. 旧制高等学校	6. 専門学校	7. 短期大学	8. 大学
9. 大学院	10. その他( )		

<405.-1で、「7 学生」以外を答えた方に>

- 406.-2 【カード】最後に行かれた学校は、ご卒業されましたか。

1. 卒業	2. 中退	3. N.A.
-------	-------	---------

<全員に>

- 406.-3 その学校(最後に通った学校)はどこにありましたか。鶴岡市ですか。それ以外の市ですか。  
(鶴岡市以外の場合)具体的には何市(町・村)にありましたか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外 ( )市・町・村( )都道府県)	3. N.A.
--------	---------------------------	---------

＜405.-1 で、「7 学生」以外を答えた方に＞

- ☐ 407.-1 あなたは、町内会や婦人会、青年団、PTAなどで役員をした経験がありますか。

1. 経験あり	2. 経験なし	3. 非加入	4. N.A.
---------	---------	--------	---------

＜全員に＞

- ☐ 407.-2 あなたは、学校で何か委員をした経験がありますか。

(経験がある場合)どんな委員ですか。経験したことのある委員名を、すべてお知らせください。

(複数回答可)

1. 経験あり	2. 経験なし	3. N.A.
---------	---------	---------

委員名 \_\_\_\_\_

501. 最後になりましたが、国立国語研究所では、将来も鶴岡市で今回の様な「ことばの調査」を継続していきたいと考えています。何年後になるか分かりませんが、そのときに改めて、あなた様にもご協力のお願いを差し上げてよろしいでしょうか？ もちろん協力するか否かはそのときに判断いただいてかまいません。

1. 可	2. 不可(辞退する)	3. N.A.
------	-------------	---------

502. 後でまたお聞きしたいことが出てくるかもしれませんので、電話番号を教えていただけませんか。

N.A.
------

☐ ガイドライン説明

☐ 承諾書の記入

☐ 謝礼品を渡す

---

(調査員注:レコーダーは停止せずに資材を片付けながら、調査は終了した様子でできるだけ自然に聞く。  
記入は対象者宅を出てから(直後に)行うこと。)

- 503.

ありがとうございました。

ところで、ちょっと伺いしますが、この近くの郵便局(コンビニ)はどちらでしょうか。

1. 標準語	2. 方言	3. 混ざる
--------	-------	--------

☐ 録音終了

【これ以降は、対象者宅を出てから記入】

504. 終了時刻

1. 午前	_____時_____分	(調査時間: _____分)
2. 午後	_____時_____分	

505. 調査全般の被調査者のことば〔調査員判定〕

1. 正しい 共通語	2. 共通語だがどこ となくちがう	3. 共通語が 混ざる	4. 共通語を 話さない	5. 共通語が 通じない
---------------	----------------------	----------------	-----------------	-----------------

506. -1 調査に対する被調査者の態度〔調査員判定〕

(調査員注: 調査の途中で被調査者の態度が変わった場合は、○印をつけるとともに、その推移に従って矢印でつないで示すこと)

1. 積極的	2. ふつう	3. 消極的	4. 拒否的
--------	--------	--------	--------

-2 調査した場所

1. 自宅	2. 勤務先	9. [ ]
-------	--------	--------

〃

1. 部屋の中	2. 玄関先	3. 店先	9. [ ]
---------	--------	-------	--------

-3 同席者

1. 本人のみ	2. 配偶者	3. 子ども	9. [ ]
---------	--------	--------	--------

-4 反応までの時間

1. 長いほう	2. 普通	3. 短いほう
---------	-------	---------

-5 質問に対する問いかけし

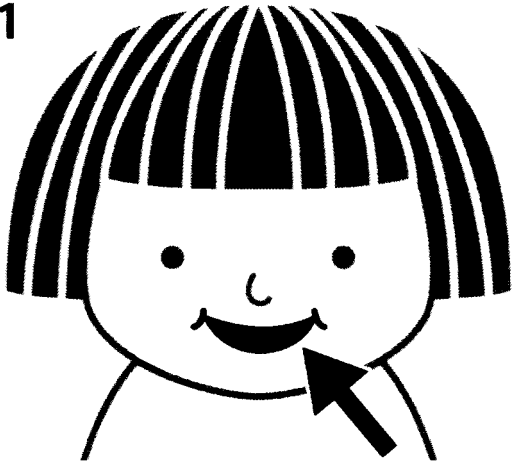
1. 多いほう	2. 普通	3. 少ないほう
---------	-------	----------

【メモ欄】

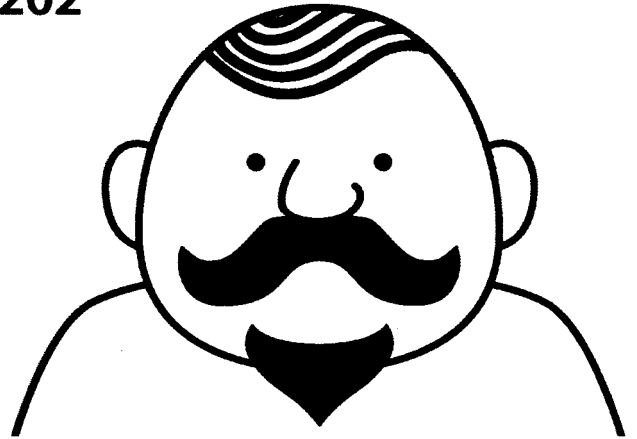
■録音状況をできるだけ記入(例: 犬の鳴き声がうるさかった等)

■その他、調査をしていて感じたこと、メモに残しておきたいこと等、何かあれば記入

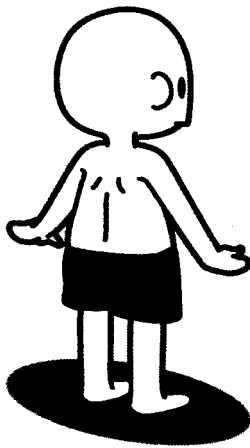
201



202



203



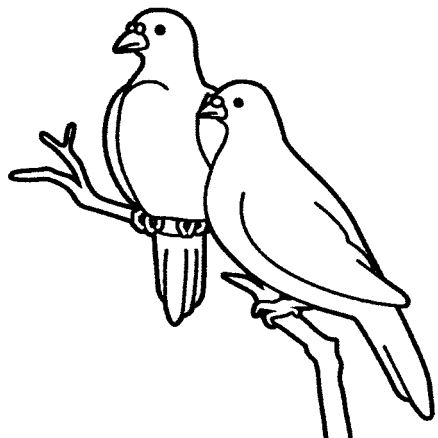
204

この質問には  
イラストがありません

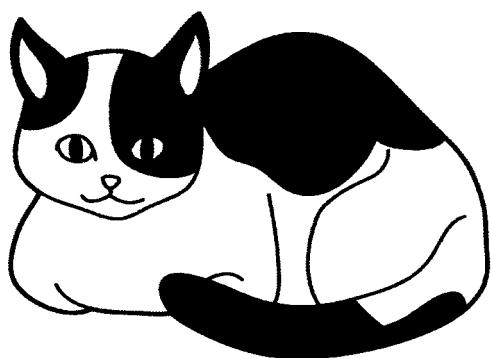
205



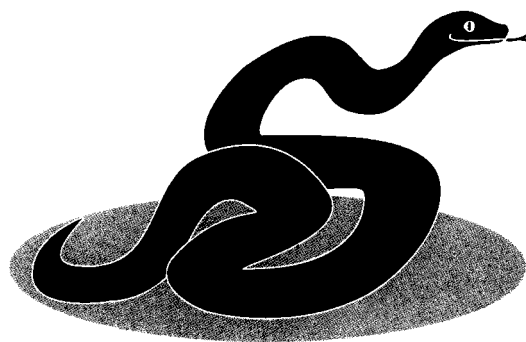
206



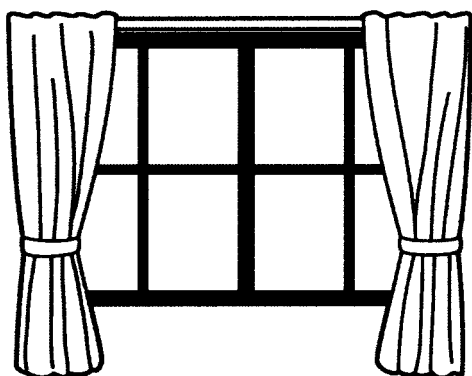
207



208



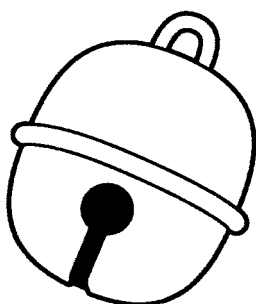
209



210



211



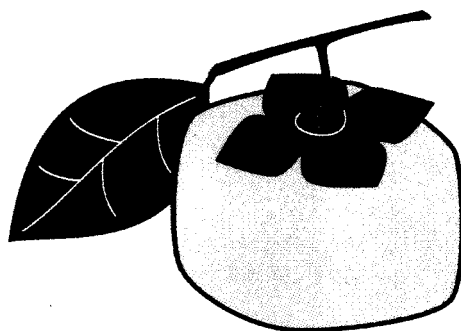
212



213



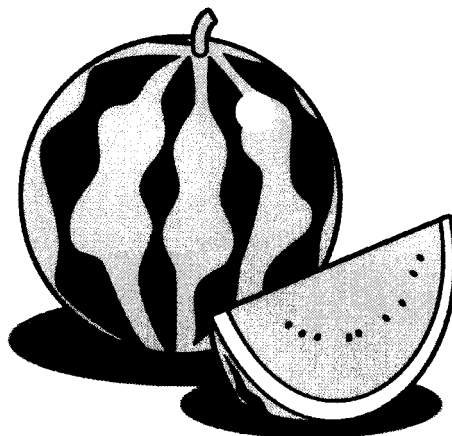
214



215



216



217

この質問には  
イラストがありません

218

97,98,99,

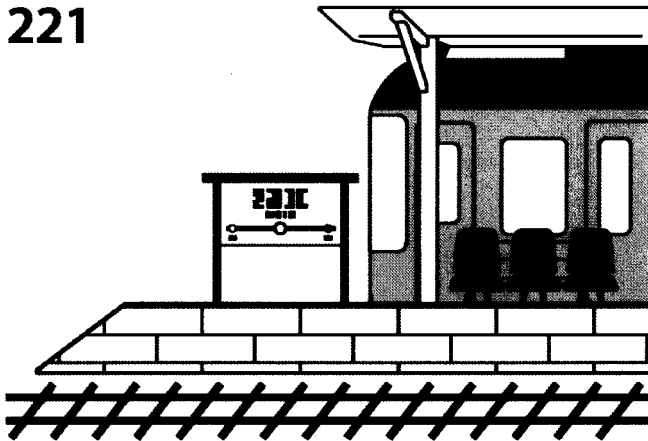
219

この質問には  
イラストがありません

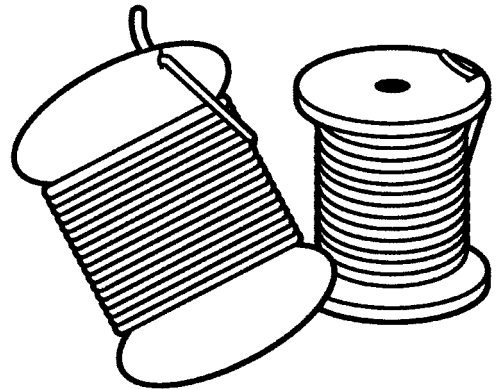
220

この質問には  
イラストがありません

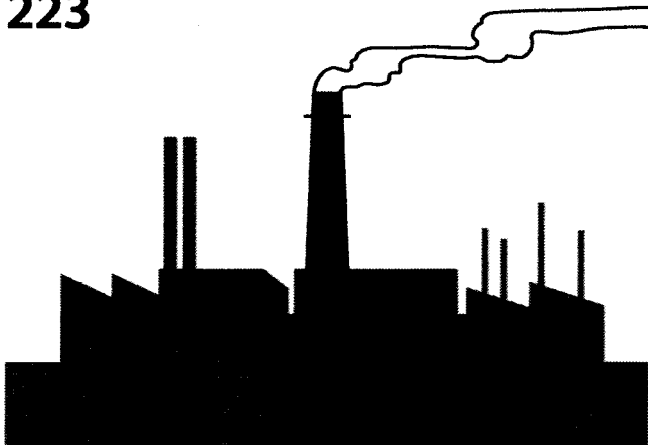
221



222



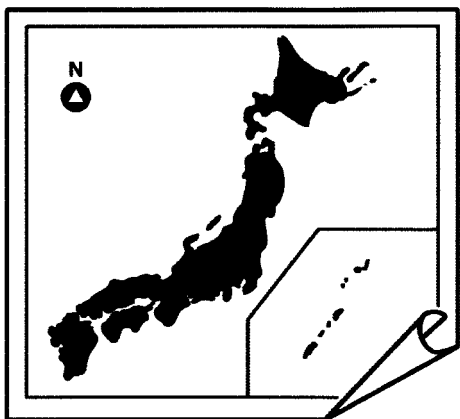
223



224

この質問には  
イラストがありません

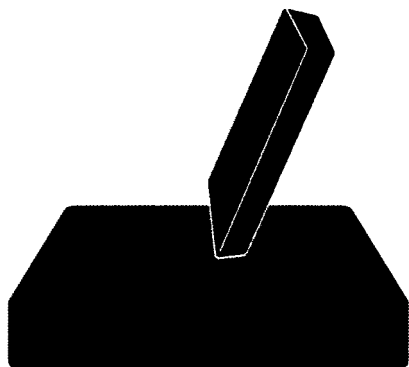
225



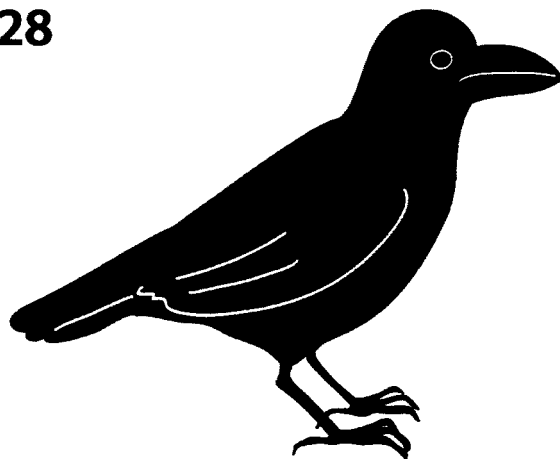
226



227



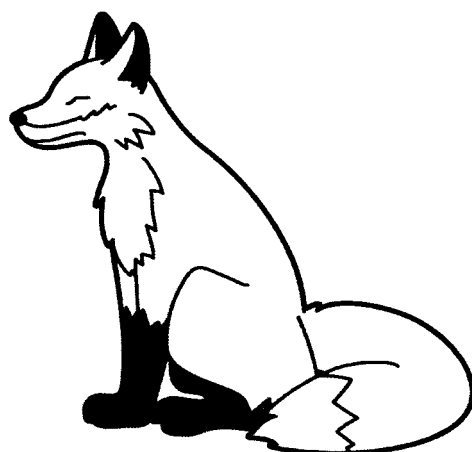
228



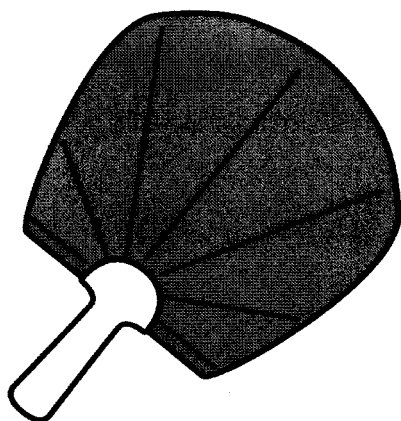
229

この質問には  
イラストがありません

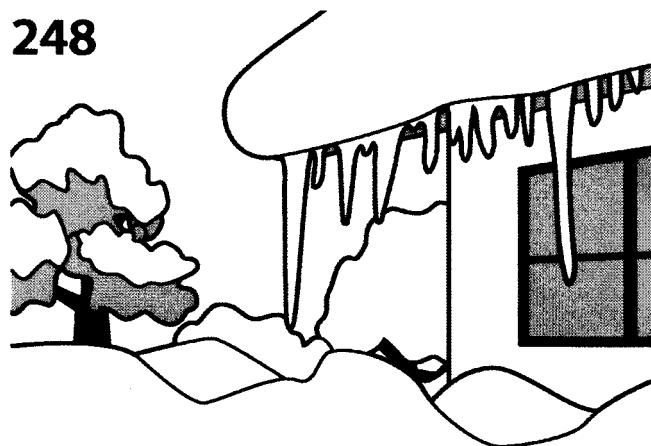
230



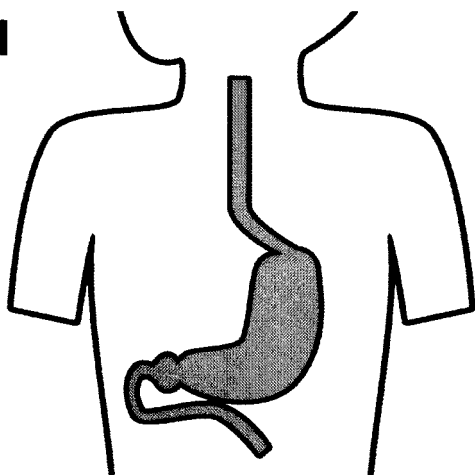
231



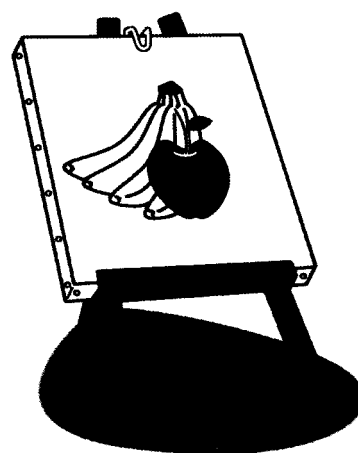
248



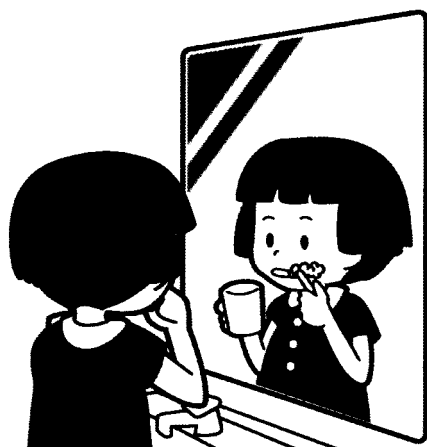
301



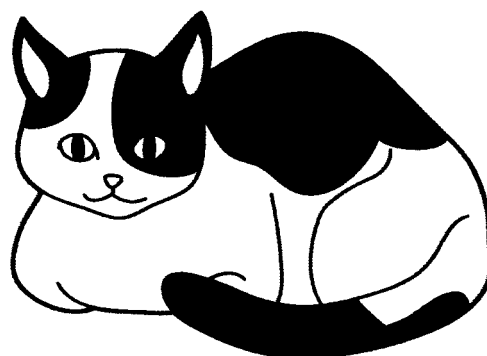
302



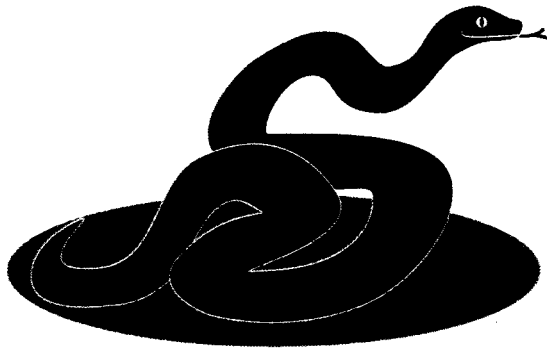
303



304



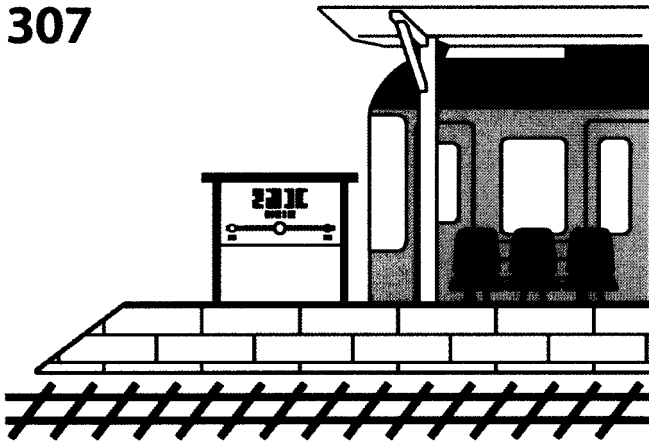
305



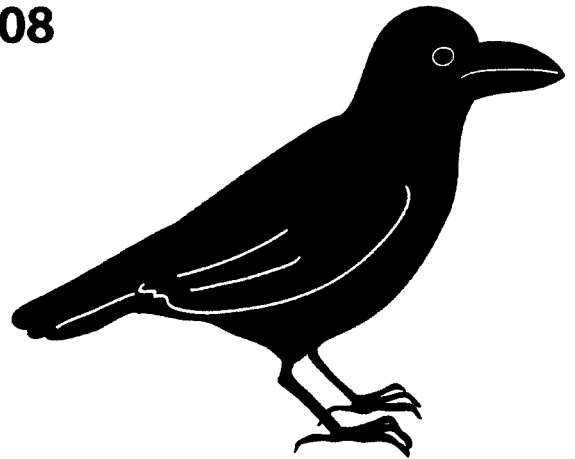
306

この質問には  
イラストがありません

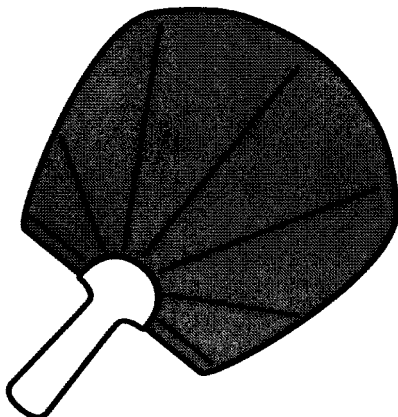
307



308



309



310



311

猫がいる

312

へビがいる

313

息が苦しい

314

駅が見える

315

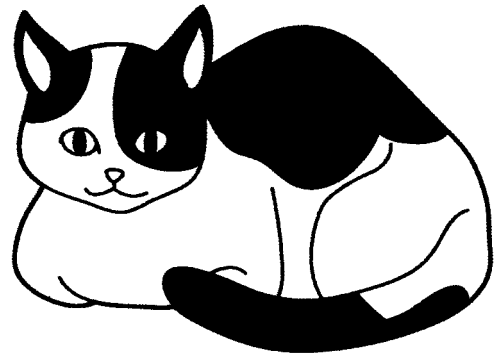
カラスが見える

316

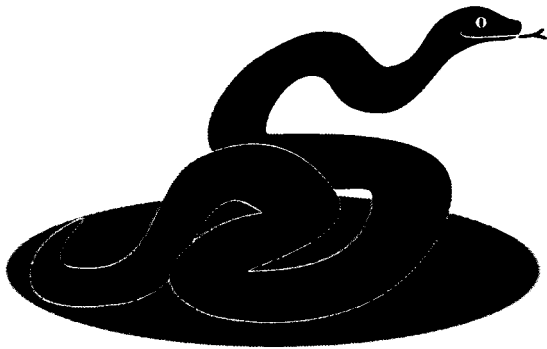
ウチワがある

317 318

寿司を食べる



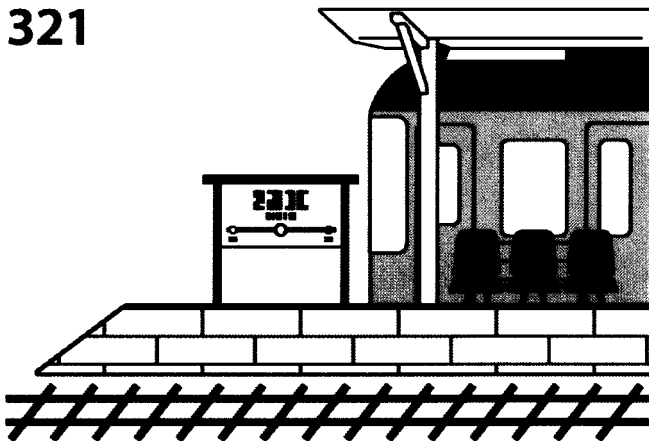
319



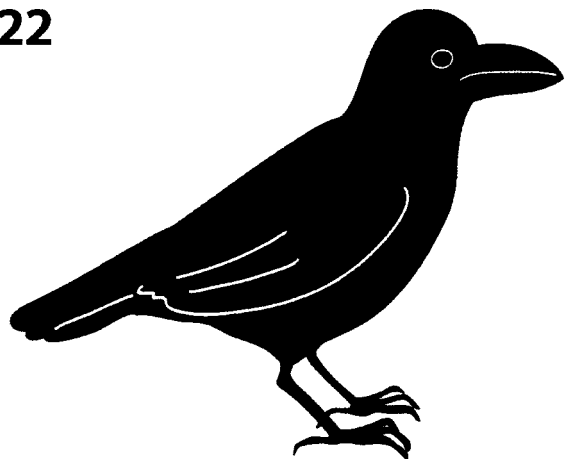
320

この質問には  
イラストがありません

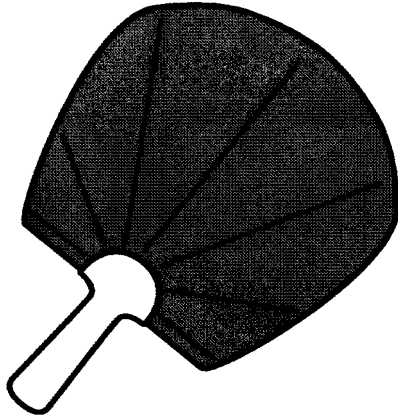
321



322



323



324



405-1

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1. 農林水産業               | 6. 作業系の勤め人  |
| 2. 自営の商工業              | 7. 学生       |
| 3. 専門、自由業<br>(教員、医者など) | 8. 主婦(専業主婦) |
| 4. 管理職(課長以上)           | 9. 無職・休職中   |
| 5. 事務系の勤め人             | 10. 定年退職    |

405-2

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1. 農林水産業               | 6. 作業系の勤め人  |
| 2. 自営の商工業              | 7. 仕事の経験はない |
| 3. 専門、自由業<br>(教員、医者など) |             |
| 4. 管理職(課長以上)           |             |
| 5. 事務系の勤め人             |             |

406-1

- |           |         |
|-----------|---------|
| 1. 高等小学校  | 6. 専門学校 |
| 2. 新制中学校  | 7. 短期大学 |
| 3. 旧制中学校  | 8. 大学   |
| 4. 新制高等学校 | 9. 大学院  |
| 5. 旧制高等学校 | 10. その他 |

406-2

- |        |
|--------|
| 1. 卒業  |
| 2. 中退  |
| 3. 在学中 |

2011(平成 23)年 11 月

## 調査のガイドライン

国立国語研究所  
統計数理研究所

国立国語研究所と統計数理研究所では、鶴岡市民の日常生活におけることばの使い方について研究しています。

研究活動にあたり、研究倫理を遵守し、人権の擁護、個人情報の保護につとめるために、以下のとおり、調査のガイドラインを設けました。

- (1) 調査、データ収録、情報収集にあたっては研究倫理を遵守し、ご提供いただいた情報、音声データは学術研究目的以外には利用しないことをお約束します。
- (2) 個人情報の保護につとめ、お名前・ご住所などの個人情報は公開しません。同意をいただいた方については今後の継続研究に備えて個人情報を継続保持しますが、その管理は両研究所の個人情報保護方針にしたがい、厳格に行います。
- (3) 不都合な情報について訂正・削除のお求めがあった場合は、データ収録後も対応します。
- (4) ご提供いただいた情報、録音した音声データなどの調査資料は、利用について承諾を得た範囲の、特定できる研究者・専門家に限って公開します。
- (5) ご提供いただいた情報、録音した音声データの分析、および、それに基づいた成果の公表にあたっては、内容や発言者について個人を特定して論ずることはしません。

### お問い合わせ先：

11 月 11 日～12 月 5 日の調査期間中は

【鶴岡市内での連絡先】

「鶴岡市における言語調査」調査本部

〒997-0036 鶴岡市家中新町 6-45

電話 0235-33-8530

11 月 10 日以前と 12 月 6 日以降は

【調査主体代表連絡先】

国立国語研究所 鶴岡調査事務局

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

電話 042-540-4630 (平日 10:00～17:00)

ホームページ <http://www.ninjal.ac.jp/>

※本ガイドラインは、備忘用に対象者の皆様がお手元に保存ください。

## 研究協力に関する承諾書

国立国語研究所 研究責任者 横山 詔一 様  
統計数理研究所 研究責任者 吉野 諒三 様

私は、国立国語研究所と統計数理研究所の共同研究「第4回 鶴岡市における言語調査」による調査・データ収録・情報収集に協力し、提供された「調査のガイドライン」を条件として、回答情報、音声データの提供を承諾します。

平成      年      月      日

本人ご署名：\_\_\_\_\_

ご住所：\_\_\_\_\_

※ご協力者が中学生以下の方の場合には、保護者のご署名もお願いしております。

ガイドラインをご覧の上、お子様が上記の協力することについて承諾される場合は署名をお願いいたします。

平成      年      月      日

保護者ご署名：\_\_\_\_\_

鶴岡調査2011

## 調 査 員 記 録 簿

調査	ランダムA
番号	0001

氏名:	国語研太1	男	Tel.
住所:	鶴岡市本町4丁目100-1		
昭和43年01月01日	備考:		

## 訪 問 状 況

	日	曜日	時刻	接触の相手	調査員	備考
1			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		
2			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		
3			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		
4			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		
5			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		
6			前・後 時 分	本人・家族・他( ) / 不在		

## 居 住 形 態

1 一戸建て    2 集合住宅（オートロック あり / なし）    3 その他（\_\_\_\_\_）

## 調 査 票 回 収 状 況

- A. 言語生活調査票    イ 回 収（\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日）  
  ロ 回収予定日（\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日）  
  ハ 回収不能  
  理由（拒否, その他） 具体的に \_\_\_\_\_
- B. 面接調査票    イ 回 収（\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日）  
  ロ 調査不能と決定した日（\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日）  
  ▶ 転出・転居 → 転出先 \_\_\_\_\_  
  ▶ 長期不在・期間中一度も接触できず・病気・障害・難聴  
  ▶ 拒否, その他  
  →具体的に \_\_\_\_\_

備考（原簿の誤り・その他）

留置	面接	録データ

## 第4回 鶴岡市における言語調査 言語生活調査票

2011（平成23）年11月

国立国語研究所・統計数理研究所

### <ご回答いただくにあたってのお願い>

- (1) このアンケート用紙にお答えいただきたいのは、**宛名のご本人様**です。
- (2) 質問番号の順番に、**鉛筆か、黒又は青のボールペン**であてはまる番号に○をつけてください。
- (3) きたる **11月11日(金)～11月28日(月)の間**に、両研究所の調査員または委託先である(株)日本リサーチセンターの調査員がお宅を訪問いたします。その際、ご記入済みのアンケート用紙を、調査員にお渡しください。
- (4) お礼の粗品を用意しておりますので、調査員からお受け取りください。

**日常生活の中でふだん使っておられることばやことばに対するご意見をお尋ねします。  
むずかしく考えないでお答えください。**

### 【昨日のことについておうかがいします。】

問1. あなたは昨日、「家の中」で次のようなやりとりをしましたか。(○はいくつでも)

- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| 1. 相談        | 5. さしずした               |
| 2. 言い争い      | 6. さしずされた              |
| 3. 家人に注意やごこと | 7. 御用聞き・集金人・セールスマンとの応対 |
| 4. 用事の話      | 8. その他お客との応対           |
|              | 9. やりとりはしていない          |

問2. あなたが昨日、「家の中」で、家族と雑談をしたのはいつでしたか。(○はいくつでも)

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1. 朝食のとき | 4. お茶・夜食のとき |
| 2. 昼食のとき | 5. その他（具体的に |
| 3. 夕食のとき | 6. 雑談はしていない |

問3. あなたは昨日、職場や学校や喫茶店など「家以外の場所」で、次のような人と話をしましたか。

(○はいくつでも)

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 1. 先生や上役の人と | 5. あまり心安くない人と              |
| 2. 友達や同僚と   | 6. はじめて会った人と               |
| 3. 部下や生徒と   |                            |
| 4. 来客と      |                            |
|             | 7. 話していない →次ページの問5へお進みください |

＜問3で「1 先生や上役の人と」～「6.はじめて会った人と」と答えた方にうかがいます。＞

問4. 問3で○をつけた人とは、次のような内容の話をしましたか。(○はいくつでも)

- |            |           |            |
|------------|-----------|------------|
| 1. 質問      | 4. 会議     | 7. 雑談      |
| 2. 相談・打合せ  | 5. さしずした  | 8. この中にはない |
| 3. 交渉・話し合い | 6. さしずされた |            |

＜全員の方にうかがいます。＞

問5. あなたは昨日、次のようなものを聞きましたか。(○はいくつでも)

- |        |             |                    |
|--------|-------------|--------------------|
| 1. ラジオ | 3. 宣伝カーの放送  | 5. 外国語での会話・説明・放送など |
| 2. テレビ | 4. その他の街頭放送 | 6. この中にはない         |

問6. では、あなたは昨日、次のような内容を聞きましたか。(○はいくつでも)

- |             |            |            |
|-------------|------------|------------|
| 1. 演説       | 3. 案内・お知らせ | 5. この中にはない |
| 2. 講義・訓話・説教 | 4. ニュース    |            |

問7. あなたは昨日、次のようなものを読みましたか。(○はいくつでも)

- |           |            |          |                |
|-----------|------------|----------|----------------|
| 1. 新聞     | 4. 教科書・参考書 | 7. 小説の本  | 10. パソコンのEメール  |
| 2. 週刊誌    | 5. 辞書      | 8. 漫画    | 11. 携帯電話のメール   |
| 3. その他の雑誌 | 6. 外国語     | 9. その他の本 | 12. インターネットの情報 |
|           |            |          | 13. この中にはない    |

問8. あなたは昨日、次のようなものを書きましたか。(○はいくつでも)

- |        |              |             |
|--------|--------------|-------------|
| 1. 日記  | 4. 職場での書き物   | 8. ブログ      |
| 2. はがき | 5. 署名        | 9. その他の文章   |
| 3. 手紙  | 6. パソコンのEメール | 10. この中にはない |
|        | 7. 携帯電話のメール  |             |

問9. では、あなたは昨日、次のようなものは書きましたか。(○はいくつでも)

- |        |                |            |
|--------|----------------|------------|
| 1. 伝票  | 4. メモ          | 7. この中にはない |
| 2. 帳簿  | 5. ノート         |            |
| 3. 家計簿 | 6. 届・申込みその他の書類 |            |

問10. あなたは昨日、次のような筆記用具・道具を使いましたか。(○はいくつでも)

- |             |            |               |
|-------------|------------|---------------|
| 1. 鉛筆       | 5. ボールペン   | 9. パソコン       |
| 2. 万年筆      | 6. サインペン   | 10. 携帯電話・携帯端末 |
| 3. 筆        | 7. タイプライター | 11. この中にはない   |
| 4. シャープペンシル | 8. ワープロ専用機 |               |

【ここからは、あなたご自身のことについて、いくつかおうかがいします。】

問11. あなたは、近所の人とおしゃべりをするのが好きですか。(○は1つだけ)

- |       |               |               |       |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 好き | 2. どちらかといえば好き | 3. どちらかといえば嫌い | 4. 嫌い |
|-------|---------------|---------------|-------|

問12. 集会や会議などに出席するのは好きですか。(○は1つだけ)

- |       |               |               |       |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 好き | 2. どちらかといえば好き | 3. どちらかといえば嫌い | 4. 嫌い |
|-------|---------------|---------------|-------|

問13. 人前で話ができるほうですか。(○は1つだけ)

- |        |                |                 |         |
|--------|----------------|-----------------|---------|
| 1. できる | 2. どちらかといえばできる | 3. どちらかといえばできない | 4. できない |
|--------|----------------|-----------------|---------|

問14. 他人と話をするとき、自分のことばが気になるほうですか。(○は1つだけ)

- |            |           |              |             |
|------------|-----------|--------------|-------------|
| 1. 非常に気になる | 2. 少し気になる | 3. あまり気にならない | 4. 全然気にならない |
|------------|-----------|--------------|-------------|

問15. 旅先で、あなたは見知らぬ人に気軽に話しかけるほうですか。(○は1つだけ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問16. 旅先で、あなたは見知らぬ人に話しかけられたら気軽に応じるほうですか。(○は1つだけ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問17. あなたは、ご近所の方との程度のおつき合いがありますか。(○は1つだけ)

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 親しくつき合っている人がかなりいる | 3. 世間話をする程度の人だけ   |
| 2. 親しくつき合っている人が数人いる  | 4. あいさつをかわす程度の人だけ |
|                      | 5. ほとんどつき合いがない    |

問18. 「標準語で話すと話の真実味が少ない」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

- |         |               |               |         |
|---------|---------------|---------------|---------|
| 1. 全く賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 | 4. 全く反対 |
|---------|---------------|---------------|---------|

問19. 「方言まるだしでも話が通じればよい」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

- |         |               |               |         |
|---------|---------------|---------------|---------|
| 1. 全く賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 | 4. 全く反対 |
|---------|---------------|---------------|---------|

問20. 「小中学校で、方言のよさを見直す教育をすべきだ」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

- |         |               |               |         |
|---------|---------------|---------------|---------|
| 1. 全く賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 | 4. 全く反対 |
|---------|---------------|---------------|---------|

問21. 日記や友人に出す手紙を書くときに、方言が混ざることがありますか。(○は1つだけ)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. ほとんど方言で書くことが多い | 3. 方言と標準語がほぼ半々のことがある |
| 2. 方言がかなり混ざることがある | 4. 方言がすこしは混ざることがある   |
|                   | 5. 方言が混ざることはいらない     |

問22. ブログや友人に出すEメールを書くときに、方言が混ざることがありますか。(○は1つだけ)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. ほとんど方言で書くことが多い | 3. 方言と標準語がほぼ半々のことがある |
| 2. 方言がかなり混ざることがある | 4. 方言がすこしは混ざることがある   |
|                   | 5. 方言が混ざることはいらない     |

問23. あなたは庄内が好きですか。(○は1つだけ)

- |       |       |              |
|-------|-------|--------------|
| 1. 好き | 2. 嫌い | 3. どちらともいえない |
|-------|-------|--------------|

問24. あなたはこの地方に伝わる文化を後世に残すべきだと思いますか。(○は1つだけ)

- |       |         |            |
|-------|---------|------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらでもよい |
|-------|---------|------------|

問25. あなたの標準語の手本は何だったと思いますか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

(○は2つまで)

- |              |               |               |
|--------------|---------------|---------------|
| 1. 家族のことば    | 4. 書物・新聞・教科書  | 7. その他(具体的に ) |
| 2. 知人・親戚のことば | 5. テレビ        | 8. わからない      |
| 3. 教師のことば    | 6. 職場の人たちのことば | 9. 特になし       |

問26. あなたが話をしているとき、使っていることばからよその地方の人に出身地を当てられたら、どのような感じがしますか。(○は1つだけ)

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1. 誇らしく思う   | 4. よく当てたと思い面白く感じる |
| 2. いやな感じがする | 5. その他(具体的に )     |
| 3. 何とも感じない  | 6. わからない          |

問27. ことばに関係なく、紹介などで他の地方の人に出身地を知られたらどのような感じがしますか。(○は1つだけ)

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 誇らしく思う   | 4. その他(具体的に ) |
| 2. いやな感じがする | 5. わからない      |
| 3. 何とも感じない  |               |

問28. 自分の子どもや孫にはどんなことばを使ってほしいと考えていますか。(○は1つだけ)

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 標準語だけを使ってほしい            |
| 2. 場合によって、標準語と鶴岡弁を使い分けてほしい |
| 3. 鶴岡弁だけを使ってほしい            |
| 4. どちらでもよい                 |
| 5. その他(具体的に )              |
| 6. わからない                   |

問29. 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいということになったら、あなたはどこに住んでみたいと思いますか。  
最も住んでみたいと思うところに○をつけてください。(○は1つだけ)

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 鶴岡市          | 3. (庄内地方以外の)山形県     |
| 2. (鶴岡市以外の)庄内地方 | 4. その他の都道府県 (具体的に ) |
|                 | 5. 特になし             |

問30. 東京に住んでいる親せきやお知り合いがいますか。(○は1つだけ)

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1. いる | 2. いない →問 32 へお進みください |
|-------|-----------------------|

<問 30 で「1.いる」と答えた方にうかがいます。>

問31. 東京に住んでいる親せきやお知り合いとは、どの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

- |             |                       |              |
|-------------|-----------------------|--------------|
| 1. 行き来をしている | 2. 往来はないが、電話で話し合う     | 5. 特につきあいはない |
|             | 3. 往来や電話はないが、文通をしている  |              |
|             | 4. 往来や電話はないが、メールをしている |              |

<全員の方にうかがいます。>

問32. あなたは普段、テレビを1日にどのくらい見ますか。1週間の平均でお答えください。(○は1つだけ)

- |                |                |             |
|----------------|----------------|-------------|
| 1. 30 分以下      | 5. 2 時間 30 分以下 | 8. 4 時間以下   |
| 2. 1 時間以下      | 6. 3 時間以下      | 9. 4 時間超    |
| 3. 1 時間 30 分以下 | 7. 3 時間 30 分以下 | 10. テレビは見ない |
| 4. 2 時間以下      |                |             |

問33. あなたは普段、ラジオを1日にどのくらい聞きますか。1週間の平均でお答えください。(○は1つだけ)

- |                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
| 1. 30 分以下      | 5. 2 時間 30 分以下 | 8. 4 時間以下    |
| 2. 1 時間以下      | 6. 3 時間以下      | 9. 4 時間超     |
| 3. 1 時間 30 分以下 | 7. 3 時間 30 分以下 | 10. ラジオは聞かない |
| 4. 2 時間以下      |                |              |

問34. テレビやラジオのニュースでは、「庄内地方や鶴岡のことを取りあげたニュース」と「東京や全国のことを取り上げたニュース」とでは、どちらが好きですか。(○は1つだけ)

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 庄内地方や鶴岡のことを取り上げたニュース | 3. どちらでもない         |
| 2. 東京や全国のことを取り上げたニュース   | 4. ニュースは見ない (聞かない) |

問35. 新聞はどの程度読みますか。(○は1つだけ)

- |         |         |                                |
|---------|---------|--------------------------------|
| 1. 毎日読む | 2. 時々読む | 3. 新聞は読まない →次ページの問 37 へお進みください |
|---------|---------|--------------------------------|

＜問 35 で「1.毎日読む」「2 時々読む」と答えた方にうかがいます。＞

問36. あなたがお読みになっている新聞をすべて教えてください。(○はいくつでも)

【全国紙】	【地方紙】	【その他の新聞】
1. 朝日新聞	4. 産経新聞	6. 山形新聞
2. 毎日新聞	5. 日本経済新聞	7. 荘内日報
3. 読売新聞		8. その他の新聞 (具体的に )

問36-1. (問 36 で2つ以上○をつけた方のみ)○をつけた新聞のうち、あなたが最もよくお読みになるものを1つ教えてください。(番号を1つ記入)

＜全員の方にうかがいます。＞

問37. あなたは次の2つの意見のうち、どちらに賛成ですか。「どちらかといえば」という程度でも結構ですからどちらか1つをお選びください。(○は1つだけ)

1. 鶴岡には長い間につくりあげてきた生活の仕方（暮らし方）がある。  
これからもそれに従っていけばよい。
2. もっと新しい生活の仕方を積極的にとりいれて、生活をどんどん合理的にしてゆく必要がある。

問38. 次の(a)～(d)のそれぞれの場面であなたが使うことばは、標準語ですか。それとも鶴岡弁ですか。あるいは標準語と鶴岡弁が混ざりますか。(a)～(d)のそれぞれについて○を付けてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

		標準語で話す	鶴岡弁で話す	標準語と 鶴岡弁が混ざる	その他の方言で 話す
(a) お宅で家族の方たちといろいろな話をする時	→	1	2	3	4
(b) 近所の顔見知りの方と話をする時	→	1	2	3	4
(c) 鶴岡の人で顔見知りでない方と話をする時	→	1	2	3	4
(d) 観光客など旅の人などと話をする時	→	1	2	3	4

問39. あなたは「鶴岡弁」についてどんなふうに感じますか。(a)～(c)のそれぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(a)	1. 軽快だ	2. 重苦しい	3. どちらともいえない
(b)	1. 深みがある	2. 薄っぺらだ	3. どちらともいえない
(c)	1. 好きだ	2. きらいだ	3. どちらともいえない

問40. それでは「東京弁」についてはどんなふうに感じますか。(a)～(c)のそれぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(a)	1. 軽快だ	2. 重苦しい	3. どちらともいえない
(b)	1. 深みがある	2. 薄っぺらだ	3. どちらともいえない
(c)	1. 好きだ	2. きらいだ	3. どちらともいえない

問41. 鶴岡弁について次のような意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。「どちらかといえば」という程度でも結構ですからどちらか1つをお選びください。(○は1つだけ)

1. 鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。鶴岡弁はできるだけなくしてしまったほうがよい。
2. 鶴岡弁は鶴岡の大事な文化だから、できるだけ鶴岡弁を使い続けたほうがよい。

問42. 現在、あなたと同居している人を教えてください。(○はいくつでも)

- |             |          |                         |
|-------------|----------|-------------------------|
| 1. 父親       | 6. 配偶者の父 | 11. 兄弟姉妹                |
| 2. 母親       | 7. 配偶者の母 | 12. 他の親族                |
| 3. 配偶者(夫・妻) | 8. 孫     | 13. 住み込みの雇い人            |
| 4. 子ども      | 9. 祖父    | 14. その他(具体的に )          |
| 5. 子どもの配偶者  | 10. 祖母   | 15. 同居している人はいない(ひとり暮らし) |

問43. このアンケートにご記入くださったのはいつですか。

<input type="text"/>	月	<input type="text"/>	日の	1 朝	2 昼	3 夕方	4 夜
----------------------	---	----------------------	----	-----	-----	------	-----

(○は1つだけ)

以上でこのアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

このアンケート用紙は調査員がお伺いしましたときにお渡しく下さい。

また、その場で面接形式でお聞きするのも、ことばに関する簡単な内容です。是非ご協力をお願いいたします。

平成23年11月

国立国語研究所・統計数理研究所

鶴岡市民各位

## 「第4回 鶴岡市における言語調査」ご協力のお願い

私ども国立国語研究所では、これまで永年にわたり全国各地でことばの実態調査を行ってまいりました。当鶴岡市でも、統計数理研究所との共同研究として、昭和25年、昭和46年、平成3年の3回にわたり多くの市民の方々にご協力いただき、貴重な成果を上げることができました。

このたび、その後20年のことばの変化をあとづけるために、両研究所は再度、鶴岡市で調査することを企画いたしました。4回目の調査となる今回は、市民の皆様の中から700人の方にお目にかかり、普段使われていることばについてお伺いしたいと存じます。

このほど市役所のご了解を得て、協力をお願いする方を統計学的方法で住民基本台帳から公平に選びましたところ、あなた様がその対象となりました。何かとお忙しいところ勝手なお願いを申上げて恐縮ですが、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。

ご協力いただきたいことは、つぎの二つです。

- (1) 同封のアンケート用紙『言語生活調査票』にご記入いただくこと。
- (2) 担当調査員（統計数理研究所・国語研究所の調査員）がお宅にお伺いした際、あて名のご本人様に、面接形式でことばに関する簡単な質問にお答えいただくこと。

ご回答いただいた内容は、性別、年齢別、出身地別などのようにグループにまとめ、「〇〇と回答した人が〇パーセント」というような統計的な数字の形に集計します。あなた様のお名前やお答えの内容など個人的な事柄は決して公表することはありませんので、安心してふだんのままをお答えください。また、ご家族の方を代人とするのではなく、あなた様ご自身でお答えいただきたく存じます。

ご多忙中、突然のお願いで恐縮ですが、上記趣旨をご理解のうえ、なにとぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成23年11月

大学共同利用機関法人

人間文化研究機構 国立国語研究所 所長 影山 太郎  
情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長 樋口 知之

### 【調査実施・お問い合わせ先】

11月11日～12月5日の調査期間中は

【鶴岡市内での連絡先】

「鶴岡市における言語調査」調査本部

〒997-0036 鶴岡市家中新町 6-45

電話 0235-33-8530

（毎日 8:00～21:00）

左の期間以外・不在時のご連絡は

【調査主体代表連絡先】

国立国語研究所 鶴岡調査事務局

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

電話 042-540-4630（平日 10:00～17:00）

ホームページ <http://www.ninjal.ac.jp/>

「第4回 鶴岡市における言語調査」の実施は、  
11月1日号「広報つるおか」の「市からのお知らせ」でも紹介されています。

## 言語調査にご協力ください

国立国語研究所と統計数理研究所は、昭和25年、46年、平成3年に続き、鶴岡市で4回目の言語調査を行います。

同一地域で継続的に実施していく調査を「定点経年調査」と呼んでいます。60年間にわたる定点経年調査は、世界に類を見ない、学術的に貴重な調査です。今回の第4回調査を実施すれば、世界で最も長期間にわたって続けた調査となります。

調査は、市民約1,200人を対象に、11月11日(金)から12月5日(月)までの間、両研究所の所員・調査員（一部、委託先の調査会社の調査員）が直接お会いして行います。訪問先の市民の皆さんには、事前に依頼状をお送りします。質問内容は簡単なものです。市民の皆さんのご協力をお願いします。

▶▷問合せ◀◀

国立国語研究所 鶴岡調査事務局

〒190 - 8561 東京都立川市緑町10 - 2 ☎042 - 540 - 4630

国立国語研究所による類似の調査については、下記のホームページで紹介しています。

<http://www2.ninjal.ac.jp/keinen/>

### 調査に関する Q & A

#### Q. 調査の目的は何ですか？

A. この調査は、鶴岡市民の皆さんがふだんどのような「ことば」を使っているか、そのことばはこれまでどのように変化し、この先どのように変化していくのかを研究するために行います。

この調査は鶴岡市で 1950 年に初めて実施して以来、ほぼ 20 年おきに実施して、今回が 4 回目になります。同じ地域で実施してきたので、60 年前と現在とで、使われていることばがどう違うのかを知ることができます。

#### Q. なぜ私が選ばれたのですか？ どうして私の住所と名前がわかったのですか？

A. この調査の対象者は、15 歳以上の鶴岡市民の皆さんです。ご協力をお願いする方は、結果が市民全体の縮図となるように、統計の理論に基づいた無作為な(くじ引きのような)方法で選んでいます。あな

たが選ばれたのは、くじと一緒に、まったくの偶然の結果です。

なお、皆様の連絡先は、鶴岡市の許可をいただいた上で、住民基本台帳を閲覧して転記させていただきました。

#### Q. 代わりの人が答えてはいけませんか？

A. ご協力いただく方は、統計学の理論に基づいて選ばれており、代わりの人が答えると、正確な調査を行えなくなります。お願いを差し上げた宛て名のご本人様にご協力をお願い致します。

#### Q. 個人情報に外に漏れるのが心配です。

A. お名前や住所などの個人情報は決して調査以外の目的に利用しないことをお約束します。詳しくは調査員が訪問時にご説明いたします。

鶴岡市民各位

## 「第4回 鶴岡市における言語調査」ご協力のお願い

私ども国立国語研究所では、これまで永年にわたり全国各地でことばの実態調査を行ってまいりました。当鶴岡市でも、統計数理研究所との共同研究として、昭和25年、昭和46年、平成3年の3回にわたり多くの市民の方々にご協力いただき、貴重な成果を上げることができました。

このたび、その後20年のことばの変化をあとづけるために、両研究所は再度、鶴岡市で調査することを企画いたしました。4回目の調査となる今回は、市民の皆様の中から700人の方にお目にかかり、普段使われていることばについてお伺いしたいと存じます。

このほど市役所のご了解を得て、協力をお願いする方を統計学的方法で住民基本台帳から公平に選びましたところ、あなた様がその対象となりました。何かとお忙しいところ勝手なお願いを申上げて恐縮ですが、どうぞご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

ご協力いただきたいことは、つぎの二つです。

- (1) 同封のアンケート用紙『言語生活調査票』にご記入いただくこと。
- (2) 担当の調査員（両研究所が委託した専門調査会社（株）日本リサーチセンターの調査員）がお宅にお伺いした際、あて名のご本人様に、面接形式でことばに関する簡単な質問にお答えいただくこと。

ご回答いただいた内容は、性別、年齢別、出身地別などのようにグループにまとめ、「〇〇と回答した人が〇パーセント」というような統計的な数字にまとめます。あなた様のお名前やお答えの内容など個人的な事柄は決して公表することはありませんので、安心してふだんのままをお答えください。また、ご家族の方を代人とするのではなく、あなた自身でお答えいただきたく存じます。

ご多忙中、突然のお願いで恐縮ですが、上記趣旨をご理解のうえ、なにとぞご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

平成23年11月

大学共同利用機関法人

人間文化研究機構 国立国語研究所 所長 影山 太郎

情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長 樋口 知之

### 【調査実施・お問い合わせ先】

株式会社日本リサーチセンター

ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション・メンバー

調査部 担当 吉田・鈴木

フリーダイヤル 0120-911-552

(平日 10:00~17:00)

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1

ホームページ <http://www.nrc.co.jp>



(株)日本リサーチセンターは、1960年に創設された、歴史のあるマーケティングリサーチ会社のひとつです。個人情報保護法、および社団法人日本マーケティングリサーチ協会の「マーケティングリサーチ綱領」を遵守して、世論調査・市場調査を行っております。

**「第4回 鶴岡市における言語調査」の実施は、  
11月1日号「広報つるおか」の「市からのお知らせ」でも  
紹介されています。**

**言語調査にご協力ください**

国立国語研究所と統計数理研究所は、昭和25年、46年、平成3年に続き、鶴岡市で4回目の言語調査を行います。

同一地域で継続的に実施していく調査を「定点経年調査」と呼んでいます。60年間にわたる定点経年調査は、世界に類を見ない、学術的に貴重な調査です。今回の第4回調査を実施すれば、世界で最も長期間にわたって続けた調査となります。

調査は、市民約1,200人を対象に、11月11日(金)から12月5日(月)までの間、両研究所の所員・調査員（一部、委託先の調査会社の調査員）が直接お会いして行います。訪問先の市民の皆さんには、事前に依頼状をお送りします。質問内容は簡単なものです。市民の皆さんのご協力をお願いします。

国立国語研究所による類似の調査については、下記のホームページで紹介しています。

<http://www2.ninjal.ac.jp/keinen/>

●調査の経緯・趣旨に関するお問い合わせ先

11月10日以前のご連絡は

【調査主体代表連絡先】

国立国語研究所 鶴岡調査事務局

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

電話 042-540-4630（平日 10:00～17:00）

ホームページ <http://www.ninjal.ac.jp/>

11月11日以降の調査期間中は、

【鶴岡市内での連絡先】

「鶴岡市における言語調査」調査本部

〒997-0036 鶴岡市家中新町 6-45

電話 0235-33-8530

## 研究と社会とのつながり(主な例)

### 消滅危機方言の研究と地域社会

ユネスコは世界各地における消滅危機言語を発表し、日本に関しては8つの言語(方言)を消滅危機と認定しました。これらの世界的に貴重・希少な日本語方言を集中的に記録・保存し、分析することによって、世界規模で展開されている危機言語研究に貢献すると共に、それら諸方言が用いられている地域社会の活性化にも寄与します。

### 日本語コーパスの構築と多方面での利用

欧米と比べて遅れを取っていた現代日本語コーパス(大量の書き言葉・話し言葉を電子化した多方面での活用を可能としたもの)の構築を推進し、同時に古典語を含む歴史的コーパスの設計にも着手しています。これによってコーパス日本語を世界レベルに引き上げると共に、「言葉の資源」を言語研究者のみならず日本語(国語)教師、外国人学習者、マスコミ、人工知能など多方面で利用できるようにします。

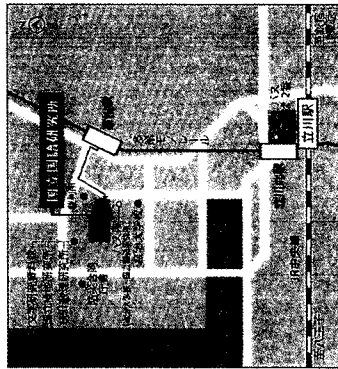
### 多文化共生社会と日本語教育研究

在日外国人や留学生、海外での日本語学習者など、日本語学習に対するニーズの多様化により、日本語教育の内容や方法にも多様性が求められています。日本語コミュニケーション能力とその教育に関する研究など、第二言語としての日本語の教育・学習に資する実証的研究を行うことにより、日本語教育の内容と方法の改善、日本語学習の効率化に貢献し、異文化理解などの社会的諸問題の解決に寄与します。

## 研究図書室ご利用案内

開室日：月曜日～金曜日  
開室時間：9時30分～17時  
休室日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始  
毎月最終金曜日

## 交通案内



○JR「東京駅」から  
JR中央線快速で約50分、「立川駅」下車  
○JR「立川駅」から  
・多摩モノレール「立川北駅」乗車、  
「高松駅」下車、徒歩7分  
・立川バス北口バスのりば2番から「自治大  
学校・国立国語研究所」下車、徒歩1分

## お問い合わせ

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
TEL 042-540-4300(代) FAX 042-540-4333  
ホームページ <http://www.ninjal.ac.jp>

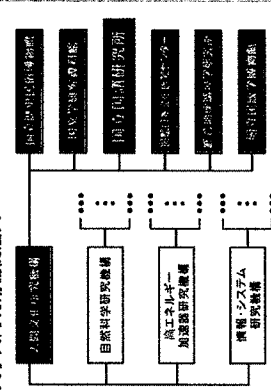
## 国語研とは

国立国語研究所は1948(昭和23)年に創設され、独立行政法人を経て、2009(平成21)年10月1日に大学共同利用機関法人 人間文化研究機構の6番目の機関として設置されました。国立国語研究所(略称「国語研」)という日本語の名称は変わりませんが、英語名は National Institute for Japanese Language and Linguistics(略称「NINJAL」)となりました。

過去61年間の研究の蓄積を踏まえながら、言葉の研究を通して人間文化に関する理解と洞察を深め、国語及び国民の言語生活並びに外国人に対する日本語教育に貢献することを目的としています。日本語学・言語学・日本語教育研究の核的拠点として、国内外の大学・研究機関と世界における大規模な理論的・実証的共同研究を展開することによって日本語の特質を解明しようとしています。

詳しくは、[www.ninjal.ac.jp](http://www.ninjal.ac.jp) 検索

## 大学共同利用機関法人\*



\*国立大学法人法に基づき、大学共同利用機関を設けることを目的として、同法の定めるところにより設置された法人

# 国立国語研究所

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

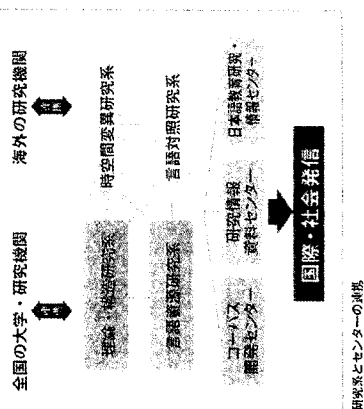
2010/2011



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国立国語研究所  
National Institute for Japanese Language and Linguistics

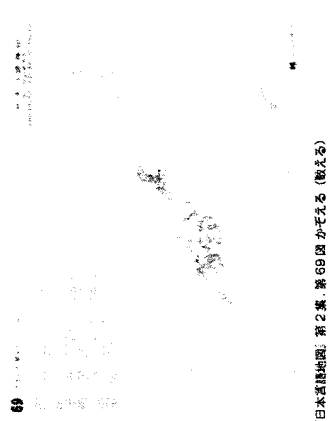
## 研究体制

研究組織は、4つの研究系と3つのセンターから成り立っています。言語の基本的な性質を扱う「理論・構造研究系」、方言および歴史的な変化を研究する「時空間変異研究系」、言語資源の電子化と応用に関する基礎的研究を行う「言語資源研究系」、諸外国語との比較・対照を行う「言語対照研究系」の4研究系と、研究成果や研究文献情報の発信を行う「研究情報資料センター」、コーパスの構築と公開を行う「コーパス開発センター」、日本語教育研究を行う「日本語教育研究・情報センター」の3センターです。これらが密接に連携しながら研究を進めるとともにその成果を社会に発信しています。また、欧米及びアジアから外国人の研究者(専任ないし客員)も参加しています。



## 日本語研究の中核的拠点

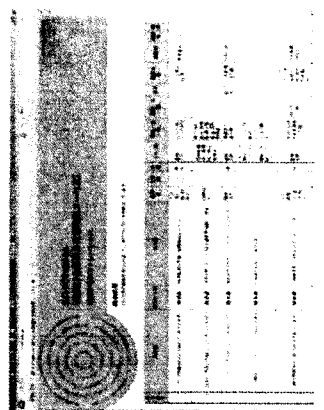
- **理論・構造研究系**  
理論・構造研究系では、現代日本語の文法・統語、音声・音韻・語彙・形態・意味・語用・接話、文字・表記に関わる理論的・実証的研究を行っています。現在は、レキシコン(語彙、単語)をキーワードとして、その音韻特性、語形成の文法的・意味的・形態的特性、文字環境のモデル化などの共同研究を始動させています。
- **時空間変異研究系**  
時空間変異研究系は、現在および過去における地理的・社会的変異、歴史的変異の経路を解明することを目標に、方言の全国調査、琉球など消滅危機方言の調査、現代日本語の動態の解明、海外における日本語変種の形成過程といった共同研究に取り組んでいます。



- **言語資源研究系**  
コーパスなどの言語資源の構築と活用に関する基礎研究を行う言語資源研究系では、従来の「日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」を発展させるために「アノ

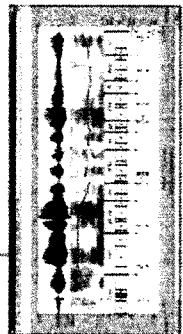
## 共同利用

- **研究情報資料センター**  
国内外の研究者の共同利用に供するため、研究情報資料センターが中心となって、日本語学・言語学の諸領域ならびに日本語教育に関連する研究文献情報を集積・整理してウェブ上で公開していきます。また、海外への発信をも意図した学術専門情報誌「国語研ブロージェクトレビュー」と「国語研オケージョナルペーパー」、及び報告書「国語研共同研究報告」等を電子媒体あるいは紙媒体で逐次刊行していきます。
- **コーパス開発センター**  
コーパス開発センターにおいては、「日本語話し言葉コーパス」を引き継ぎ公開するとともに、現在構築中のKOTONOHAコーパスの一部を試験的に公開・提供しています。



<検索デモンストレーション>  
<http://www.kotonoha.gr.jp/demo/>

- **言語対照研究系**  
言語対照研究系は、世界の諸言語との比較によって日本語の特質を明らかにすることを目標とし、体系構め文と名詞の文法化、主節と従属節の結びつきに関する制限、述語構造の意味の普遍性と多様性といった課題について、諸外国語の研究者と共同で言語類型論的研究を進めています。
- **日本語教育研究・情報センター**  
第二言語(外国語)としての日本語の教育・学習をとりまく様々な今日的課題に対して、国内外の日本語教育に関する研究情報を収集するとともに、学習者の日本語コミュニケーション能力に関する実証的研究を行い、それらの成果を社会に発信・還元します。



左)「音声を書き起こした転記ファイル」  
右)「日本語話し言葉コーパス」の語彙ラベル

## 統計数理研究所のご紹介

### 統計数理研究所とは

統計数理研究所は、統計に関する理論と応用を研究することを目的に、昭和19年6月に当時の文部省の下に設置されて以来、研究活動が続けてきた公的な研究機関です。

現在では、全国の国立大学と同様に国の法律（国立大学法人法）に基づいて「大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構」の一研究所として法人化され、大学の研究所等と同様に独自の立場での研究活動や、他研究所との共同研究、大学院教育を行っています。

統計数理研究所のホームページは下記の通りです。

↓研究所ホームページ <http://www.ism.ac.jp/> より



### 大学共同利用機関法人とは

大学共同利用機関は、各研究分野における「全大学の共同利用の研究所」として、個別の大学では整備・維持が困難な最先端の大型装置や大量の学術データ、貴重な資料等を全国の研究者に無償で提供し、個々の大学の枠を越えた共同研究を推進するわが国独自の公的な研究機関です。現在日本には大学共同利用機関法人（いずれも「～機構」という名称）が4つあります。統計数理研究所が所属する「情報・システム研究機構」には、他に、国立情報学研究所、国立極地研究所、国立遺伝学研究所が所属し、独自の研究に加えて研究所間の融合的な研究活動も行っています。

今回の調査を共同で行う国立国語研究所は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の所属です。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
統計数理研究所 <http://www.ism.ac.jp/>  
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3  
電話 050-5533-8500（代表）

調査期間中のお問い合わせは  
E-mail: [chosanoe@ism.ac.jp](mailto:chosanoe@ism.ac.jp)  
または下記へお電話でお願いいたします。  
「鶴岡市における言語調査」本部  
Tel: 0235-33-8530



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

## 統計数理研究所の調査研究

統計数理研究所では、統計の応用の一分野として、今回のような統計調査の研究も、共同研究や独自の研究の形で60年以上にわたって行っています。今回の「鶴岡市における言語調査」についても、1950年の第1回調査から国立国語研究所に協力しています。統計数理研究所がこれまでに行ってきた調査研究の成果の一部は、ホームページでも紹介しております。

中でも最もよく知られているのは、「日本人の国民性調査」です。この調査は、身近な事柄に関する日本人のものの見方や考え方について、1953年以来半世紀以上にわたり「定点観測」を続けてきた継続社会調査として、学術研究や教育の場で広く活用され、またマスメディア等\*でもご紹介いただいています。

※比較的最近では、2011年10月18日付朝日新聞「天声人語」で結果が紹介されました。

下記のホームページで、長期にわたる日本人の意識の変化を捉えた調査結果を紹介しております。

↓ 国民性調査ホームページ <http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/index.html>



2011年1月には「調査科学研究センター」を発足させ、全国の大学や研究機関等との連携によるネットワーク形成を通じて、調査の科学に関する学術的基盤の充実と発展を図るための活動を続けております。調査科学研究センターの活動については下記のホームページで紹介しています。

調査科学研究センターの紹介ページ <http://noe.ism.ac.jp/survey/>



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構


統計数理研究所

## 調査要領（調査メモ）

作成日	作成者	確認日	確認者
11.11.07	鈴木	11.11.07	吉田

＊調査員の皆様はこの調査要領（調査メモ）に従って、調査を正確に進めてください。

調 査 名	2011-10005-000 「第4回 鶴岡市における言語調査」
調 査 目 的	言語の経年変化、特に方言の共通語化の過程を明らかにすることが本調査の目的です。 1950年から20年に一度、山形県鶴岡市で行われてきた調査の第4回目に当たるのが本調査であり、この地域の言語の共通語化がどのように進展してきたかを考察するための資料となります。
調 査 実 施 主 体	国立国語研究所と統計数理研究所とによる合同調査  調査結果は基礎集計報告書（平成24年10月刊行予定；第一次報告書）として公表するほか、国立国語研究所のホームページでも公表。
調 査 実 施 機 関	株式会社日本リサーチセンター（調査実施主体からの委託を受けて調査を実施）
調 査 エ リ ア	山形県鶴岡市の一部地域
サ ン プ ル 数	1 地点 30s 程度（地点により異なります）
調 査 対 象	<div>山形県鶴岡市内の調査対象地域在住の15歳以上79歳以下の男女個人約1000名</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査実施主体が住民基本台帳から抽出。</li> <li>・以前の調査から継続して調査を行う対象者を含めて約1000名が対象者です。NRCで調査を行うのはそのうちの630名（新規の方のみ）です。</li> <li>・<u>名簿の本人</u>に依頼。家族等、他の人への依頼は厳禁。</li> </ul>
調 査 方 法	<p><b>訪問面接調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICレコーダー（ボイスレコーダー）を用いて、対象者の発音やアクセントを録音する言語調査です。</li> <li>・事前に対象者に郵送している郵送調査票（自記入式）の受け取ってください。</li> <li>・対象者に承諾書を書いていただく必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒この承諾書は、調査データの使用・音声録音に対する承諾書、（対象者が中学生の場合）親の同意書という3つの意味を兼ねています。</li> <li>⇒対象者の年齢により、承諾書を書いていただくタイミングが異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①対象者が15歳(中学生)の場合：調査実施前（＝問101を始める前）</li> <li>②それ以外：調査終了後（＝502の後）</li> </ul> </li> <li>⇒「調査のガイドライン」は対象者に渡してください。</li> </ul> </li> <li>・対象者の音声録音の際に、面接調査票を記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒郵送票・承諾書・面接調査票・録音の4点セットで完了扱いとなります。</li> </ul> </li> <li>・対象者が不在の場合は、日時を変えて<b>最低3回</b>訪問し、回収率を高めるように努めてください。多忙という場合は、都合のよい時間帯を伺って再訪問してください。</li> <li>・調査を行う際は、方言を使用せず、共通語で行ってください。</li> </ul>

スケジュール	<p>郵送調査票の発送： 11月 1日（火） 東京本社から投函</p> <p>※11月 1日（火） 鶴岡市報に本調査の実施について掲載</p> <p><b>調査期間：11月11日（金）～11月28日（月）</b></p> <p>※調査活動の前後に、NRC 本部に立ち寄ってください。</p> <p>活動前：資材の受け取り</p> <p>活動後：調査票（郵送票・面接票）・承諾書・音声データの4点セットを提出。</p> <p>（名簿への対象者情報転記・音声データの吸い上げ等を行います）</p>
監査	<p>調査終了後、お礼の意味も込めて、往復葉書を送付します。</p> <p>指示された方法で正しく調査を行って下さい。対象者の住所/氏名/生年月または年齢の確認してください。</p>
<p>個人情報・名簿・録音データの取り扱い</p> 	<p><b>*対象者名簿・地図・録音データは個人情報です。紛失しないよう十分気をつけてください。</b></p> <p>*名簿と地図は現地 NRC 本部で保管します。安全管理のために、対象者名簿の住所・氏名・生年月等の調査に必要な情報を、地図に転記してください。その際、転記ミスに気をつけてください。</p> <p>*地図も個人情報です。指定の地図フォルダーに地図をしっかりと留め、飛んだり抜け落ちたりしないようバッグに紐で括りつけ紛失しないよう気をつけてください。</p> <p>*万が一、紛失等生じた場合は、速やかに NRC 本部に電話連絡してください。</p> <p>*日本リサーチセンターはプライバシーマークを取得しております。</p> <p>プライバシーマークは、個人情報について十分な保護策を講じている企業・団体に対して(財)日本情報処理開発協会が認定しているマークです。</p>
担当者連絡先	<p>担当：鈴木（ほ）・吉川・吉田</p> <p>現地 NRC 本部：鶴岡ワシントンホテル</p> <p>電話番号：080-5898-7650</p> <p>現地本部管理者：11月11日（金）～18日（金）：鈴木（ほ）</p> <p>11月19日（土）～29日（火）：吉川</p>
名簿への記入	<p>対象者名簿は、NRC 本部で保管するため、地図の余白に訪問日時・接触者・完了不能区分等をメモし、調査終了後に NRC 本部にて転記してください。</p> <p>1) 訪問した日付・時間・接触相手・住居形態を対象者ごとに記入。</p> <p>※訪問日時は、訪問した日付・時刻まで記入する事！</p> <p>※「接触相手」は</p> <p><u>「A:本人」「B:家族」「C:その他」「D:不在」</u>の4つ。</p> <p>C:その他の場合は詳細を記入。 例) 近所の人、親戚</p> <p>※住居形態は、</p> <p><u>「1 一戸建て」「2 集合住宅（オートロックなし）」</u></p> <p><u>「3 集合住宅（オートロックあり）」「4 その他」</u>の4つ。該当する記号を記入。</p> <p>「4 その他」の場合は詳細を記入。 例) 寮、長屋</p>

	<p>2) 承諾書の有無・郵送票の回収有無の欄に○印をつける。</p> <p>3) 完了不能区分を忘れずに記入。</p> <p>※完了不能区分は、  <u>「1:面接完了」「2:転居」「3:長期不在」「4:一時不在」「5:住所不明」</u>  <u>「6:病気（障害・難聴・入院・老衰を含む）」「7:拒否（本人）」「8:拒否（家族）」</u>  <u>「9:接触不可能」「10:その他」</u>の10区分。</p> <p>《注意！》</p> <p>「9:接触不可能」：オートロックで入れない、管理人などに阻まれ調査不可能等の状態を指す。</p> <p>「10:その他」：その他の場合は詳細を記入してください。          なお、「死亡」の場合には「10:その他」を記入してください。</p>
Q & A	<p><b>Q： どこで私の名前を調べたのですか？</b></p> <p>A： 鶴岡市の許可をいただいて、住民基本台帳の閲覧リストより、ランダム(無作為)に選ばせていただきました。公益性が高く学術的にも有益な調査の場合は、市区町村に住民基本台帳の閲覧を申請し、閲覧が許可されます。</p> <p><b>Q： プライバシーは守られるのですか？</b></p> <p>A： はい、厳格に守られています。回答頂きましたご意見は全て〇〇と回答された方が〇%というような統計的数字にまとめますので、ご迷惑をおかけするようなことは絶対ございません。</p> <p><b>Q： 何で録音するのですか？</b></p> <p>A： この調査は、皆様が単語をどのように発音されるのかという点についても研究するため、後に研究者が聞き直しを行います。言語調査ですので、調査目的をご理解のうえご協力ください。</p> <p><b>Q： 調査の結果はどのようになっているのですか？</b></p> <p>A： 統計的に処理した結果は、基礎集計報告書（平成24年10月刊行予定；第一次報告書）として公表するほか、国立国語研究所のホームページでも公表。</p> <p><b>Q： 調査主体はどんな団体ですか？</b></p> <p>A： 国立国語研究所は、1948年以来、言葉の研究を行っている大学共同利用機関法人人間文化研究機構の機関です。言葉の研究を通じて人間文化に関する理解と洞察を深め、国語及び国民の言語生活並びに外国人に対する日本語教育に貢献する事を目的とし活動を続けております。</p> <p>統計推理研究所は、統計に関する理論と応用を研究する研究機関です。統計の応用の一分野として今回のような言語調査も実施しています。</p>

調 査 資 材	1. 調査要領（調査メモ 本紙）	1 部
	2. 対象者名簿（黄色・A3版）	1 部 ※NRC本部で保管
	3. 住宅地図	1 セット ※NRC本部で保管
	4. 調査票	サンプル数
	5. 提示カード	1 部
	6. 事前郵送挨拶状（見本）	1 部
	7. 郵送調査票（見本+予備）	10 部
	8. 面接調査票	サンプル数
	9. ガイドライン・承諾書	サンプル数
	10. 鶴岡市市報（見本）	1 部
	11. 謝礼（500 円図書カード）	サンプル数
	12. NRCパンフレット	サンプル数
	13. メッセージカード	1 セット
	14. 調査終了のおわび	1 セット（後日配布します）
	15. ICレコーダー	1 台
	16. 予備用電池	単4電池2本
	17. 住宅地図フォルダー	1 部
	18. OCR&交通費精算書	1 セット
	19. 完了報告書&アンケート	1 部

## 調査実施の際の注意事項

- 1) 録音開始直後に、必ず地点番号と対象者番号を読み上げ、録音してから面接調査を開始してください。
- 2) □NA（回答なし）は余白にその旨を記入すること。どうしても回答が出ない場合のみ記入すること。
- 3) 調査の結果、被調査者が昭和 25 年，昭和 46 年，平成 3 年のサンプルであることが判明した場合は，コードの末尾に⒫を書き加えること。
- 4) 面接調査実施前・後に承諾書を対象者に書いていただく必要があります。忘れずに持ち帰ってきてください。  
※承諾書には対象者の住所と氏名をご記入していただく欄があります。
- 5) 電話や来客があつて、調査が途中中断した時は録音を止めないでください。何分程度の中断だったのかを、調査票の最後にある(●ページ)メモ欄に記入をしてください。

### 《面接票の表紙について》

- ①No. 『名簿』および『調査員記録簿』に記載された地点番号（2桁）と対象者番号（2桁）を表紙右上の□の中に入力する。
- ②調査員 調査員名を□の中に入力する。
- ③001.～003 後のデータ整理に使用するので、記入しないでください。
- ④004. 調査が複数日にわたる場合は、調査を開始した日を記入する。
- ⑤005. 開始時刻は1分単位で記入。開始時刻を記入後、録音器の電池を確認して、録音状態にする。
- ⑥101. 対象者の生年月を地図を参考に\_\_\_\_に予め生年月を書き込んでおき、この101.でそれを確認する形で質問する

## 調査全般について

- (1) ICレコーダーはハンカチなどの上に置き、マイク部分を対象者に向けてください。
- (2) この調査は、調査開始から終了までを録音します。あとで研究者が聴き直しをして結果を記録しますので、被調査者の回答と自分の声が重ならないようにしてください。被調査者の回答と自分の声が重なった場合は「もう一度お願いします」などと言って、回答し直してもらってください。⇒ ビデオ
- (3) 調査項目は、①調査員が書き込む（○印を付ける等）項目と、②録音だけすれば良い項目に分かれます。①の質問は選択肢が二重枠で囲んでありますので、忘れずに記入してください（図 1）。②の場合は一番左に□があります。質問が終わったら、これにチェック（☑）を付けてください（図 2）。

図 1 記入する項目（二重枠）

<input type="checkbox"/>	201. 【絵】 ロ(クチ)	1. tʃ	2. z	9. [ ]
<input type="checkbox"/>	202. 【絵】 髭(ヒゲ)	1. ʃ	2. φ	9. [ ]
<input type="checkbox"/>	203. 【絵】 背中(セナカ)	1. s	2. ś, ʃ	9. [ ]

図 2 チェック欄

- (4) 調査項目は、(A)「カラス」「ネコ」「クチ」などの単語だけを答えてもらいたい質問項目と、(B)単語だけでなくても良い質問項目があります。調査票の指示に従ってください。(A)の質問では「カラスです」「ネコだ」「クチビル」といった回答が出てくることがあります。この場合は「“です”を取って発音してください」「“だ”を取って～」「“ビル”を取って～」などといって、必ず単語だけで答えてもらうようにしてください。⇒ ビデオ
- (5) なかなか回答が引き出せない場合は、提示リストの下にある文言（＝「2. 各質問についての注意など」）を参考に質問してください。

## <注意が必要な質問項目>

### <101. > 1 ページ

質問するときは、調査という感じを比較的薄くし、より自然に近い形で回答が得られるようにしてください。

### <201. ~231. > 2 ~ 3 ページ

- (1) 201.~231.は単語だけを答えてもらう質問です。単語だけを答えてもらってください。  
調査員は絶対に単語を言わないでください。
- (2) ①絵を見せて答えてもらう質問と、②絵が無く、なぞなぞのようにで答えてもらう質問があります。  
絵がない質問項目のリストは、調査員が読みあげる項目である。
- (3) 絵を使用する質問項目で、絵だけで回答が引き出せない場合は、調査票の注意書きのヒントを与えてください。  
⇒ ビデオ

### <241. ~271. > 4 ~ 6 ページ

- (1) 単語だけの回答でなくても良い質問です。
- (2) 2度読み上げてもなかなか質問の意図が伝わらない場合は、すべての選択肢を示して、使うか／使わないかを誘導して聞いてください。
- (3) 261.の「こども（弟・妹）」は、被調査者の年齢に合わせて適宜変更して質問してください。ここの「こども」とは、「自分のこども」という意味ではなく、「年齢の小さな子」という意味です。
- (4) 262.で「ワレワレ」という回答が出たら、「他の言い方はありませんか？」と尋ねてください。

### <301. ~303. > 5 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。  
302.で回答がなかなか引き出せない場合は、「1文字で言うと…」 「絵画のことを簡単に言うと」などのヒントを出してください。⇒ ビデオ
- (2) 303.で回答がなかなか引き出せない場合は、「ガラスの板」等のヒントを出すこと。

### <304. ~310. > 6 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。
- (2) 304.~310.は、質問が進むにつれて、質問の意図（＝標準語で発音）が忘れられ、自分自身の発音になってしまうことが予想されます。質問毎に「これも、標準語の発音です」などと言って答えてもらってください。

### <318. ~324. > 6 ~ 7 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。
- (2) 昔、おじいさんやおばあさんが使っていた発音で答えてもらう項目である。  
質問が進むにつれて、質問の意図（＝おじいさんやおばあさんが使っていた発音）が忘れられ、自分自身の発音になってしまうことが予想されます。質問毎に「これも、おじいさんやおばあさんが使っていた発音です」などと言って答えてもらってください。

### <325. ~331. > 7 ページ

- (1) 鶴岡でよく話をする親しい友達を思い浮かべてもらって質問します。
- (2) 文のかたちで自由に回答してもらう項目ですが、各質問文で下線を引いている部分を必ず入れて答えてもらってください。

**<501.～503.> 9～10 ページ**

- (1) 501.の調査終了時刻を記入しても、503.が終了するまでは録音を止めないこと！
- (2) 503.は、調査が終わったという安心感を対象者に与えた上で、道を尋ね、その答えが共通語であるか方言であるかを調査員が判定するものである。
- (3) 504.は調査全体の印象に従って判定し、その選択肢に○印をつける。
- (4) 505.の「積極的」などは対象者の調査に対する態度のことです。調査の途中で態度が変わった場合は、その推移に従って矢印でつないで示してください。
- (5) 504.以下は、対象者と別れてから後に記入する箇所です。対象者から見えない場所になったら、印象が薄くなる前にすみやかに記入をしてください。

**<メモ欄> 10 ページ**

- (1) 録音状況をできるだけ記入すること。例えば、犬の鳴き声がうるさかった等。
- (2) そのほか、調査員が感じたこと、メモに残して置きたいこと等、何を記入してもよい。



# 「第4回鶴岡市における言語調査」 結果の概要

2013年3月

 国立国語研究所

 統計数理研究所

# 1 章 山形県鶴岡市における共通語化調査とは

## 1. 調査の目的は？

国立国語研究所は昭和 23 (1948) 年の創立以来、日本各地で大規模な調査研究を行ってきました (図 1)。国立国語研究所の創成期に行われた調査は、東京都八丈島 (1949 年)、福島県白河市 (1949 年)、山形県鶴岡市 (1950 年) における「共通語化」をテーマとしたものでした。

当時、地域社会で生まれ育った人が共通語を使うことは珍しいことでした。しかし、地域で使われてきた方言も、共通語の影響を受けて、共通語に近づいていくと考えられます。これを共通語化と言います。地域社会のことがどのようによく共通語化するのか、共通語化を牽引するのはどのような人なのかといったことに学術的な興味がありました。その 3 つの調査の中で、後に複数回の調査を重ね、半世紀以上にわたることばの変化を追究することになるのが山形県鶴岡市における言語調査 (以下、鶴岡調査) です。約 20 年間隔で、1971 年に第 2 回調査、1991 年に第 3 回調査、2011 年に第 4 回調査を実施しました。鶴岡調査とはどのような調査なのかを説明し、これまでにどのようなことが分かったのかをご報告します。



図 1 国立国語研究所の国内の主な調査

## 2. 鶴岡市の選定理由

共通語化を調べる地域として、なぜ鶴岡市が選ばれたのでしょうか。まず、調査地を選ぶにあたって次のような基準をたてました。

1. (1950 年当時に) 共通語の影響しか受けていないと考えられる地域であること。
2. 著しい方言的特徴が数多く見られる地域であること。
3. 前年 (1949 年) に調査した福島県白河市と同じくらいの人口で、同じような社会状況であること。

1. の理由から、関西周辺などの地域は除外されます。関西周辺 (ないし関西以西) の地域は、共通語の影響も受けながら、関西のことばの影響も受けます。地元のことば、共通語、関西のことばの 3 つが複雑にからみ合って、共通語化の分析が困難になってしまうのです。ここから、関西のことばの影響を受けにくい東日本が候補となります。

東日本の中でも 2. のような方言的特徴が数多く見られる地域と言え、何と言っても東北地方でしょう。元々共通語に近いことばを話す地域を選んでしまうと、やはり共通語化の分析が難しくなってしまいます。このことから、候補地は東北地方に絞られました。

3. は調査結果の比較のためです。規模の違う地域では地域社会を取り巻く様々な状況が違って比較ができません。福島県白河市の調査で得られた知見が他の地域でも言えるかどうかを確認するために、同規模の地域を探しました。秋田県や山形県の複数の地域が候補地となり、最終的に選ばれたのが鶴岡市だったのです。

なお、鶴岡市と言っても、調査地は図 2 の橙色の枠で囲んだ地域に絞りました。1950 年当時、枠の外側の地域は田んぼで人が住んでいなかったからです。

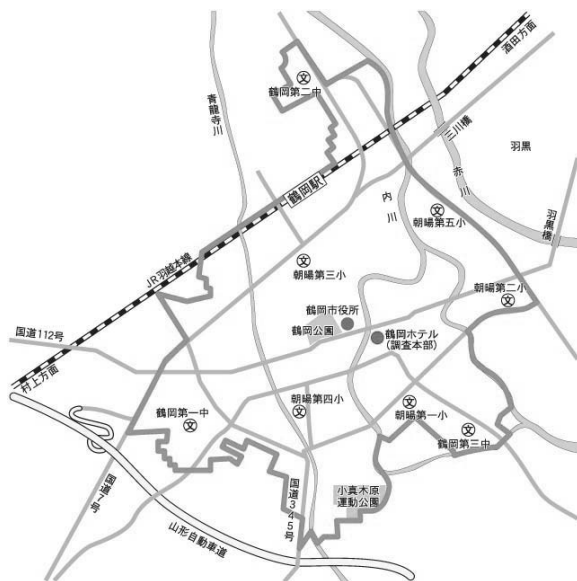


図2 鶴岡調査の調査範囲

### 3. 調査項目

伝統的に鶴岡で使われてきたことば（以下、鶴岡方言）は様々な点で特徴があります。かつて東北の方言はズーズー弁と呼ばれることがありました。発音に関する特徴をとらえた命名です。語彙の「ウルガス（水につける、ひたす）」「ジョサネ（簡単だ）」などや、文法の「東京サ行く」「泳ガイネ（泳げない）」等々、方言が非常に豊富です。そこで、表1のように、発音に関するもの（詳細は2章で説明します）と、語彙、文法などについて調べました。

調査では、調査員が調査協力者のお宅を訪問し、面接式のインタビューを行いました。また、第3回調査と第4回調査ではアンケートによる調査（言語生活調査）も加えて実施しています。

表1 鶴岡調査の主な調査項目

音 声	唇音性	I :「カヨウビ(火曜日)」 「スイカ(西瓜)」／II :「ヘビ(蛇)」 「ヒャク(百)」 「ヒゲ(髭)」
	口蓋化	「ゼイムシヨ(税務署)」 「セナカ(背中)」 「アセ(汗)」
	有声化	「マツ(松)」 「カキ(柿)」 「クツ(靴)」 「ハト(鳩)」 「ハタ(旗)」 「ハチ(蜂)」 「クチ(口)」 「ネコ(猫)」
	鼻音化	「オビ(帯)」 「マド(窓)」 「スズ(鈴)」
	中舌化	I :「チズ(地図)」 「スミ(墨)」 「カラス(鳥)」 「キツネ(狐)」 II :「シマ(島)」 「ウチワ(団扇)」 「チジ(知事)」 「カラシ(芥子)」
	イとエ	I「エキ(駅)」 「エントツ(煙突)」／II「イキ(息)」 「イト(糸)」
アクセント	「ネコ(猫)」 「ハタ(旗)」 「セナカ(背中)」 「カラス(鳥)」 「ウチワ(団扇)」	
語 彙	「いつも」「いらっしやい」「驚いた」「ずいぶん」「はずかしい」「もう(副詞)」 「留守番」「あげる」「つらら」	
文 法	「起きろ」「勉強しないで」「わたくしたち」「見に行く」「静かなら」「行くから」「行くけれども」「強かったなあ」	
その他	言語意識に関する項目、協力者に関する情報(出身地)など	

### 4. 調査対象者

鶴岡調査は2つの調査を組み合わせで実施してきました。ランダムサンプリング調査(以下、RS 調査)とパネル調査というものです。どちらも基本的に同じ質問・同じ方法による調査ですが、対象者が違います。

RS 調査は、ランダムサンプリング(無作為抽出)によって人を選びます(図3)。

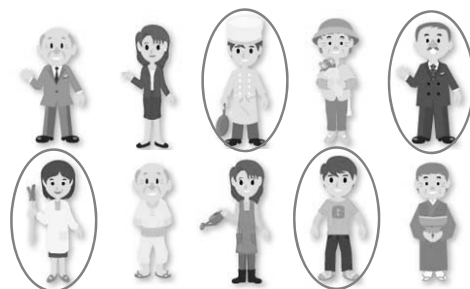


図3 ランダムサンプリングのイメージ  
(無作為に選びました)

いわば「くじ引き」によって人を選んでいるわけです。その理由は「鶴岡市の代表を選ぶため」と言うことができます。鶴岡市には様々な属性（年齢、職業、出身地など）を持った人が住んでいます。ある特定の属性を持った人だけを調べたのでは「鶴岡市民は○○である」と一般化して結論の述べることはできません。鶴岡市における共通語化を調べるためには、鶴岡市民の代表を選ぶ必要があります。代表を選ぶための科学的な方法がランダムサンプリングなのです。

一方のパネル調査は、過去の RS 調査にご協力くださった方に、再度調査にご協力いただくというものです。例えば図4のように、第1回調査から第4回調査までの4回連続でご協力くださった方ならば、少年時代からシニア世代までの約60年間の個人のことばの変化を知ることができます。

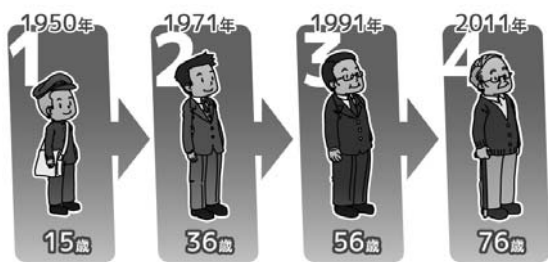


図4 パネルサンプルのイメージ

RS 調査とパネル調査にご協力くださった方々の人数は図5のようになります。

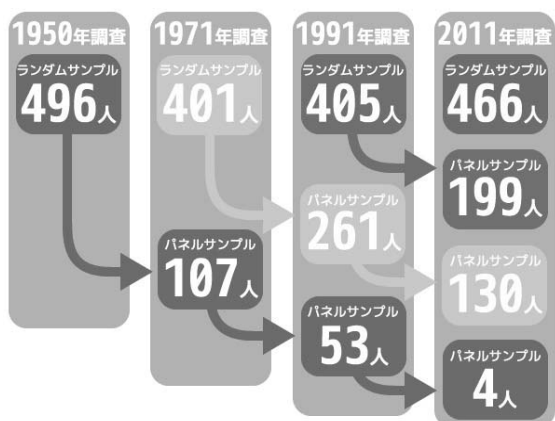


図5 鶴岡調査の調査協力者数

RS 調査では毎回 400 名を超える方々にご協力いただきました。また、パネル調査では4回

連続でご協力くださった方が4名、3回連続が130名、2回連続が199名いらっしゃいました。鶴岡市民のご協力なくしては、これだけの規模の調査を60年にわたって継続することはできませんでした。

## 5. 第4回調査の概要

第4回調査は、国立国語研究所と統計数理研究所の共同研究プロジェクトとして、下記のような要領で実施しました。

### ■ 調査期間

2011年11月～12月に本調査を実施しました。また、この期間にご都合がつかなかった方については、2012年1月～2月の補充調査でご協力いただきました。

### ■ RS 調査

鶴岡市旧市街に居住する15歳から79歳の男女700名を、住民基本台帳から等間隔抽出によって選定しました（第1回から第3回調査までは15歳から69歳が対象でしたが、今回は年齢範囲を10歳延長しました）。回収率は66.6%です。

### ■ パネル調査

鶴岡市役所に全面的な協力をいただき、第1回から第3回までの調査協力者を追跡し、所在の判明した方（437名）に調査を依頼しました。76.2%の方にご協力いただきました。

## 6. 調査で分かったこと

約20年間隔で4回継続してきた鶴岡調査では、鶴岡市における共通語化について、実に様々な知見を得て、研究成果をあげてきました。以降は、調査で得られた結果について、下記のような構成で紹介していきます。

- (1) RS 調査の面接調査（主に発音項目）から分かったこと【2章+3章】
- (2) RS 調査の言語生活調査（アンケート）から分かったこと【4章】
- (3) パネル調査から分かったこと【5章】

## 2章 鶴岡市における共通語化とバイリンガル化

### 1. はじめに

東北は方言が豊かだと言われます。語彙や文法もそうですが、東北弁らしさの代表格はやはり【発音】でしょう。そこで、調査結果の中から発音に関する結果を取りあげて報告することにします。

東北の方言には日本語の古い発音がたくさん残っています。例を挙げてみましょう（図1参照）。「ハ ヒ フ ヘ ホ」という音は「ha hi hu he ho」のように、子音（h）と母音（a i u e o）の組み合わせで成り立ちます。日本語の古い発音（上代以前）では、子音は「p」だったと考えられています。カタカナで発音を表記するなら「パ ピ プ ペ ポ」という発音だったと考えられているのです。この時代には、お母さんを意味する「ハハ」は「パパ」だったわけです。

平安時代くらいになると、「Φ」のような発音に変わりました。カタカナ表記すると「ファ フィ フ フェ フォ」となります。平安時代の文献に『後奈良院御撰何曾』というものがあります。後奈良天皇が収集・編纂したナゾナゾ集です。この中に「母には二度あひたれども、父には一度もあはず」というナゾナゾがあり、答えに「くちびる」と書いてあります。つまり、この時代の「母」の発音は「ファファ」なので上唇と下唇が2回つきます（出会います）が、父（チチ、ただし当時の発音はティティ）のときは唇が一度もつかない（出会わない）というわけです。現代の「ハハ」という発音であれば、唇は1度もつかないわけですから、このナゾナゾは現代では通用しなくなりました。

その後は複数の子音が使われるようになって、現代共通語では「ハ ヒ フ ヘ ホ」と発音するようになりました。ところが、東北には現代共通語では使用しなくなった古い「Φ」という発音が残りました。「髭（ヒゲ）」や「蛇（ヘビ）」という発音は、「フィゲ」「フェビ」のよう

に発音されるのです。

	は	ひ	ふ	へ	ほ
上代	p	p	p	p	p
↓	パ	ピ	プ	ペ	ポ
平安	Φ	Φ	Φ	Φ	Φ
↓	ファ	フィ	フ	フェ	フォ
現代 (共通語)	h	ç	Φ	h	h
	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ

図1 日本語のハ行子音の変遷

しかし、共通語の影響は避けられません。通信技術の発達などによって、地方に居ながらにして共通語に接する機会も多くなりました。その影響で方言が共通語に近づいていく「共通語化」という現象が起こります。

果たして、鶴岡市民の“東北弁らしい”発音はどのくらい共通語化したのでしょうか。1953年、1971年、1991年、2011年の4回の調査結果から、60年間にわたる変化を見ていきましょう。

### 2. 鶴岡市民の共通語化

鶴岡調査では次頁の表1のような語彙について調査しました。図2のようなイラストを見てもらい、「これは何ですか？」と尋ねたり、イラストに描けないものについては口頭でナゾナゾ式で尋ねました。

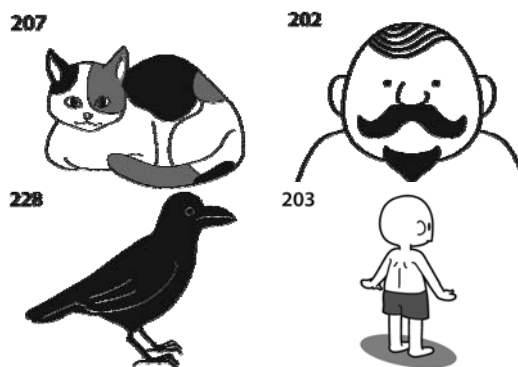


図2 調査で使ったイラスト（一部）

表 1 鶴岡調査の調査項目

分類名	調査の観点	調査語
唇音性Ⅰ	合拗音 kwa の有無	スイカ, カヨウビ
唇音性Ⅱ	ハ行における両唇音の有無	ヒゲ, ヘビ, ヒャク
口蓋化	「せ」「ぜ」における口蓋化の有無	セナカ, アセ, ゼイムシヨ
有声化	非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無	クチ, ハチ, ハト, ネコ, ハタ, クツ, カキ, マツ
鼻音化	非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無	マド, スズ, オビ
中舌化Ⅰ	ウ段音における中舌化の有無	チズ, スミ, カラス, キツネ
中舌化Ⅱ	イ段音における中舌化の有無	チジ, シマ, カラシ, ウチワ
イとエⅠ	語頭の母音エにおける狭母音化の有無	エキ, エントツ
イとエⅡ	語頭の母音イにおける広母音化の有無	イキ, イト
アクセント	共通語のアクセント型の実現／非実現	セナカ, ネコ, ハタ, カラス

この質問では、東京などから来た初対面の調査員が質問していますから、方言よりも共通語

の発音による回答が期待されます。下の図 2 がその結果です。

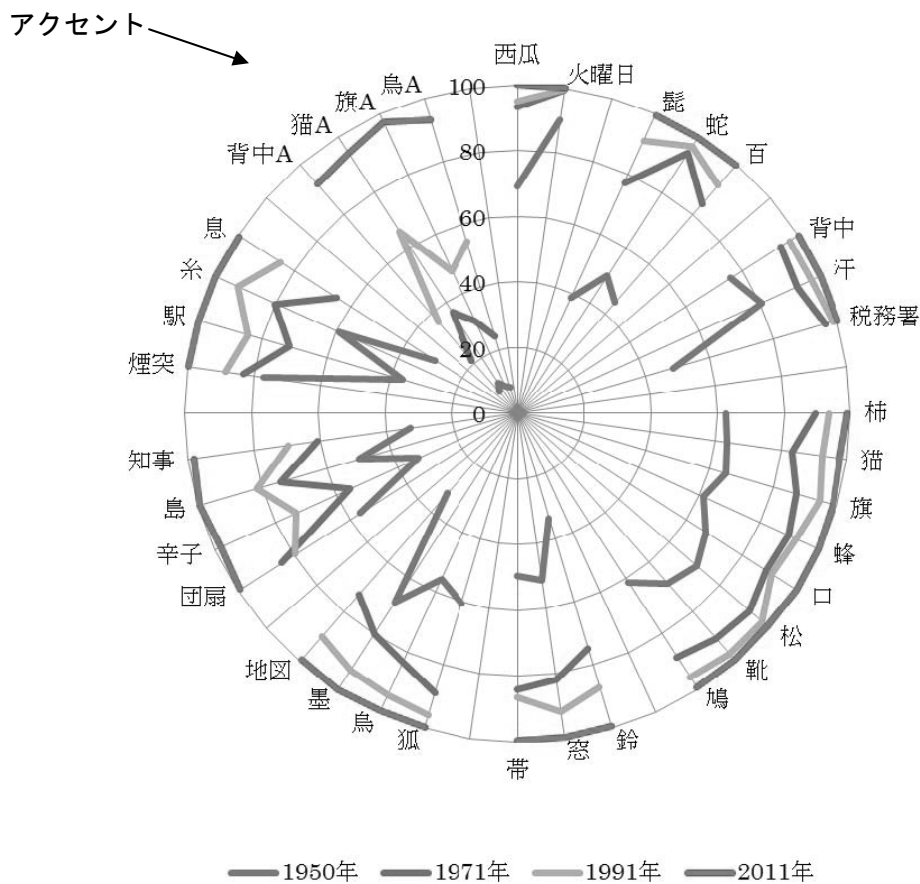


図 2 共通語で反応した比率

図2は、中心より外側に位置するほど共通語で回答する割合が高いことを示しています。調査回を重ねるごとに共通語での回答率が高くなり、第4回調査では、アクセントを除いて、ほぼ100%に近くなっています。鶴岡市民の多くが共通語を使うようになったのです。

年代別の結果も見てください。図3はカラスの共通語率を年代（10歳刻み）別にグラフ化したものです。スをシに近い音で発音するのが伝統的な方言です。

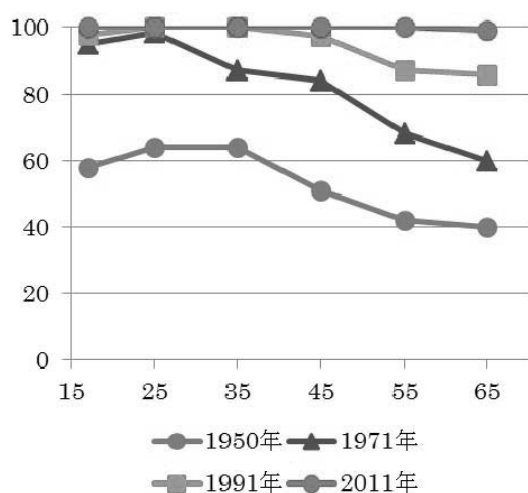


図3 カラスの共通語率（年代別）

調査回を重ねるごとに徐々に共通語率が高くなっていることが分かります。第2回調査が終わった後、私たちは年齢と共通語化の関係について図4のような予想をたてました。

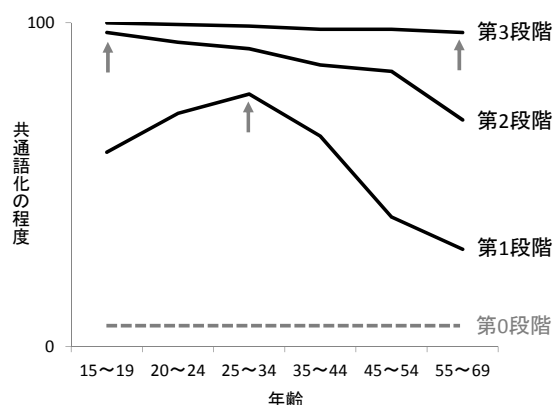


図4 年齢曲線の変化の予想モデル

まず第0段階として、(実際の調査結果では観察されていませんが) どの年層でも方言がよく使われ、共通語率が低い時代があったと考えられ

ます。次に調査結果に基づくと、25～34歳くらいの人が共通語をよく使用し、グラフが凸型を描く第1段階がきます。この年層が共通語化を牽引していたのです。そして10代・20代前半の人の共通語率が高まり、年齢が若いほど共通語率が高い第2段階をむかえます。第2回・第3回調査ではこの第2段階が確認できました。さらに将来は、年齢の高い人の共通語率も高まり、どの年層でも共通語率が高く、ほぼ直線を描くような第3段階がくるだろうと予想したのです。第3段階はいわば共通語化の最終段階と言えます。図3の結果は、まさにこの予想モデル通りに変化したことを示しています。この変化はカラス以外の多くの項目にも言えることです。つまり、鶴岡市における共通語化は最終段階に達したと言ってよいでしょう。

### 3. 方言の運用能力

鶴岡市民がよく共通語を使うようになったことが分かりました。だからと言って、鶴岡市民が方言を使えなくなったことを示しているわけではありません。しかし、そもそも鶴岡市民は伝統的な鶴岡方言を使えるのでしょうか。若い人は既に方言が使えなくなっているかもしれません。

そこで2011年の第4回調査では、方言の発音が真似できるかどうかを尋ねました。表1の語彙から下記の(A)～(F)を選んで、「昔、おじいさんやおばあさんが使っていた発音を真似して、できるだけ鶴岡弁らしく発音してみてください」と尋ねたのです。【 】内は鶴岡調査で注目してきた発音です。

- (A) ネコ【コをゴと発音するか、アクセントでコを高く発音するか】
- (B) ヘビ【へをフェのように発音するか】
- (C) イキ【イをエに近い音で発音するか】
- (D) エキ【エをイに近い音で発音するか】
- (E) カラス【スをシに近い音で発音するか】
- (F) ウチワ【チをツに近い音で発音するか】

結果（図5）を見てみましょう。

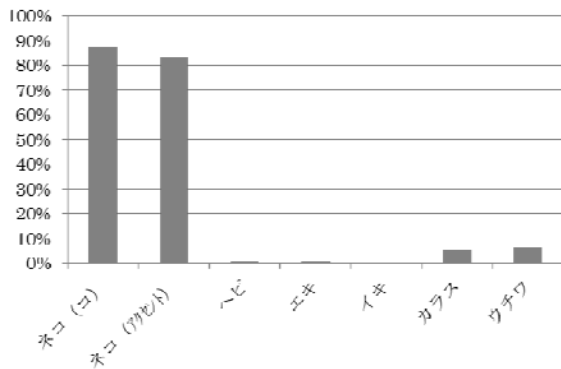


図5 方言／共通語の運用能力

この質問の結果は、年齢別に見ても大きな違いはありませんでした。若い人でも、(A)のネコのコをゴと発音して、伝統的な鶴岡方言を真似することができました。ネコのコを高く発音するというアクセントの結果も同様です。

その一方で、(B)～(F)については年齢の高い人でも真似できなくなっていることが分かります。このうち、「イキ」「エキ」「ウチワ」については、多くの人がキやチを濁音で発音して「イギ」「エギ」「ウヂワ」と発音していました。先の「ネゴ」の結果とも合わせると、「濁音を使う」という東北方言の特徴は、世代を超えてよく真似できていることになります。

#### 4. 今後の追及テーマはバイリンガル化

調査を始めた第1回調査当時、地域社会で生まれ育った人が共通語を使うことは珍しいことだったようです。方言と共通語を使い分けることができなかったからです。

確かに、方言が真似できなくなってきた（＝方言がなくなってきた）という調査項目もあります。方言を使わなくなるとするのは、少し寂しい気もします。しかし、濁音やアクセントについては、共通語でも発音できるし、方言でも発音できるようになって、両者を使い分けるようになりました。日本語と英語など、2つ以上の異なった言語を使い分ける人をバイリンガルと言います。方言と共通語を使い分ける鶴岡市民は、バイリンガルになったと言えるでしょう。

これまでの研究の関心は、方言がどのようにして、どのくらい共通語化するのか、どんな人が共通語化を牽引しているのかということでした。これからの研究は、方言と共通語のバイリンガルに焦点を当てることになりそうです。

ところで、発音以外に目を向けると方言はまだまだ健在です。「早く起きなさい」というときにどう言うかを尋ねると、オキレ（共通語はオキロ）という回答が多く得られました。「強かったなあ」に対する「ツヨイッケノー」「ツエッケノー」も同様です。また、鶴岡調査の結果ではありませんが、間投助詞のノー（シェバノーなど）や、①の読み方（マルイチではなくイチマルと読む）など、方言が日常生活の中でよく使われています。また、井上史雄氏の研究による新方言（ワガンネなど）のように、新たな方言を生み出してもいます。鶴岡で使われる方言には興味が尽きません。

最後に、図3と同じ結果を生年別に描いたグラフを示します。図3とは逆に、左側は年齢が高く、右側が若い人の結果です。

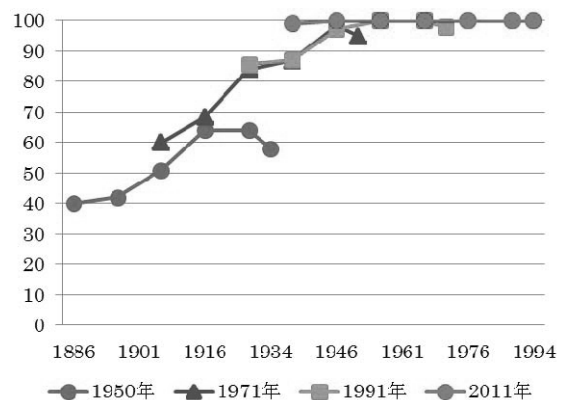


図6 カラスの共通語率（生年別）

同時期に生まれた人の回答結果は重なって、全体として一本につながっているように見えます。どうやら共通語率には生年が強く関係していそうです。同時期に生まれた人を出生コウホートと言います。次章ではコウホートに関する分析をみてみましょう。

（担当：阿部貴人）

### 3 章 鶴岡市における共通語化はどう進展したのか —コウホート分析～世代差・加齢・時勢の観点から—

#### 1. はじめに

鶴岡市における共通語化を捉えるためには、鶴岡市で生活している人の中で共通語を使う人がどの程度いるか、その割合（共通語率）を測り、共通語率が時代を経るにつれてどのように変化してきたかを見ます。鶴岡市に生活している人すべてを訪れて聴くわけにはいかないので、ランダムサンプリングという方法を使って対象者を選び、調査をし、設定した音声・アクセント項目について共通語で回答した対象者の割合を得ます。鶴岡調査は、1950 年来このような方法によって鶴岡市における共通語化を追究してきました。

図 1 に、2 章の 3 節で言及された(A)～(F)、項目としては 7 項目に、後に出てくる「鈴」を加えた 8 項目の共通語率の推移を示します。この図は、内容としては 2 章の図 2 の一部であり、同じ数値を表示したのですが、あらためて鶴岡市民“全体”についての半世紀以上にわたる共通語化の進展を印象づけます。

確かに、鶴岡市における共通語化は最終段階に達したといえるでしょう。このような社会全体としての変化は、個々の人が共通語を使うように変わっていかなくても起こります。生まれ育った歴史環境の違いによって、世代ごとに共通語率が異なれば、個人個人はずっと変わらなくても、世代交代によって社会全体は変化することになります。第 1 回～第 4 回の鶴岡調査に現れる世代は、1882 年生まれから 1996 年までにまで広がっていて、歴史環境としては明治から平成時代までをカバーしています。

もちろん、個々の人が共通語を話す方向に変わったことも十分考えられます。共通語化が、世代交代によるのか、個々人の変化によるのか、以下では、このことを明らかにする統計的な方法であるコウホート分析法の紹介と、鶴岡調査データを分析した結果について報告します。

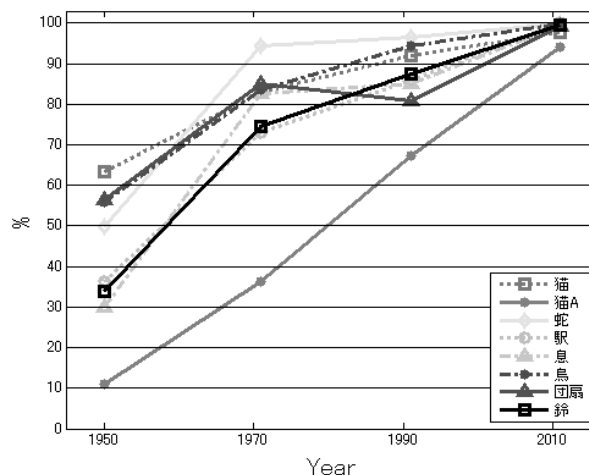


図 1 共通語率の推移（鶴岡 RS 調査、8 項目）

ここで、コウホートという言葉について簡単に説明しておきます。コウホート（cohort, コーホート、コホートとも書かれます）とは、語源的にはローマ時代の軍団の 1 単位のこと、転じて人口学・政治学・社会学などの分野で人生のある契機（出生、就職、結婚など）を同時期に経験した集団のことを指すようになりました。何も冠さなければ同時出生集団（birth cohort）を意味し、昭和ヒトケタ世代、団塊の世代というときの世代とほぼ同じ意味となります。

#### 2. 年齢・時代・世代効果を分けて考える

共通語化についてもう少し考えてみましょう。まず、先に述べたように世代ごとに共通語率が異なることは容易に想像が付きまします。生まれ育った歴史環境の違いにより生じる世代差を捉えたのが世代効果（世代差の大きさ）です。世代効果が大きいことがわかれば、個人は変化しなくとも世代交代によって社会全体は緩やかに変化したといえます。

つぎに、1950 年代から 70 年代にかけてのテレビジョンの普及を取り上げてみると、共通語化が年齢や世代を問わず進行したであろうこと

が思いつきます。その時々社会全体の変化を捉えたのが時代効果（時勢の影響の大きさ）です。時代効果が大きいことがわかれば、社会の個々人が同じように時勢の影響を受け変化したことがわかります。もちろん大きな社会環境の変化は、生育環境の変化でもあり（次世代との）世代差をもたらすこ

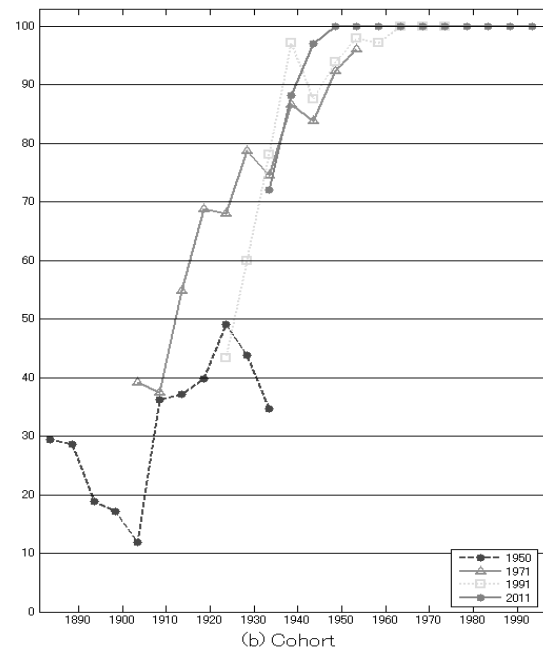
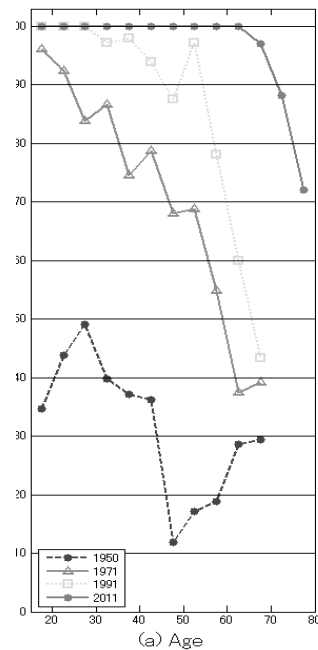


図2 「鈴 (スズ)」の共通語率の変化（第1回～第4回鶴岡RS調査。男女計。左パネル：年齢別、右パネル：出生年別）

とでしょう。

最後に、加齢と共通語化の関係です。たとえば、世代を問わず20歳台までは大都市志向が強く、共通語を取り入れやすく、一方中高年以降は鶴岡での生活が定着する、といったことを想像すると、加齢とともにいったん共通語率が上昇し、その後低下することが考えられます。このような傾向を捉えるのが年齢効果（加齢による変化の大きさ）です。年齢効果が大きいことがわかれば、個人は加齢につれ変化しますが、一方社会全体は比較的安定的であるということがいえます。

以上見てきたように、世代差・時勢・加齢要因の影響の程度（効果の大きさ）がわかれば、社会の変化（ここでは共通語化）のメカニズムに迫ることができ、将来の予測にもつながります。このような目的のために、鶴岡調査のような継続調査データから、年齢・時代・世代効果を統計的に分離するのが、コウホート分析と呼ばれる方法です。

図2に、コウホート分析が対象とするデータの1例として、鶴岡調査の音声項目から非鼻音化に分類される「鈴 (スズ)」の共通語率の変化を示します。データ自体は左右のパネル(a)(b)でまったく同じものですが、左は横軸に各調査時点の年齢を、右は出生年（コウホート）をと

って、4時点の結果を比較しています。左パネル(a)では、その時々年齢別の傾向と全体としての共通語率の上昇がわかり、右パネル(b)では、（多少の段差に目をつぶれば）コウホートが新しくなるにつれ共通語率が高くなり、世代ごとに共通語化が進んできた様子が見てとれます。なお、右パネルは、2章の図6と同じ趣旨です。

### 3. コウホート分析モデルとは

共通語率の変動には、3つの効果による変化だけでなく、サンプリングによる誤差も含まれます。統計モデルの力を借りる必要があります。

年齢階級別・調査時点別の共通語率を $\{P_{ap}\}$ とまとめて書くことにしましょう。 $a$ が年齢階級、 $y$ が調査時点を指します。共通語率の変動が、第 $a$ 年齢階級の効果、第 $y$ 調査年の効果、そして $a$ と $y$ で決まる（西暦年から年齢を引けば生年となります）第 $c$ コウホートの効果の和で表されると考えます。つまり

$$P_{ap} = (\text{第 } a \text{ 年齢階級効果}) + (\text{第 } y \text{ 調査年効果}) + (\text{第 } c \text{ コウホート効果}) + (\text{サンプリング誤差})$$

のように3つの効果と誤差の和で共通語率変動するとするのです。これがコウホート分析の

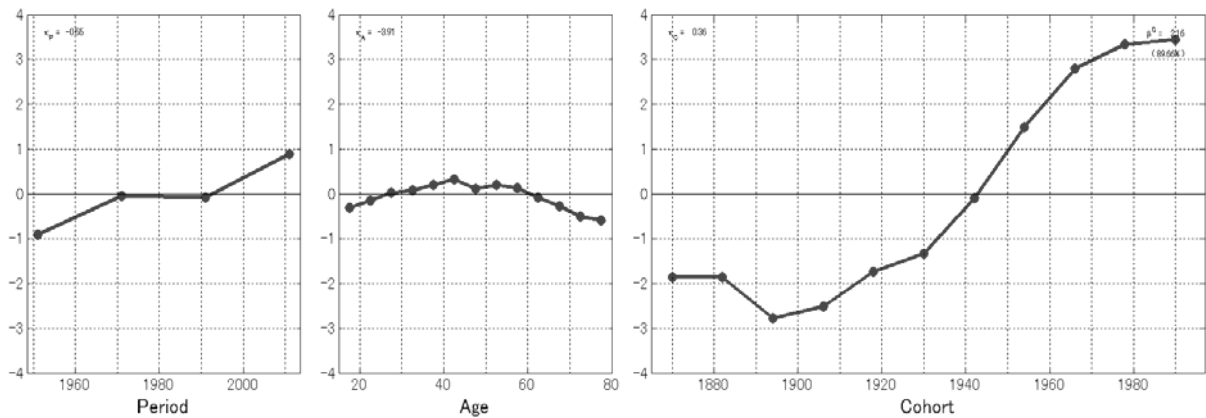


図3 「鈴 (スズ)」の共通語率のコウホート分析結果 (男女計。左パネル：時代効果，中央パネル：年齢効果，右パネル：世代効果)

モデルです。実際には，左辺は割合  $P_{ap}$  のログジット変換と呼ばれる  $\log P_{ap} / (1 - P_{ap})$  を使ったりますが，詳細はここでは省略します。

#### 4. 共通語化のコウホート分析結果

図3に，図2に示した音声項目「鈴 (スズ)」の共通語率のコウホート分析結果を示します。

「鈴」については，年齢・時代・世代効果があるとするモデルが得られました。図には3つのパネルがあり，左から順に，時代 (Period) 効果，年齢 (Age) 効果，世代 (Cohort) 効果をプロットしています。グラフの点が上にあるほど，共通語率が高いことを意味します。

まず図3右パネルの世代効果の変化幅が大きいことが見てとれ，図2右パネルでみたコウホートによる共通語化の進行の印象を裏付けてくれます。図3左パネルの時代効果も，1950 から1971 年への上昇が大きく，図2右パネルで目を

つづった段差を説明してくれます。パーセントでの変化は小さいですが，1991 年から2001 年への上昇もあります。3効果いずれについても2節で想像したような動きになっています。

鶴岡調査の音声・アクセント項目は全部で36項目ありますが，全項目のコウホート分析を通して「鈴」と同様に世代効果が支配的であり，続いて時代効果がかなりの項目で認められました。年齢効果が認められる項目は比較的少数でした。鶴岡市全体としての共通語化の進展は，第1に世代交代によっていたのであり，特に1950年代から1970年代の戦後の日本社会の変化が，また1990年代から今日へ変化が駆動していたと見るすることができます。

図4として，2章図6で取り上げた「烏 (カラス)」の結果も示しておきます。こちらは，年齢効果が認められませんでした。

(担当：中村 隆)

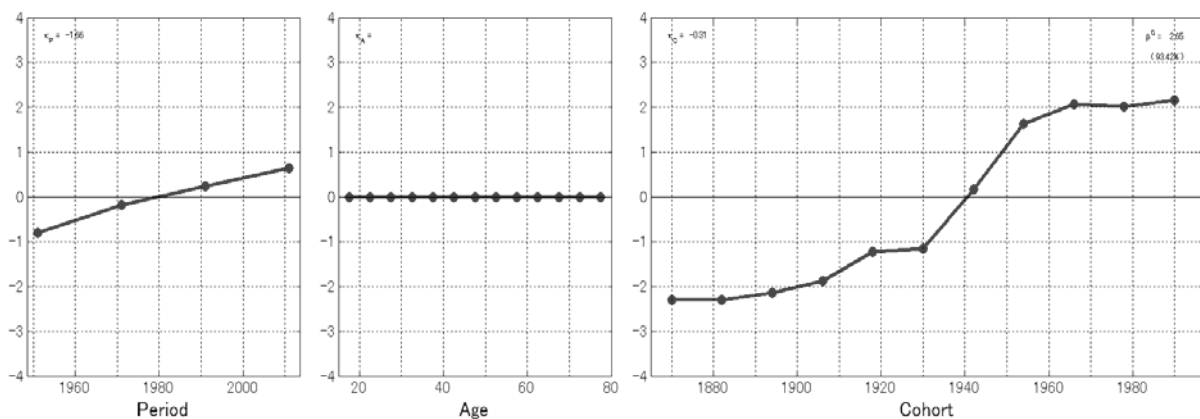


図4 「烏 (カラス)」の共通語率のコウホート分析結果 (男女計)

## 4章 鶴岡市民はどのような言語生活を送っているか —言語生活に関わる意識や行動に関わる調査項目から—

### 1. はじめに

2章では鶴岡市における音声の面で共通語化はほぼ最終段階に達したとの結果を述べました。そこでも述べられているように、「共通語化の最終段階」というのは、鶴岡方言が使われなくなったという意味ではなく、社会の成員のほとんどの人が（年齢を問わずに）共通語の音声を用いる能力を身につけた、という意味と理解いただきたいと思います。

ところで多くの皆様は、恐らく日常的には方言と共通語を使い分けているという風にお考えだと思います。このことについては、さまざまな角度から今後も検討を続けたいと考えていますが、第4回調査の中では、「言語生活調査票」という調査票（いわゆるアンケート）で、皆様がことばに関わる日常的な活動や考えをどのように捉えているかについてお答えいただきました。

ここでは共通語と方言の使い分けという項目を中心に、皆様のことばに関連する行動や意識について、全4回の調査の中からいくつかの側面の結果をご説明することにします。

### 2. 場面による共通語と方言の使い分け

本調査では、(a)「対家族」、(b)「対隣人」、(c)「対市民」、(d)「対旅人」という4つの場面で、共通語を使うか、方言を使うか、両方が混ざるかということをお伺いしています。質問の表現は正確には次の通りです：

問 38. 次の(a)～(d)のそれぞれの場面であなたが使うことばは、標準語ですか。それとも鶴岡弁ですか。あるいは標準語と鶴岡弁が混ざりますか。(a)～(d)のそれぞれについて○を付けてください。

(a) お家で家族の方たちといろいろな話をする時

(b) 近所の顔見知りの方と話をする時

(c) 鶴岡の人で顔見知りでない方と話をする時

(d) 観光客など旅の人などと話をする時

第4回調査では言語生活調査票の中で、それ以前の調査では面接調査の中でお聞きしました。このことの違いはさておき、過去4回の調査で場面別の使い分けがどのように変化してきたのかを図1～4で見てみましょう。

図は4つの場面ごとにそれぞれどの言葉をつかうかという回答を選んだ割合を、横軸には生年（10年刻み）をとって、調査回別に示したものです。生年は右ほど新しい世代を表しています。同じ選択肢には同じ記号と色を使ってグラフを描いており、左の折れ線から順に第1回、第2回、第3回、第4回の調査結果です。調査回毎の折れ線の中でみれば、横軸方向は年齢層の違いに相当します。1枚の図に4つの調査回と3つの選択肢を同時に示していますので、ちょっと見えにくい点をご勘弁いただくとして、大まかな傾向を捉えることはできるでしょう。

さてこの図1「対家族」によれば、第一回調査の頃は8割以上の方が方言で話すと考えていたのに、第2回、第3回、第4回と順次方言で話すと答える人の割合が減ってきているようです。代わりに勢力を伸ばしているのは、「共通語で話す」よりもむしろ「混ざる」のようです。

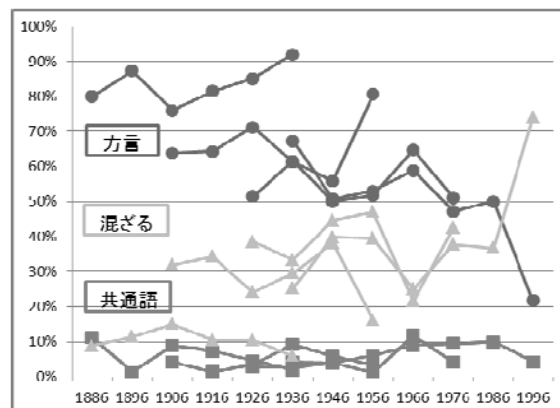


図1 「対家族」の場面で使われることば

またこの場面に関して最も変化が大きかったのは第1回と第2回調査の間であることがうかがわれます。

この傾向は図2の「対隣人」場面でも類似しています。ただし対隣人場面では、対家族場面に比べて近年の調査で新しい世代に「共通語」という回答が増加する傾向が見られるようです。

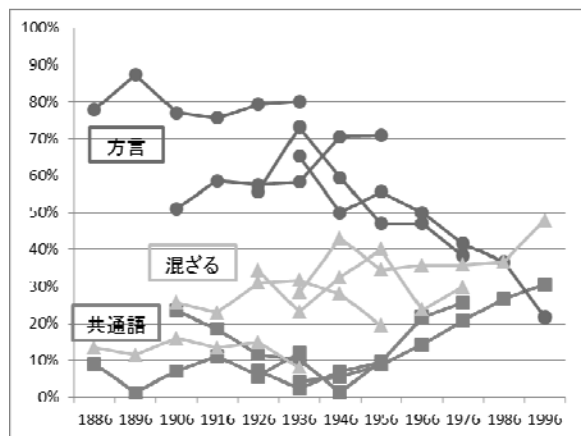


図2 「対隣人」 場面で使われることば

以上は内輪意識の強い場面での話し方ですが、それよりもややよそゆきの姿が出ると思われる「対市民」と「対旅人」の場面ではどうでしょうか。図3は線が重なってやや見えにくくなっていますが、方言を使う方は調査回を追って、また世代が新しくなるにしたがって減って現在では少数派になり、共通語を使うか混ざる方が勢力を伸ばしています。共通語を使う方と混じる方は、現在ではほぼ同程度と見てよさそうです。

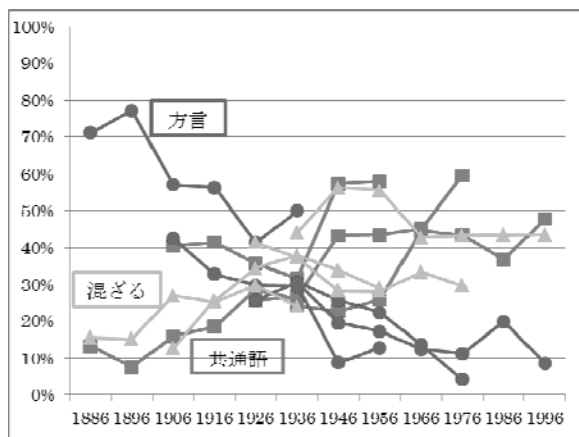


図3 「対市民」 場面で使われることば

更に「対旅人」の場面では、共通語を使う人が勢力を伸ばして、第3回調査以降は多数派となりました。

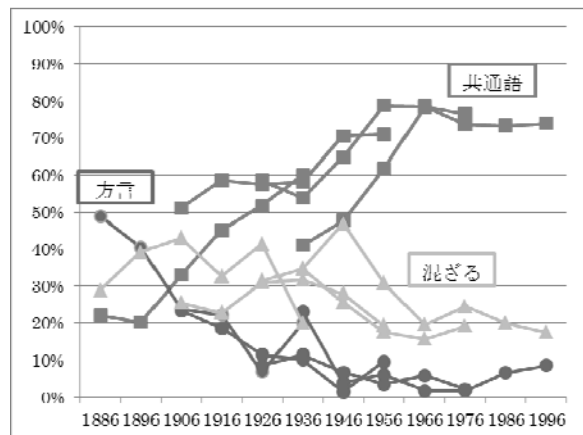


図4 「対旅人」 場面で使われることば

以上のような結果はおそらく鶴岡で暮らしている皆さんの実感に合っているのではないでしょうか。

### 3. 鶴岡の方言や庄内の文化についての意識

言語生活調査票の中では、他にも鶴岡方言や庄内地方の文化についての意見をお聞きしました。紙幅の関係で詳細な結果は紹介できませんが、「庄内が好きですか」という質問に8割以上の方が「好き」と答え、「鶴岡の方言は鶴岡の大事な文化だから、使い続けるべきだ」という意見に賛成の人が9割以上という結果があります。後者の質問は第2回調査の時から結果に大きく変わりはなく、鶴岡方言が市民に愛され続けている様子がうかがわれます。他方、ことばには限らない生活の様式については、長い間作り上げてきた鶴岡での暮らし方にこだわるよりも、「新しい生活の仕方を取り入れて、生活を合理的にする」という意見の人が多数派で、その割合も少しずつ増えてきています。

このような生活の変化への志向と伝統を守る意識が併存する中で、鶴岡市民が今後、どのように方言と共通語を使い分けていくのか、ということが今後の重要な研究テーマになると考えています。

(担当：前田忠彦)

## 5章 「ことば」の生涯変化を追う

### アクセントと発音の共通語化に関するパネル分析

#### 1. はじめに

山形県鶴岡市における「ことばの調査」は共通語化の研究を目的にしています。そこでは、同一人物を追跡する調査（以下、「パネル調査」と呼びます）もおこなってきました。パネル調査のイメージを図1に示します。

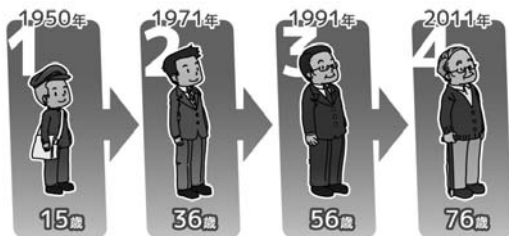


図1 パネル調査（追跡調査）の例

たとえば、Aさんという人が、1950年（昭和25年）におこなわれた第1回の共通語化調査を15歳で受けたとします。21年後の1971年（昭和46年）に第2回調査が実施された時、Aさんは36歳でした。また20年後の1991年（平成3年）に第3回調査がおこなわれ、Aさんは56歳でした。さらに20年後の2011年（平成23年）に第4回調査があり、Aさんは76歳になりました。

このAさんが1950年（昭和25年）から2011年（平成23年）までに実施された4回の調査をすべて受けたとすると、15歳から76歳までの61年間の生涯にわたる共通語化のデータが得られたことになります。

このように、数十年間もの長い期間にわたって同じ人から集めた「ことば」のデータは世界的にもたいへん珍しく、貴重です。

#### 2. パネル調査データから分かったこと

1950年から1991年までの41年間におこなわれた3回の調査にすべて参加した人は男女あわせて53名です。この53名のみなさんから得たデータ

を分析した結果を紹介しましょう。まず、分析方法と結果の一部を説明しておきます。

#### 方 法

分析の観点には「調査年」と「性差」の2つに絞りました。調査年は1950年、1971年、1991年の3つに区分できます。性差は男性、女性の2つに区分できます。

まず、アクセント（音の高低）のデータを整理しました。「セナカ、ネコ、ハタ、カラス、ウチワ」の5項目のうちアクセントが共通語と同じものがいくつあるかを53名の一人一人について調べて数えました。それを共通語化得点（0～5点）と呼びます。

たとえば、図1に登場したAさんは1950年にはアクセントが共通語と同じ発音で答えたものが「ネコ」だけだったとすると、1950年の共通語化得点は1点になります。1971年は「ネコ、カラス」の2項目のアクセントが共通語と同じだったとすると、1971年の共通語化得点は2点です。1991年は「ネコ、ハタ、カラス」の3項目が共通語と同じアクセントだったとすると、1991年の共通語化得点は3点になります。このようにして、Bさん、Cさん、などについてもアクセントの共通語化得点を求めました。

アクセントとは別に発音（例：「ネコ」か「ネゴ」か、共通語発音は前者）についても、同じようにして共通語化得点を整理しました。

#### 結 果

##### ■1950年～1991年の3回のパネル

前にも言いましたが、第1回調査から第3回調査まで3回にすべて参加した人は53名（男性29名、女性24名）でした。以下に分散分析という方法で解析した結果を示します。

## ☆アクセント（音の高低）

図2はアクセントの共通語化得点の平均値を、男女別ならびに調査年別にグラフ化したものです。このグラフから以下の情報が読み取れます。

1. グラフは全体的に右肩上がりのパターンになっています。つまり、共通語化得点は1991年の方が1950年よりも高いという結果が出ました。これは調査年が新しいほどアクセントの共通語化が進むことを示唆しています。
2. グラフを見ると男性と女性で共通語化得点に差があるように感じます。が、男女の間に統計的に意味のある差はありませんでした。

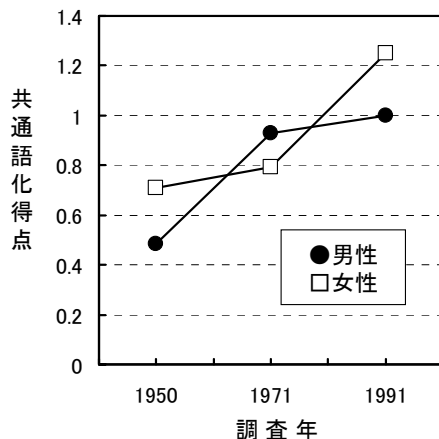


図2 アクセント共通語化得点の平均値

## ☆発音

図3に発音の共通語化得点の平均値を示しました。このグラフから読み取れる情報は以下のようになります。

1. グラフは全体的に平坦、あるいは男性などは右肩下がりのパターンに見えます。発音の共通語化得点は1991年の方が1950年よりも低くなり、調査年が新しいほど方言化することが明らかになりました。これはアクセントの生涯変化の方向とは逆になっています。
2. また、女性が男性よりも共通語化得点が高いことも分かりました。

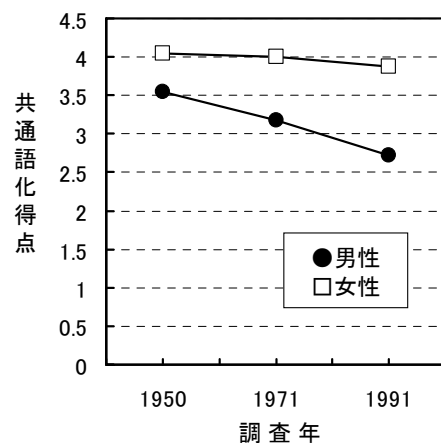


図3 音韻共通語化得点の平均値

## まとめ

ほかにも、いろいろな分析をおこないました。それらの結果を総合すると次のようになります。

- アクセントは同じ人のなかで、ゆっくりとではあるが、生涯を通じて着実に共通語化していくことが明らかになりました。
- 一方、発音は同じ人のなかで、生涯を通じて方言化していく傾向があることが分かりました。その傾向には男女差があり、男性の方が顕著なようです。

これまでは、時間経過とともに日本全国で共通語化が進むと考えられてきました。しかし、同一人物の「ことば」の生涯変化を40年間の時間経過にそってじっくりと観察してみると、男性の発音は方言化することが分かりました。もちろん、日本社会全体をながめてみると、発音とアクセントの両者が共通語化していくことは明かです。ただし、それは若い世代の人口が増えていた時代の現象なのかもしれません。これからの少子高齢化社会においては、地域社会の日本語の発音は方言への「ゆりもどし」が生じるのではないか、そのような予測を鶴岡市の「ことばの調査」から導き出せるのかもしれません。

今後は鶴岡市の言語データから、さらに豊かな情報を抽出できる解析法の開発に統計数理研究所と国立国語研究所は取り組んで参ります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(担当：横山詔一)

## 「第4回鶴岡市における言語調査」結果の概要

編集：国立国語研究所・統計数理研究所

発行：2013年3月1日



本資料は、国立国語研究所と統計数理研究所の鶴岡調査担当の下記メンバーが作成しました。

国立国語研究所 横山詔一，米田正人

統計数理研究所 阿部貴人，中村 隆，前田忠彦

本資料の内容に関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

統計数理研究所（調査科学研究センター，前田研究室）

電話：0120-961-179（フリーダイヤル）

国立国語研究所（鶴岡調査担当，横山研究室）

電話：042-540-4614

E-MAIL: [tsuruoka-chosa@googlegroups.com](mailto:tsuruoka-chosa@googlegroups.com)



「鶴岡市における言語調査」研究グループ編

**第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の  
概要 資料編：第1分冊「音声・音韻」編**

発行：統計数理研究所  
〒190-8562 東京都  
立川市緑町 10-3

国立国語研究所  
〒190-8561 東京都  
立川市緑町 10-2

発行日：平成 26(2014)年 3 月 31 日

印刷：株式会社ノマド